

令和2年度
福岡県学力調査
調査結果報告書

国語

算数・数学

子どもを信じて

～日常的・組織的な「授業改善」のために～



令和3年3月
福岡県教育委員会

本報告書作成に当たって

これまで、全国学力・学習状況調査や本県独自の福岡県学力調査の結果を基に、本県の教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校や市町村（学校組合）教育委員会（以下、市町村教育委員会。）における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てることを目的として報告書を作成してきました。

本年度の報告書は、全国学力・学習状況調査が、新型コロナウイルス感染症による影響等を踏まえて実施取りやめとなったため、令和2年度福岡県学力調査の結果に加え、これまでの全国学力・学習状況調査の結果を新たな視点で分析するとともに、本年度の新型コロナウイルス感染症による影響等を踏まえた学びの保障としての取組状況をまとめ、以下のような構成としました。

＜第1章＞ 令和2年度福岡県学力調査結果

- ・ 平均正答率と期待正答率との差、令和元年度3学期に学習指導が計画されていた内容に関する問題の結果、記述式問題における無解答率、四分位層に着目した分析等をまとめています。

＜第2章＞ 過去5年（H27～R1）の全国学力・学習状況調査結果に着目した分析と学力向上の取組

- ・ 過去5年の全国学力・学習状況調査結果を基に、各学校の一定期間の伸び具合を数値化し、各学校の中期的な取組状況の成果を把握するため、分析等を行っています。

＜第3章＞ 「未来への一歩」と「動画コンテンツ」を活用した学力向上の取組

- ・ 小学校算数「数と計算」と中学校数学「数と式」の各単元において、児童生徒一人一人のつまづきをきめ細かく把握し、解決の方法を理解できるようにするために作成した「未来への一歩」と新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休業等を受けて作成した「動画コンテンツ」を活用した学力向上の取組についてまとめています。

＜第4章＞ まとめと今後の方向性

- ・ 第3章までの分析等を基に、本県の学力向上のための課題と今後の方向性を示しています。

本年度は、「子どもの力を信じて」をテーマとして掲げ、県教育委員会と市町村教育委員会、学校が一体感をもって、学力向上の取組を進めて参りました。

各市町村教育委員会及び学校におかれましては、本報告書の内容と併せて独自の分析等を基にして、教育施策や教育活動の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てていただくようお願いします。

令和2年度 福岡県学力調査 調査結果報告書

目 次

第1章 令和2年度 福岡県学力調査結果

I 調査の概要	1
1 調査の目的	
2 調査の対象学年	
3 調査の教科	
4 調査の内容	
5 実施期間	
6 調査を実施した県内公立学校・児童生徒数	
7 調査問題の内容	
II 調査結果の概要	3
1 平均正答率、平均正答率と期待正答率との差	
2 領域別の平均正答率、平均正答率と期待正答率との差	
3 学力層〔四分位層〕に着目した分析	
4 令和元年度3学期に学習指導が計画されていた内容に関する問題の結果	
5 記述式問題における平均正答率と無解答率	
III 各学年・教科の調査結果	10
1 小学校第5学年国語	
2 小学校第5学年算数	
3 中学校第1学年国語	
4 中学校第1学年数学	
5 中学校第2学年国語	
6 中学校第2学年数学	
IV 令和2年度福岡県学力調査問題を活用した授業改善のための指導資料	16
○ 小学校第5学年【国語】 1 の三、 4 の三	
○ 小学校第5学年【算数】 4 の(3)、 5 の(3)	
○ 中学校第1学年【国語】 1 の三、 3 の三	
○ 中学校第1学年【数学】 4 の(2)、 5 の(2)	
○ 中学校第2学年【国語】 3 の二、 4 の三	
○ 中学校第2学年【数学】 2 の(3)、 4 の(2)②	

第2章 過去5年（H27～R1）の全国学力・学習状況調査結果に着目した分析と 学力向上の取組

I 過去5年における標準化得点の伸び	41
1 分析の目的	
2 分析の方法	
3 県全体における学校別の状況	
4 各地区における学校別の状況	
（1）小学校第6学年	
（2）中学校第3学年	
II 児童生徒質問紙調査結果から見た各区分の特徴	45
1 分析の目的	
2 分析の方法	
3 小・中学校の状況	

Ⅲ 学力向上に結び付く小・中学校及び教育委員会の取組・・・・・・・・・・・・・・・・ 49

【小・中学校】

<授業改善>

- 事例1 「1単位時間における『めあて』と『振り返り』を重視した授業改善」----- (北筑後地区A小学校)
- 事例2 「学力向上虎の巻(京築教育事務所作成)を活用した授業改善」----- (京 築地区B小学校)
- 事例3 「ピンチをチャンスに捉えた組織的・持続可能な学力向上の取組」----- (筑 豊地区C中学校)

<人材育成>

- 事例4 「授業力向上を目指した組織的な研修による人材育成」----- (北九州地区D小学校)
- 事例5 「ミドルリーダーと若年教員による研究推進を基盤とした人材育成」----- (京 築地区E中学校)

<学校のマネジメント>

- 事例6 「管理職のマネジメントによる学力向上を図る組織的取組」----- (北筑後地区F小学校)
- 事例7 「学校の教育理念【G中ACTION】の浸透・徹底による教育活動の展開」----- (福 岡地区G中学校)

<その他：個に応じた指導、学力基盤づくり、非認知的能力の育成、家庭学習等>

- 事例8 「『個別の学習ファイル(個人カルテ)の活用』による個に応じた指導の充実」-- (福 岡地区H小学校)
- 事例9 「特別活動の本質を踏まえた学級活動と各教科を往還させる
カリキュラム・マネジメント」----- (南筑後地区I小学校)
- 事例10 「『自己更新プロジェクト』による学力向上に向けた基盤づくり」----- (筑 豊地区J中学校)
- 事例11 「自主的・自律的に学びに取り組む生徒を育てる学力の基盤づくりの取組」----- (福 岡地区K中学校)
- 事例12 「授業と家庭学習をつなぐ『ドリムノート』の活用」----- (南筑後地区L中学校)

【教育委員会】

<授業改善>

- 事例13 「小・中学校一貫した授業スタイルの確立」----- (北筑後地区ア教育委員会)

<小中連携>

- 事例14 「教育委員会のリーダーシップによる小中連携した検証改善」----- (北九州地区イ教育委員会)
- 事例15 「学力向上スタンダード等による小中9年間を見通した学力向上」----- (福 岡地区ウ教育委員会)

<ICT活用>

- 事例16 「21世紀にふさわしい学びの環境とICTを活用した授業づくりの推進」- (北筑後地区エ教育委員会)
- 事例17 「授業改善・学力向上に向けたICT機器活用の取組」----- (南筑後地区オ教育委員会)
- 事例18 「ICT教育機器の整備と連動した計画的・段階的な教員研修の実施」----- (筑 豊地区カ教育委員会)

<教員研修>

- 事例19 「キ町校内研修交流システムの活用」----- (京 築地区キ教育委員会)

Ⅳ 令和2年度全国学力・学習状況調査問題を活用した授業改善のための指導資料 ・70

- 小学校第6学年【国語】

1

の三、

2

の二
- 小学校第6学年【算数】

1

の(5)、

3

の(2)、

4

の(2)
- 中学校第3学年【国語】

1

の三、

3

- 中学校第3学年【数学】

6

の(2)、

7

の(3)、

8

の(3)

第3章 「未来への一歩」と「動画コンテンツ」を活用した学力向上の取組

I 「未来への一歩」を活用した学力向上の取組・・・・・・・・・・・・・・・・ 91

- 1 取組の背景とねらい
- 2 研究協力対象校
- 3 取組の概要
- 4 「未来への一歩」の活用方法
- 5 「未来への一歩」の取組における調査結果(6月実施)分析結果

II 「未来への一歩」を活用した学力向上の取組事例・・・・・・・・・・・・・・・・ 97

- 事例1 北筑後地区 あ小学校
- 事例2 筑 豊地区 い小学校
- 事例3 南筑後地区 う中学校

III 学習支援用動画コンテンツ「Step to the Future」・・・・・・・・・・・・・・・・ 99

- 1 取組の背景とねらい
- 2 内容等
- 3 動画コンテンツの活用方法例

第4章 まとめと今後の方向性・・・・・・・・・・・・・・・・ 105

第1章 令和2年度 福岡県学力調査結果

I 調査の概要

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、県内各地域における児童生徒の学力の状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各市町村（学校組合）教育委員会、学校が自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルの維持・向上を支援する。
- (3) 各学校が、児童生徒の学力の状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査の対象学年（指定都市を除く。）

- 公立の小学校第5学年、義務教育学校前期課程第5学年、特別支援学校小学部第5学年
 - 公立の中学校第1・2学年、義務教育学校後期課程第1・2学年、中等教育学校前期課程第1・2学年、特別支援学校中学部第1・2学年
- ※ 当該学年における当該教科の目標及び内容に準じて指導を受けている場合は、原則として調査の対象とする。

3 調査の教科

- 小学校第5学年、義務教育学校前期課程第5学年、特別支援学校小学部第5学年
国語、算数（1教科45分で実施）
- 中学校第1・2学年、義務教育学校後期課程第1・2学年、中等教育学校前期課程第1・2学年、特別支援学校中学部第1・2学年
国語、数学（1教科50分で実施）

4 調査の内容

それぞれの学年・教科に関して、以下の「主として『知識』に関する問題」及び「主として『活用』に関する問題」を一体的に問う。

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
<ul style="list-style-type: none">・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容など

5 実施期間

令和2年9月1日（火）～9月25日（金） ※各学校で任意の1日を実施日とする。

※ 本年度は、新型コロナウイルス感染症による臨時休業等の影響を踏まえて実施時期等を変更

6 調査を実施した県内公立学校・児童生徒数

○ 小学校

学年	学校数 (校)	児童数 (人)	
		国語	算数
第5学年	451	23,121	23,139

○ 中学校

学年	学校数 (校)	生徒数 (人)	
		国語	数学
第1学年	210	22,524	22,534
第2学年	211	21,587	21,577

※ 学校数は、分校を含む。

7 調査問題の内容

○ 調査範囲等

- ・ 原則として、当該学年の前学年までの指導事項とする。
- ・ 各教科の問題は、主として「知識」に関する問題及び主として「活用」に関する問題を一体的に問う。問題数は下表のとおりである。

	小学校第5学年		中学校第1学年		中学校第2学年	
	国語	算数	国語	数学	国語	数学
主として「知識」に関する問題	9	5	9	5	10	5
主として「活用」に関する問題	9	12	9	11	10	12
問題数合計	18	17	18	16	20	17

○ 設問（解答）形式

「選択式」、「短答式」及び「記述式」の3形式とする。

* 選択式：選択肢から選ぶ（基本は4択）問題。

* 短答式：語句などを答える問題。グラフや図を描く問題も含む。

* 記述式：文で答える問題。考え方の筋道を図や式で答える問題も含む。

なお、形式ごとの問題数は下表のとおりである。

	小学校第5学年		中学校第1学年		中学校第2学年	
	国語	算数	国語	数学	国語	数学
選択式	6	5	7	3	12	2
短答式	9	8	8	9	3	11
記述式	3	4	3	4	5	4
問題数合計	18	17	18	16	20	17

Ⅱ 調査結果の概要

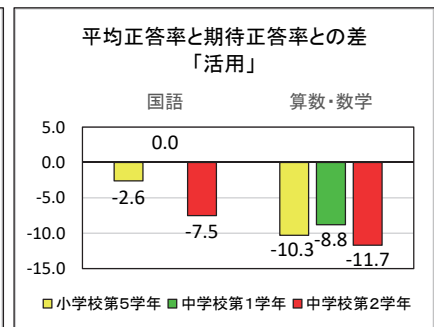
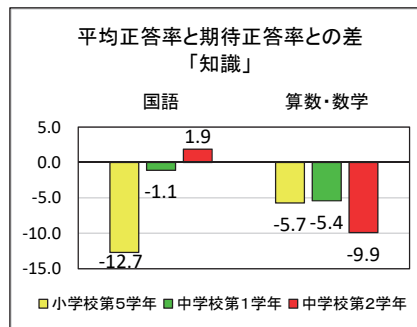
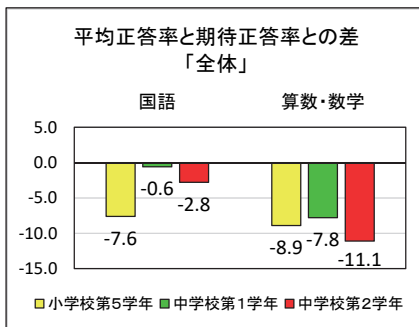
1 平均正答率、平均正答率と期待正答率との差

			全体			知識			活用		
			平均正答率(A)	期待正答率(B)	期待正答率との差(A-B)	平均正答率(A)	期待正答率(B)	期待正答率との差(A-B)	平均正答率(A)	期待正答率(B)	期待正答率との差(A-B)
国語	小学校	第5学年	54.6	62.2	-7.6	54.0	66.7	-12.7	55.2	57.8	-2.6
		中学校	第1学年	61.1	61.7	-0.6	66.1	67.2	-1.1	56.1	56.1
	第2学年		58.2	61.0	-2.8	70.4	68.5	1.9	46.0	53.5	-7.5
算数 数学	小学校	第5学年	55.2	64.1	-8.9	65.3	71.0	-5.7	51.0	61.3	-10.3
		中学校	第1学年	57.8	65.6	-7.8	70.6	76.0	-5.4	52.1	60.9
	第2学年		47.7	58.8	-11.1	60.1	70.0	-9.9	42.5	54.2	-11.7

※ 桃色のセルは期待正答率以上、薄い水色のセルは期待正答率未満、濃い水色のセルは期待正答率を10ポイント以上下回るもの。

平均正答率：平均正答数を設問数で割った値の百分率。

期待正答率：設問別の正答することが想定される児童生徒の割合を、全設問について平均した値の百分率。



○ 期待正答率以上の学年・教科

【中学校第1学年 国語】：「主として『活用』に関する問題」において、期待正答率と同値であった。

【中学校第2学年 国語】：「主として『知識』に関する問題」において、期待正答率を1.9ポイント上回った。

● 期待正答率を10ポイント以上下回る学年・教科

【小学校第5学年 国語】：「主として『知識』に関する問題」において、期待正答率を12.7ポイント下回った。

【小学校第5学年 算数】：「主として『活用』に関する問題」において、期待正答率を10.3ポイント下回った。

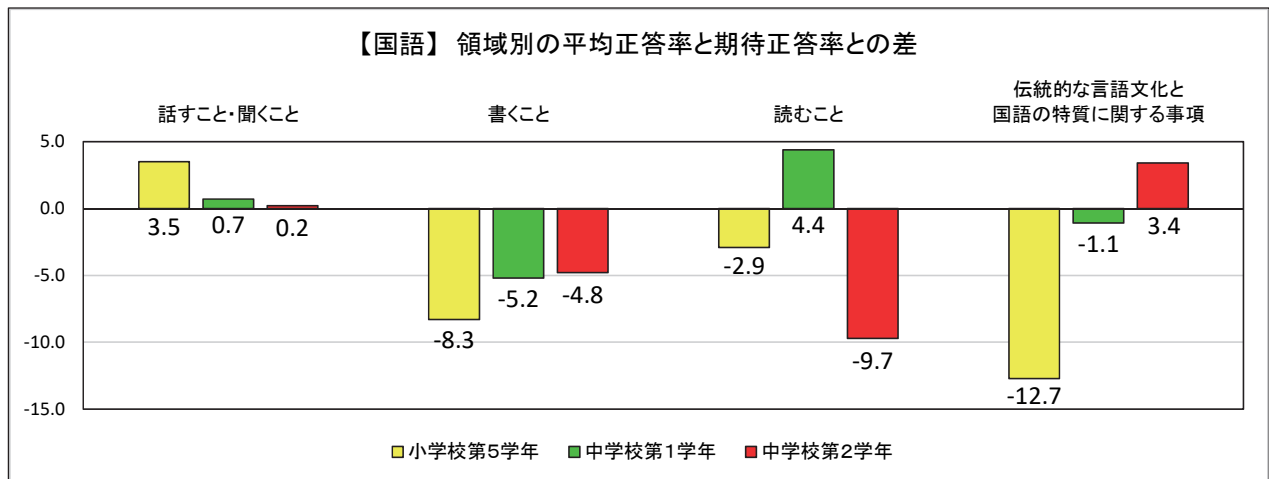
【中学校第2学年 数学】：「全体」において、期待正答率を11.1ポイント、「主として『活用』に関する問題」において、11.7ポイント下回った。

2 領域別の平均正答率、平均正答率と期待正答率との差

【国語】

		話すこと・聞くこと			書くこと			読むこと			伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項		
		平均正答率	期待正答率	期待正答率との差	平均正答率	期待正答率	期待正答率との差	平均正答率	期待正答率	期待正答率との差	平均正答率	期待正答率	期待正答率との差
小学校	第5学年	70.2	66.7	3.5	48.4	56.7	-8.3	47.1	50.0	-2.9	54.0	66.7	-12.7
中学校	第1学年	54.0	53.3	0.7	54.8	60.0	-5.2	59.4	55.0	4.4	66.1	67.2	-1.1
	第2学年	52.7	52.5	0.2	56.5	61.3	-4.8	42.8	52.5	-9.7	78.4	75.0	3.4

※ 桃色のセルは期待正答率以上、薄い水色のセルは期待正答率未満、濃い水色のセルは期待正答率を10ポイント以上下回るもの。



○ 期待正答率以上の学年・領域

【小学校第5学年】：「話すこと・聞くこと」において、期待正答率を3.5ポイント上回った。

【中学校第1学年】：「話すこと・聞くこと」において、期待正答率を0.7ポイント、「読むこと」において4.4ポイント上回った。

【中学校第2学年】：「話すこと・聞くこと」において、期待正答率を0.2ポイント、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」において、3.4ポイント上回った。

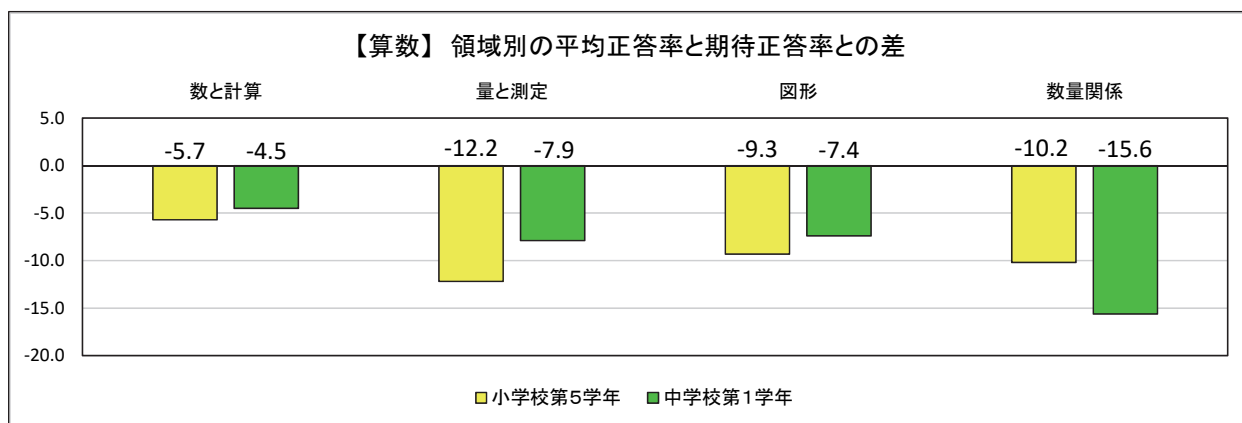
● 期待正答率を10ポイント以上下回る学年・領域

【小学校第5学年】：「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」において、期待正答率を12.7ポイント下回った。

【算数】(中学校第1学年の出題範囲は小学校の学習内容のため、小学校の領域で示す)

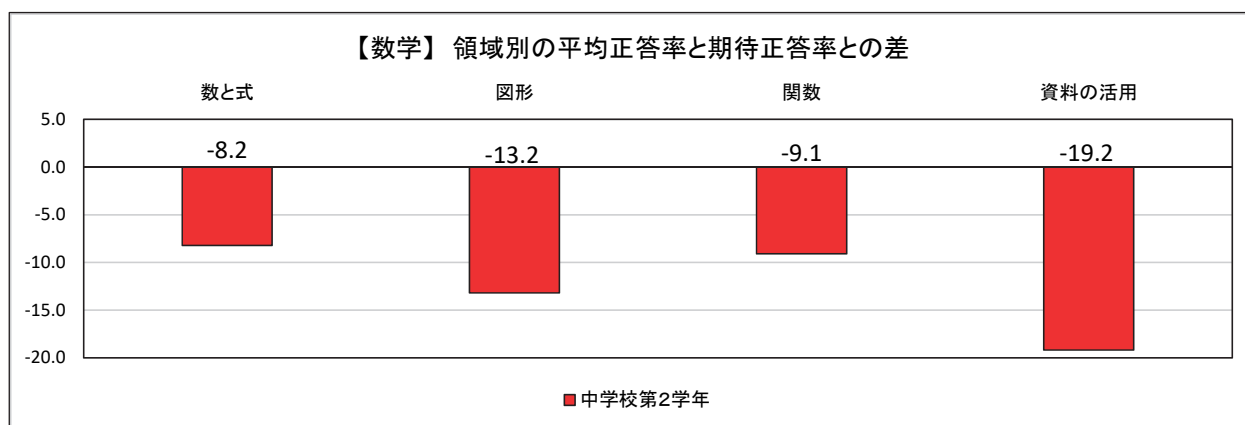
		数と計算			量と測定			図形			数量関係		
		平均正答率	期待正答率	期待正答率との差	平均正答率	期待正答率	期待正答率との差	平均正答率	期待正答率	期待正答率との差	平均正答率	期待正答率	期待正答率との差
小学校	第5学年	65.3	71.0	-5.7	32.8	45.0	-12.2	63.2	72.5	-9.3	49.0	59.2	-10.2
中学校	第1学年	66.9	71.4	-4.5	47.1	55.0	-7.9	69.3	76.7	-7.4	36.1	51.7	-15.6

※ 薄い水色のセルは期待正答率未満、濃い水色のセルは期待正答率を10ポイント以上下回るもの。



【数学】

中学校		数と式			図形			関数			資料の活用		
		平均正答率	期待正答率	期待正答率との差	平均正答率	期待正答率	期待正答率との差	平均正答率	期待正答率	期待正答率との差	平均正答率	期待正答率	期待正答率との差
中学校	第2学年	56.2	64.4	-8.2	48.5	61.7	-13.2	44.2	53.3	-9.1	27.5	46.7	-19.2



● 期待正答率を10ポイント以上下回る学年・領域

【小学校第5学年】: 「量と測定」において、期待正答率を12.2ポイント、「数量関係」において10.2ポイント下回った。

【中学校第1学年】: 「数量関係」において、期待正答率を15.6ポイント下回った。

【中学校第2学年】: 「図形」において、期待正答率を13.2ポイント、「資料の活用」において、19.2ポイント下回った。

3 学力層〔四分位層〕に着目した分析

〔四分位層〕とは、児童生徒全員の正答数分布の状況から、正答数の多い順に各正答数の児童生徒の割合の合計が概ね 25%になるように区切り、A層、B層、C層、D層の4つに分けたものである。

本分析により、C・D層の児童生徒にとっての苦手領域等を明確にしたり、学校や市町村等における取組がどの層の児童生徒に効果があるのかを検証したりして、今後の授業改善の方策等を見出すことができる。

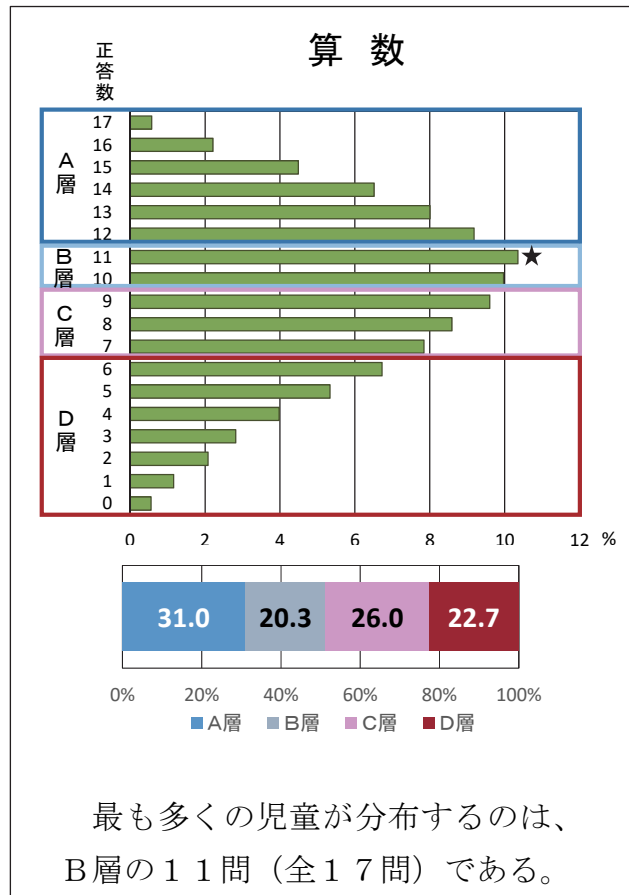
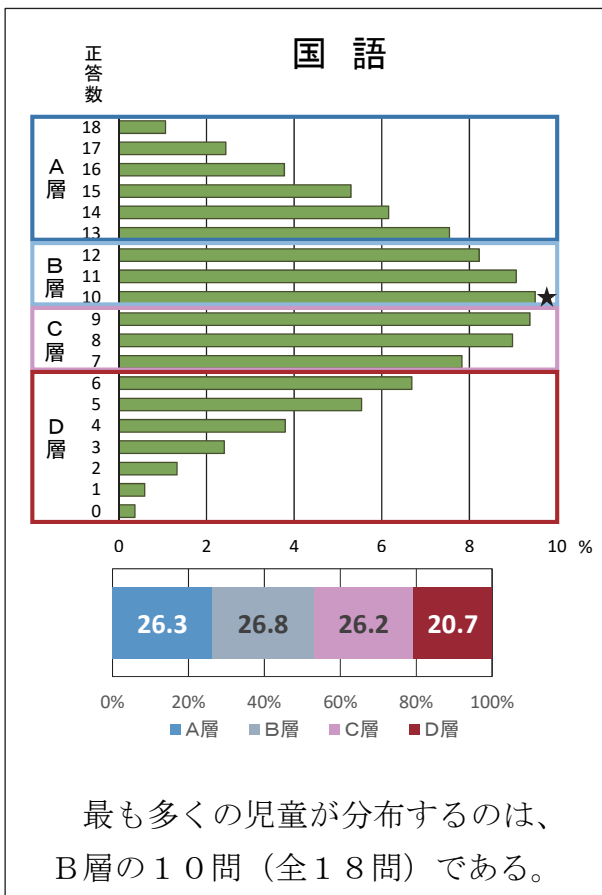
本年度調査における県全体の各学年・教科の「正答数の分布」及び「県全体における各層の正答数の範囲にある児童生徒の割合」は以下のとおりである。

委託業者から各学校へ送付した調査結果資料をもとに、県全体と自校の割合を比較するなどして課題等を分析し、自校の児童生徒一人一人の状況に応じた指導・支援に取り組む必要がある。

＜学校や市町村等における分析の視点（例）＞

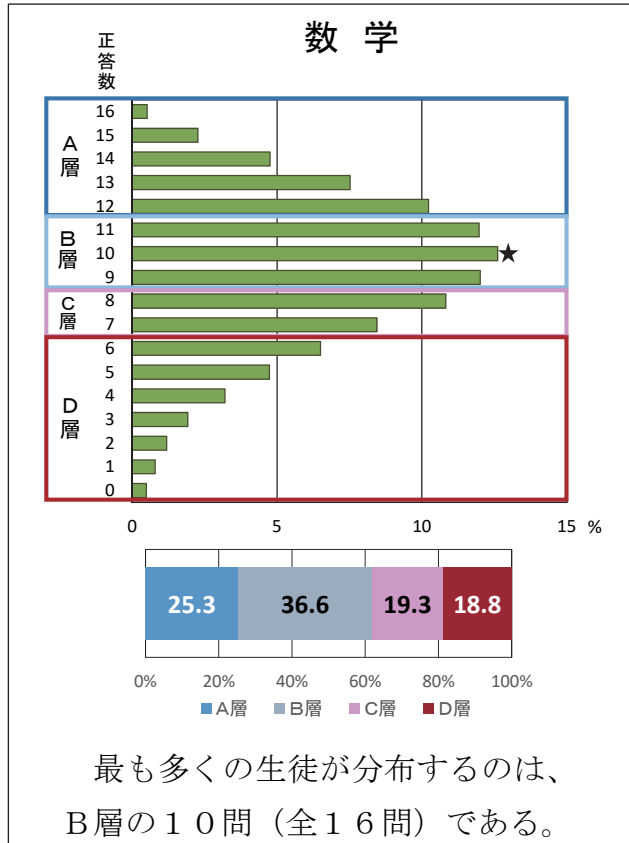
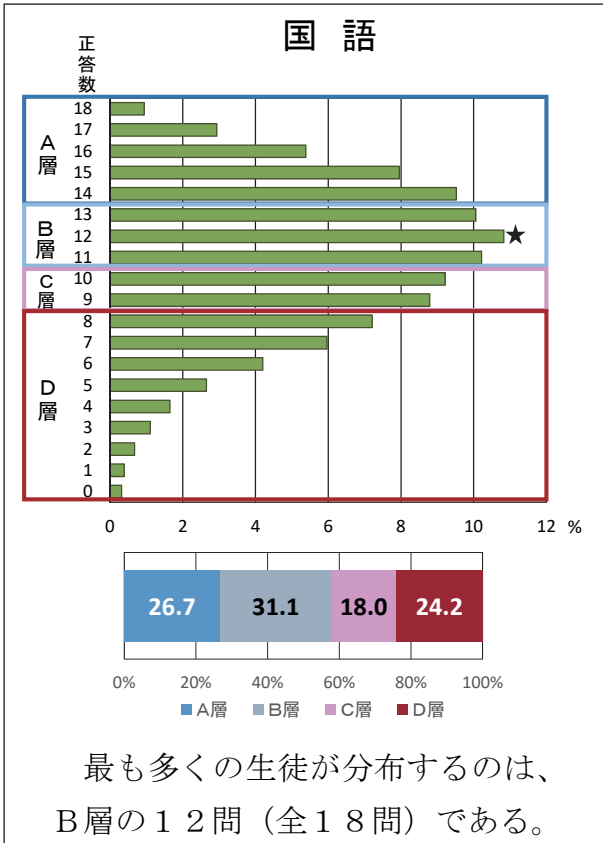
- 県全体の各層の割合と比較して、自校等の傾向（C・D層が多い等）を見取る。
 - 県全体の最頻値や度数分布と比較して、自校等の傾向（最頻値が県全体の値より低い等）を見取る。
- など

【小学校第5学年】

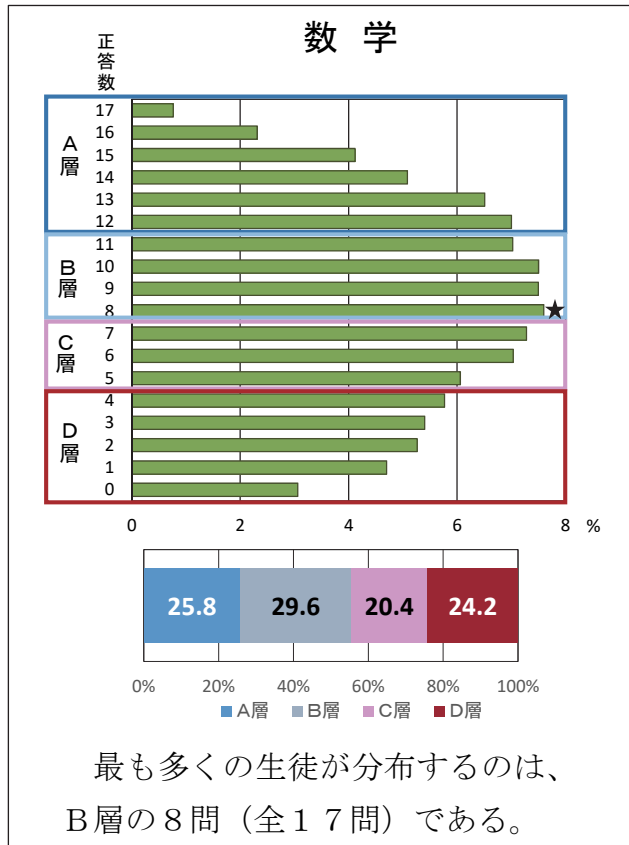
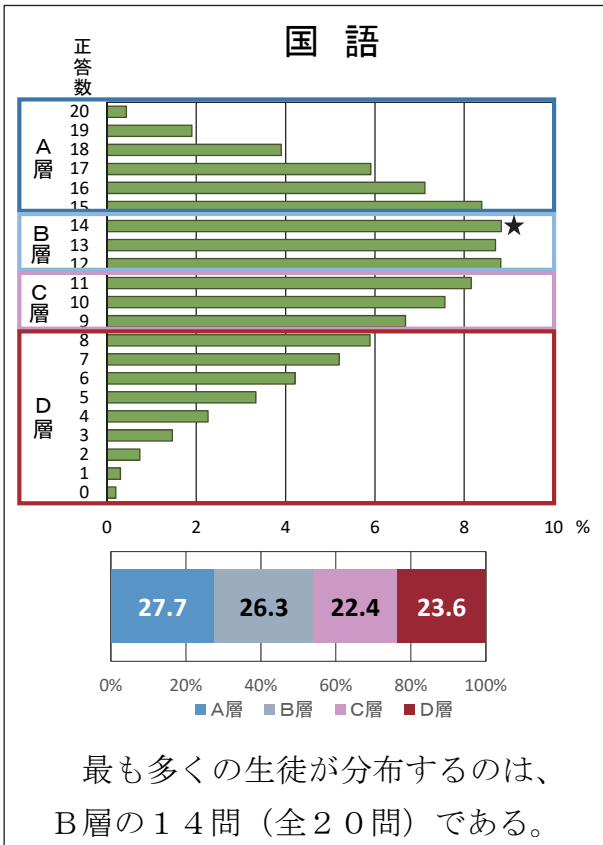


※ ★は、最頻値（最も多くの児童生徒が分布する正答数）を示す。

【中学校第1学年】



【中学校第2学年】



※ ★は、最頻値（最も多くの児童生徒が分布する正答数）を示す。

4 令和元年度3学期に学習指導が計画されていた内容に関する問題の結果

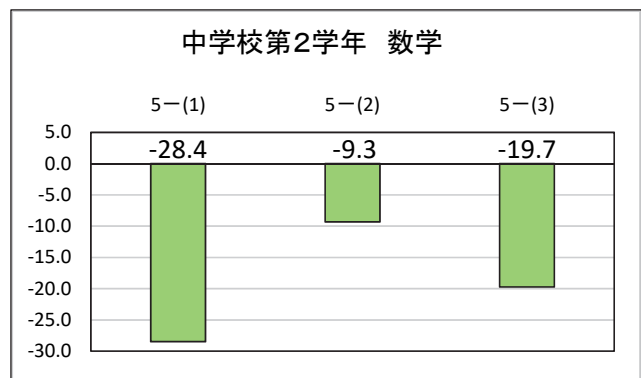
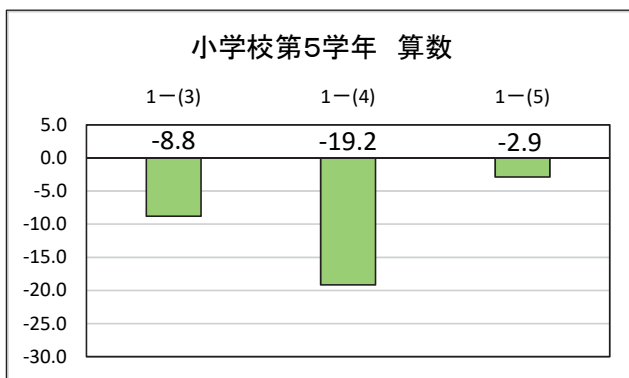
【小学校第5学年 算数】

問題の内容	問題番号	出題のねらい	平均正答率	期待正答率	期待正答率との差
整数・小数・分数	1	(3) 小数×整数の計算ができる。	61.2	70.0	-8.8
		(4) 小数÷整数の計算ができる。	40.8	60.0	-19.2
		(5) 帯分数－真分数＝真分数の計算ができる。	82.1	85.0	-2.9

【中学校第2学年 数学】

問題の内容	問題番号	出題のねらい	平均正答率	期待正答率	期待正答率との差
資料の散らばりと代表値	5	(1) 度数分布表から最頻値を読み取ることができる。	21.6	50.0	-28.4
		(2) 資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。	30.7	40.0	-9.3
		(3) 相対度数の必要性和意味を理解している。	30.3	50.0	-19.7

※ 薄い水色のセルは期待正答率未満、濃い水色のセルは期待正答率を10ポイント以上下回るもの。



● 期待正答率を10ポイント以上下回る学年・問題

- ・ 小学校第5学年算数では、該当する3問のうち、「小数÷整数の計算」において、期待正答率を19.2ポイント下回った。
- ・ 中学校第2学年数学では、該当する3問のうち、「度数分布表から最頻値の読み取り」において、期待正答率を28.4ポイント、「相対度数の必要性和意味」において19.7ポイント下回った。

5 記述式問題における平均正答率と無解答率

学年	教科	問題番号	出題のねらい	平均正答率	無解答率
小学校第5学年	国語	1 三	話の中心に気を付けて聞き、質問をすることができる。	64.8	5.9
		3 三	目的や必要に応じて筆者の意見を読み取り、要約することができる。	37.6	22.0
		4 三	目的や必要に応じて自分の考えの理由を挙げて書くことができる。	22.3	33.1
	算数	2 (3)	1組の角の大きさがわかっている平行四辺形の、もう1組の角の大きさの求め方を説明することができる。	47.0	5.2
		3 (3)	減法の式が、示された形の面積をどのように求めているのかを、数や演算の表す内容に着目して説明することができる。	18.5	14.5
		4 (3)	メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてどのようなことに着目して書かれているのかを説明することができる。	12.9	14.5
		5 (3)	示された計算の仕方を理解し、すばるさんの計算の仕方をより計算しやすい式にして計算することができる。	31.1	19.5
中学校第1学年	国語	1 三	目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことができる。	27.7	12.7
		2 三	物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめることができる。	50.4	17.7
		3 三	話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問することができる。	53.2	18.2
	数学	2 (2)	仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を説明することができる。	45.8	12.1
		3 (3)	縮図を利用して実際の高さの求め方を説明することができる。	24.2	14.5
		4 (2)	割合が同じで基準量が増えているときの比較量の大小を判断し、その判断の理由を説明することができる。	26.4	2.1
		5 (2)	示された考えを解釈し、条件を変更して考察した数量の関係を、表現方法を適用して記述することができる。	54.5	13.2
中学校第2学年	国語	1 五	本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書くことができる。	45.3	18.7
		2 八	日常生活の中から課題を決め、自分の考えをまとめることができる。	52.2	6.8
		3 二	事実と意見との関係に注意して話すことができる。	47.1	18.0
		3 三	相手の発言を注意して聞き、話合いの方向を捉えて的確に話すことができる。	49.6	21.8
		4 三	文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもつことができる。	26.7	29.5
	数学	2 (3)	適切な事柄を判断し、その事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明することができる。	42.8	5.3
		3 (3)	追加する条件を判断し、その条件を数学的な表現を用いて記述することができる。	47.8	27.3
		4 (2)②	2つの図形の関係を図形移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明することができる。	28.5	17.2
		5 (2)	資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。	30.7	25.5

※ 薄い水色のセルは無解答率10%以上、濃い水色のセルは20%以上のもの。

【小学校第5学年】：国語・算数を合わせた全7問中、無解答率が10%以上の問題は5問、そのうち、20%以上の問題は2問であった。

【中学校第1学年】：国語・数学を合わせた全7問中、無解答率が10%以上の問題は6問であった。

【中学校第2学年】：国語・数学を合わせた全9問中、無解答率が10%以上の問題は7問、そのうち、20%以上の問題は4問であった。

Ⅲ 各学年・教科の調査結果

1 小学校第5学年国語

- 教科全体では、期待正答率 62.2%に対して平均正答率 54.6%であり、7.6ポイント下回った。
- 問題形式別に見ると、期待正答率を「知識」では 12.7ポイント、「活用」では 2.6ポイント下回った。
- 評価の観点別に見ると、期待正答率を「話すこと・聞くこと」では 3.5ポイント上回り、「書くこと」、「読むこと」及び「言語についての知識・理解・技能」では、それぞれ 8.3、2.9、12.7ポイント下回った。
- 解答形式別に見ると、期待正答率を「選択式」、「短答式」及び「記述式」では、それぞれ 0.9、14.0、1.7ポイント下回った。
- 領域別に見ると、期待正答率を「話すこと・聞くこと」では 3.5ポイント上回り、「書くこと」、「読むこと」及び「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」ではそれぞれ 8.3、2.9、12.7ポイント下回った。

■ 教科全体と「知識」・「活用」問題形式別、評価の観点別、解答形式別の正答率（%）

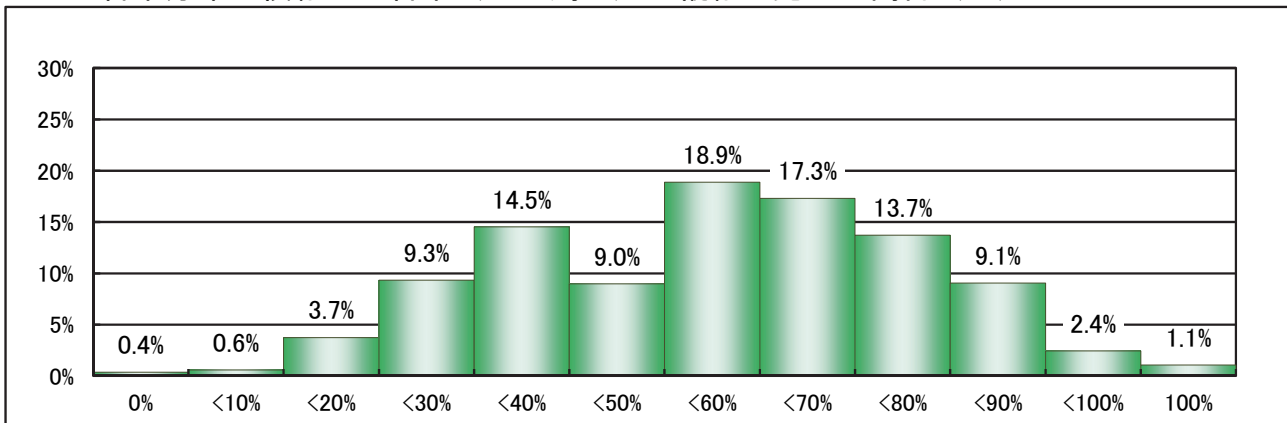
	問題形式別正答率			評価の観点別正答率				解答形式別正答率		
	全体	知識	活用	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式
期待正答率	62.2	66.7	57.8	66.7	56.7	50.0	66.7	68.3	64.4	43.3
平均正答率	54.6	54.0	55.2	70.2	48.4	47.1	54.0	67.4	50.4	41.6
差	-7.6	-12.7	-2.6	3.5	-8.3	-2.9	-12.7	-0.9	-14.0	-1.7

※ 桃色のセルは期待正答率を上回っているもの。

■ 領域別の正答率（%）

	領域別正答率			
	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
期待正答率	66.7	56.7	50.0	66.7
平均正答率	70.2	48.4	47.1	54.0
差	3.5	-8.3	-2.9	-12.7

■ 正答率分布 横軸：正答率（10%刻み） 縦軸：児童の割合（%）



2 小学校第5学年算数

- 教科全体では、期待正答率 64.1%に対して平均正答率 55.2%であり、8.9ポイント下回った。
- 問題形式別に見ると、期待正答率を「知識」では 5.7ポイント、「活用」では 10.3ポイント下回った。
- 評価の観点別に見ると、期待正答率を「数学的な考え方」、「技能」及び「知識・理解」ではそれぞれ 12.6、8.2、6.4ポイント下回った。
- 解答形式別に見ると、期待正答率を「選択式」、「短答式」及び「記述式」では、それぞれ 7.5、8.0、12.6ポイント下回った。
- 領域別に見ると、期待正答率を「数と計算」、「量と測定」、「図形」及び「数量関係」ではそれぞれ 5.7、12.2、9.3、10.2ポイント下回った。

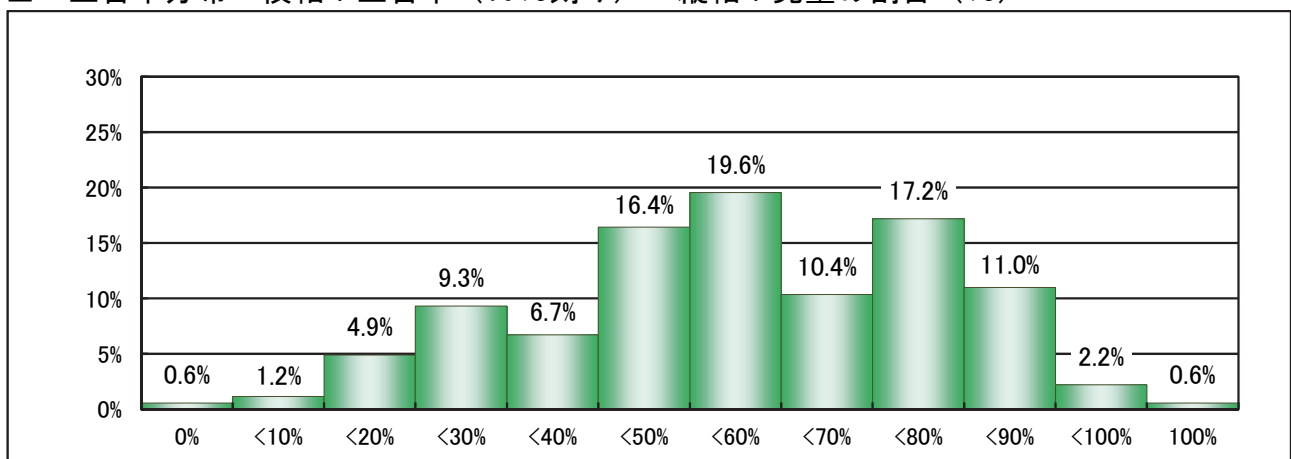
■ 教科全体と「知識」・「活用」問題形式別、評価の観点別、解答形式別の正答率（%）

	問題形式別正答率			評価の観点別正答率			解答形式別正答率		
	全体	知識	活用	数学的な考え方	技能	知識・理解	選択式	短答式	記述式
期待正答率	64.1	71.0	61.3	40.0	70.0	76.7	75.0	69.4	40.0
平均正答率	55.2	65.3	51.0	27.4	61.8	70.3	67.5	61.4	27.4
差	-8.9	-5.7	-10.3	-12.6	-8.2	-6.4	-7.5	-8.0	-12.6

■ 領域別の正答率（%）

	領域別正答率			
	数と計算	量と測定	図形	数量関係
期待正答率	71.0	45.0	72.5	59.2
平均正答率	65.3	32.8	63.2	49.0
差	-5.7	-12.2	-9.3	-10.2

■ 正答率分布 横軸：正答率（10%刻み） 縦軸：児童の割合（%）



3 中学校第1学年国語

- 教科全体では、期待正答率 61.7%に対して平均正答率 61.1%であり、0.6ポイント下回った。
- 問題形式別に見ると、期待正答率を「知識」では1.1ポイント下回り、「活用」では期待正答率と同値であった。
- 評価の観点別に見ると、期待正答率を「話すこと・聞くこと」及び「読むこと」ではそれぞれ0.7、4.4ポイント上回り、「書くこと」及び「言語についての知識・理解・技能」ではそれぞれ5.2、1.1ポイント下回った。
- 解答形式別に見ると、期待正答率を「選択式」では1.3ポイント上回り、「短答式」及び「記述式」ではそれぞれ2.0、1.2ポイント下回った。
- 領域別に見ると、期待正答率を「話すこと・聞くこと」及び「読むこと」ではそれぞれ0.7、4.4ポイント上回り、「書くこと」及び「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」ではそれぞれ5.2、1.1ポイント下回った。

■ 教科全体と「知識」・「活用」問題形式別、評価の観点別、解答形式別の正答率（%）

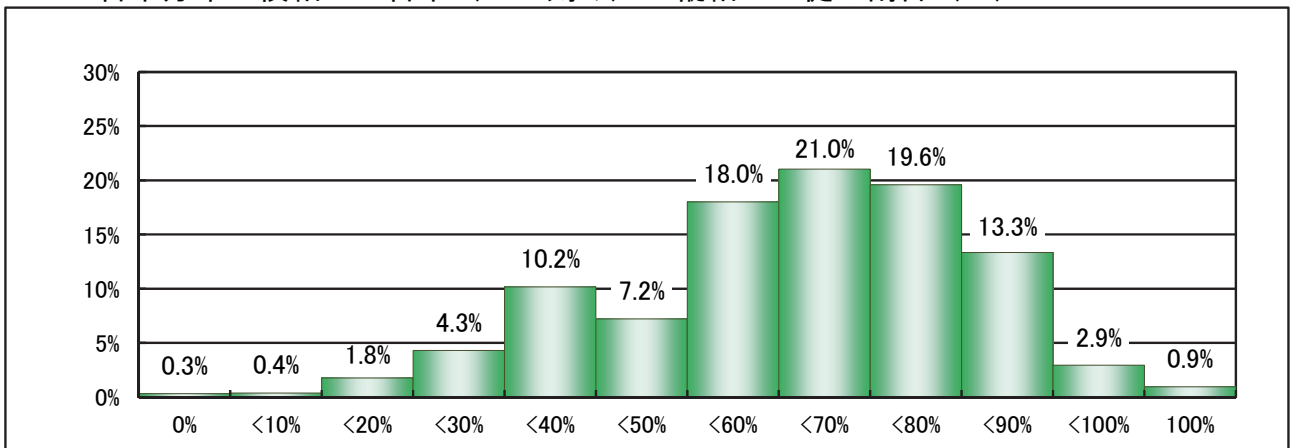
	問題形式別正答率			評価の観点別正答率				解答形式別正答率		
	全体	知識	活用	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式
期待正答率	61.7	67.2	56.1	53.3	60.0	55.0	67.2	64.3	65.6	45.0
平均正答率	61.1	66.1	56.1	54.0	54.8	59.4	66.1	65.6	63.6	43.8
差	-0.6	-1.1	0.0	0.7	-5.2	4.4	-1.1	1.3	-2.0	-1.2

※ 桃色のセルは期待正答率を上回っているもの。

■ 領域別の正答率（%）

	領域別正答率			
	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
期待正答率	53.3	60.0	55.0	67.2
平均正答率	54.0	54.8	59.4	66.1
差	0.7	-5.2	4.4	-1.1

■ 正答率分布 横軸：正答率（10%刻み） 縦軸：生徒の割合（%）



4 中学校第1学年数学

- 教科全体では、期待正答率 65.6%に対して平均正答率 57.8%であり、7.8ポイント下回った。
- 問題形式別に見ると、期待正答率を「知識」では5.4ポイント、「活用」では8.8ポイント下回った。
- 評価の観点別に見ると、期待正答率を「数学的な考え方」、「技能」及び「知識・理解」ではそれぞれ9.6、10.6、0.6ポイント下回った。
- 解答形式別に見ると、期待正答率を「選択式」、「短答式」及び「記述式」ではそれぞれ2.7、8.0、11.1ポイント下回った。
- 領域別に見ると、期待正答率を「数と計算」、「量と測定」、「図形」及び「数量関係」ではそれぞれ4.5、7.9、7.4、15.6ポイント下回った。

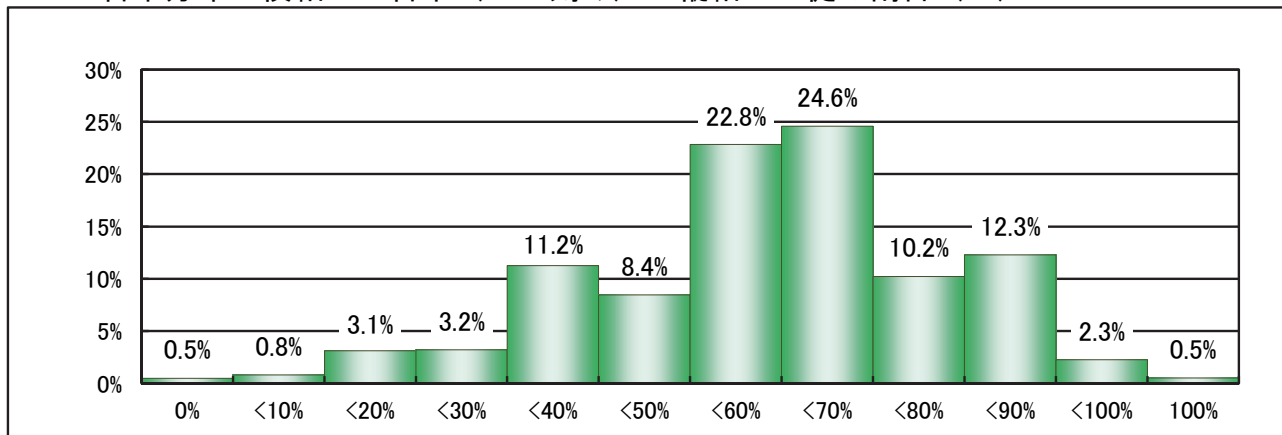
■ 教科全体と「知識」・「活用」問題形式別、評価の観点別、解答形式別の正答率（%）

	問題形式別正答率			評価の観点別正答率			解答形式別正答率		
	全体	知識	活用	数学的な考え方	技能	知識・理解	選択式	短答式	記述式
期待正答率	65.6	76.0	60.9	52.0	72.9	70.0	65.0	73.3	48.8
平均正答率	57.8	70.6	52.1	42.4	62.3	69.4	62.3	65.3	37.7
差	-7.8	-5.4	-8.8	-9.6	-10.6	-0.6	-2.7	-8.0	-11.1

■ 領域別の正答率（%）

	領域別正答率			
	数と計算	量と測定	図形	数量関係
期待正答率	71.4	55.0	76.7	51.7
平均正答率	66.9	47.1	69.3	36.1
差	-4.5	-7.9	-7.4	-15.6

■ 正答率分布 横軸：正答率（10%刻み） 縦軸：生徒の割合（%）



5 中学校第2学年国語

- 教科全体では、期待正答率 61.0%に対して平均正答率 58.2%であり、2.8ポイント下回った。
- 問題形式別に見ると、期待正答率を「知識」では1.9ポイント上回り、「活用」では7.5ポイント下回った。
- 評価の観点別に見ると、期待正答率を「話すこと・聞くこと」及び「言語についての知識・理解・技能」ではそれぞれ0.2、3.4ポイント上回り、「書くこと」及び「読むこと」ではそれぞれ4.8、9.7ポイント下回った。
- 解答形式別に見ると、期待正答率を「選択式」、「短答式」及び「記述式」ではそれぞれ1.0、5.3、5.8ポイント下回った。
- 領域別に見ると、期待正答率を「話すこと・聞くこと」及び「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」ではそれぞれ0.2、3.4ポイント上回り、「書くこと」及び「読むこと」ではそれぞれ4.8、9.7ポイント下回った。

■ 教科全体と「知識」・「活用」問題形式別、評価の観点別、解答形式別の正答率 (%)

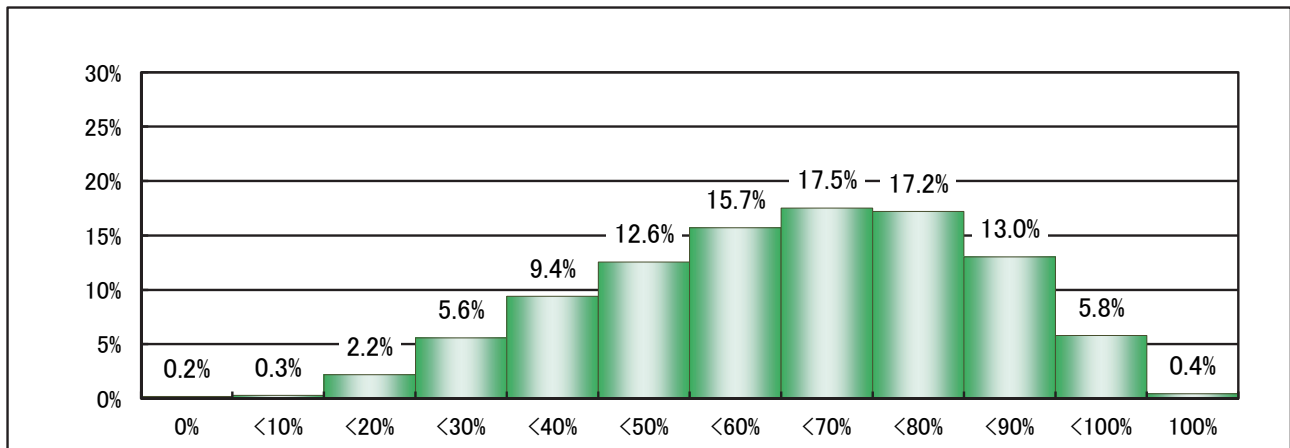
	問題形式別正答率			評価の観点別正答率				解答形式別正答率		
	全体	知識	活用	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式
期待正答率	61.0	68.5	53.5	52.5	61.3	52.5	75.0	61.7	76.7	50.0
平均正答率	58.2	70.4	46.0	52.7	56.5	42.8	78.4	60.7	71.4	44.2
差	-2.8	1.9	-7.5	0.2	-4.8	-9.7	3.4	-1.0	-5.3	-5.8

※ 桃色のセルは期待正答率を上回っているもの。

■ 領域別の正答率 (%)

	領域別正答率			
	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
期待正答率	52.5	61.3	52.5	75.0
平均正答率	52.7	56.5	42.8	78.4
差	0.2	-4.8	-9.7	3.4

■ 正答率分布 横軸：正答率（10%刻み） 縦軸：生徒の割合 (%)



6 中学校第2学年数学

- 教科全体では、期待正答率 58.8%に対して平均正答率 47.7%であり、11.1ポイント下回った。
- 問題形式別に見ると、期待正答率を「知識」では9.9ポイント、「活用」では11.7ポイント下回った。
- 評価の観点別に見ると、期待正答率を「数学的な見方や考え方」、「技能」及び「知識・理解」ではそれぞれ7.9、12.4、21.8ポイント下回った。
- 解答形式別に見ると、期待正答率を「選択式」、「短答式」及び「記述式」ではそれぞれ6.3、13.4、7.6ポイント下回った。
- 領域別に見ると、期待正答率を「数と式」、「図形」、「関数」及び「資料の活用」ではそれぞれ8.2、13.2、9.1、19.2ポイント下回った。

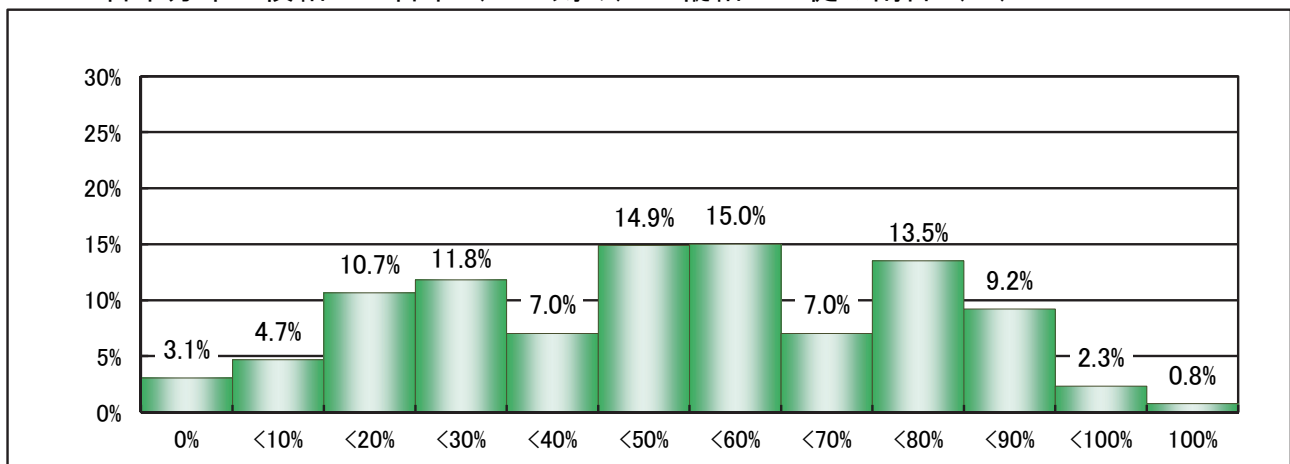
■ 教科全体と「知識」・「活用」問題形式別、評価の観点別、解答形式別の正答率（%）

	問題形式別正答率			評価の観点別正答率			解答形式別正答率		
	全体	知識	活用	数学的な見方や考え方	技能	知識・理解	選択式	短答式	記述式
期待正答率	58.8	70.0	54.2	51.1	68.3	65.0	57.5	64.1	45.0
平均正答率	47.7	60.1	42.5	43.2	55.9	43.2	51.2	50.7	37.4
差	-11.1	-9.9	-11.7	-7.9	-12.4	-21.8	-6.3	-13.4	-7.6

■ 領域別の正答率（%）

	領域別正答率			
	数と式	図形	関数	資料の活用
期待正答率	64.4	61.7	53.3	46.7
平均正答率	56.2	48.5	44.2	27.5
差	-8.2	-13.2	-9.1	-19.2

■ 正答率分布 横軸：正答率（10%刻み） 縦軸：生徒の割合（%）



Ⅳ 令和2年度福岡県学力調査問題を活用した授業改善のための指導資料

本県学力調査の問題は、全国学力・学習状況調査と同様に、学習指導要領の理念・目標・内容等に基づき、学習指導上特に重視される点や身に付けるべき力等を具体的に示すメッセージを盛り込んで作成しています。

このことを踏まえ、本年度標記調査の特徴的な問題の解説・授業改善のポイント等をまとめた資料を作成しました。

調査問題や本資料について、例えば、日々の授業や教材研究、各学校での研修会や研究授業、各教育委員会等での研修会の資料等、各教育委員会や学校の判断で、児童生徒の教育指導の改善・充実に資するよう、有効に活用いただければ幸いです。

※ 本資料は、以下のサイトにも掲載しています。

【掲載サイト】

- 義務教育課各種資料のページ (<http://gimu.fku.ed.jp>)

1 の三

話の中心に気を付けて聞き、質問をすることができるかどうかをみる問題

<関連する過去の問題>

H30全国B 1 三：話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることができるかどうかをみる問題

- 「……」の小林さんの発言のしかたを参考にして、ぎもんに思ったことをたずねる文を書くこと。
- 相手に話すときにふさわしい、ていねいな言葉を使って書くこと。
- 四十字以上、六十字以内にまとめて書くこと。

そこで、「話し合いの様子の一部」の□で、三ぱんの提案に対して質問をしました。あなたが中川さんなら、どのように話しますか。次の条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

三ぱんは、一年生に対して、何に慣れてほしいか、何に慣れてほしくないかを、小学校生活に慣れてほしいのか、とつちがらう。



三 中川さんは、「話し合いの様子の一部」の三ぱんの提案を聞いて、次のようなぎもんをもちました。

中川（一ぱん）

三ぱんに質問です。

西田（二はん）はい。その両方です。それ以外にも、学校での一日の生活など、学校についていろいろなことを知ってもらいたいと考えています。

小林（三ぱん）二はんはんに質問です。この学校を知ってもらおうというのには、行事などを知ってもらおうのか、学校のどこに何があるのかなどを知ってもらおうのか、どちらでしょうか。

大野（三ぱん）わたしたちは「一年生に慣れてもらおう」というめあてを提案します。不安をもっている一年生に、少しでも早く学校に慣れてほしいからです。

【話し合いの様子の一部】

中川さんの学級では、「一年生をむかえる会」をどのようなめあてで行えばよいかについて話し合いました。次は、そのときの「話し合いの様子の一部」です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

正答の導き方

〔1〕問題文と〈条件〉、「話し合いの様子の一部」を読んで問われていることを確認する。

- ① 問題文の――部分と「中川さんの疑問」から、三ぱんの提案を具体的に知る質問をする必要がある。
- ② 〈条件〉の――部分から、小林さんの発言のしかたを参考にする。

〔2〕「中川さんのぎもん」をもとに、小林さんの発言のしかたを参考にして質問を考える。

- ① 中川さんは、三ぱんの「一年生に慣れてもらおう」という提案に対して「小学校生活に慣れてほしい（考えA）」と「わたしたち上級生に慣れてほしい（考えB）」のどちらの考えなのか、疑問をもっている。
- ② 小林さんも二はんの提案に対して、どちらの考えなのかを確かめる質問をしている。その際、「…（提案）というのには、…（考えA）のか、…（考えB）のか、どちらでしょうか。」という発言のしかたを用いている。

〔3〕〈条件〉の「ふさわしい、ていねいな言葉」「字数制限」に合わせて書く。

「三ぱんに質問です。」に続けて、敬体で、字数制限に合わせて書く。

必要な知識・技能

- 話の中心に気を付けて聞く。
- 聞いた事柄を基に確かめたい点を質問する。

【正答例】

一年生に慣れてもらおうというのには、小学校生活に慣れてもらおうのか、わたしたち上級生に慣れてもらおうのか、どちらでしょうか。（58字）

調査問題を活用した授業改善のための指導資料

誤答例とその原因

(誤答例1) 一年生に対して、何に慣れてほしいと思っているのですか。もう少し詳しく教えてください。(43字)

(誤答例2) 一年生に慣れてもらうというのは、一年生に対して、小学校生活に慣れてほしいのですか。(41字)

- ◆ 小林さんの発言のしかたを参考にしていない。
※ (誤答例2) については、一部分のみしか質問していない。

(誤答例3) 一年生に慣れてもらうというのは、小学校生活に慣れてもらうのと、わたしたち上級生に慣れてもらうのとどちらか。(53字)

- ◆ <条件> 「小林さんの発言のしかたを参考にして」「ていねいな言葉を使って」を受けて敬体を用いる必要があるが、常体を用いている。

授業改善のポイント

- 「話し合うこと」の指導では、目的や進め方を確認して、互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめることができるように指導することが大切です。



短冊を使って、考えを整理してみましょう。

それぞれの考えを比べて、似ているところはどこですか。

◎ 一年生にどうっての会の意味を考えている

一年生にどうなってほしいか

3ばん	2はん	1ばん	4はん
一年生に慣れてもらう	一年生にこの学校を知ってもらう	一年生に楽しんでもらう	一年生と仲よくなる

それぞれのはんの考えをくらべて、よいところを出し合おう。

一年生をむかえる会のめあてを決めよう。



一ばんから三ばんまでは、一年生にどうなってほしいかを考えています。このように、一年生にとってどんな意味がある会にするかを考えるのは、とても大切なことだと思います。

「話し合うこと」の指導において互いの意見を比較することは、それぞれの意見の共通点や相違点から、その意見のよさを見いだすことにもつながります。

- 必要なことを記録したり質問したりしながら聞く活動を設定することは、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつ上で有効です。



どのようなめあてで行いたいのか提案してもらいました。その内容についてメモしたことをもとに、分からない点や確かめたい点を整理しましょう。

確かめたい点

・ わたしたち上級生

・ 小学校生活

○ (ぎもん) 何に慣れてほしいのか

【メモ】
○ (三ばん) 一年生に慣れてもらう
・ 一年生が不安をもっている
・ 早く学校に慣れてほしい

何に慣れてほしいのかを質問して確かめたいです。



話し合いの展開に沿って発言したり、質問したりすることができるようにするためにも、記録したことをもとに、考えを整理する活動を設定することも有効です。

4 の三

目的や必要に応じて自分の考えの理由を挙げて書くことができるかどうかをみる問題

<関連する過去の問題>

H31全国 1 三：公衆電話について調べたことについて、報告する文章の口に分かったことを書く問題

- 四十文字以上、六十文字以内にまとめて書くこと。
 - 【ほうこくする文章】にふさわしい表現で書くこと。
 - 「二つ」取り上げて書くこと。
 - 「3」調べて分かったこと(3)から、**考えの理由**となること(条件)
- 三 宮本さんは、「4 まとめ」の□に「3 調べて分かったこと」の(3)で書いたことをまとめて書いています。□に入る内容を、次の条件に合わせて書きましょう。

4 まとめ

駅前前の放置自転車について調べて、わたしは、市営の三つのちゅう輪場をもっと利用できるはずだと考えました。「なぜなら三つのちゅう輪場は、そうすれば、駅前前の歩道に自転車があふれることもなくなるし、まだ乗れる自転車がいっぱいあることもなくなります。放置自転車をなくして、安全でくらしやすいまちをつくりたいと思います。」

(資料2) 駅の近くの市営ちゅう輪場

名前	駅からの時間	とめられる台数	空き台数(平日朝)
北口ちゅう輪場	徒歩1分	400台	10台
南口ちゅう輪場	徒歩3分	400台	40台
公園ちゅう輪場	徒歩5分	600台	150台

宮本 はるか

【ほうこくする文章】

宮本さんの学級では、だれもがくらしやすいまちづくりについて調べて、ほうこくすることになりました。宮本さんは、駅前前の放置自転車について調べています。次は宮本さんが書いている【ほうこくする文章】です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

正答の導き方

〔1〕問題文と〈条件〉、【ほうこくする文章】を読んで問われていることを確認する。

- ① 問題文の——部から、(3)に書いていることをまとめる必要がある。
- ② 〈条件〉により、(3)から**「考えの理由」**を「二つ」取り上げる必要がある。
- ③ 「4 まとめ」の「なぜなら」の直前の文には、「**三つのちゅう輪場をもっと利用できるはずだと考えました。**」とあり、これを「考え」として捉える。

〔2〕上記③の「考え」の理由となること「二つ」を(3)から見つける。

- ① 駅前では自転車をどこに置けばよいか
- ② 駅から歩いて五分以内という近い場所にある
- ③ 市営のちゅう輪場が三つある
- ④ 混んでいる平日の朝でも、あと二百台とめられるほど、よゆうがある

(3)には、上記①～④が書かれているが、「考えの理由」としてふさわしいのは②④

〔3〕〈条件〉「ふさわしい表現」「字数制限」に合わせて書く。

「なぜなら…」に続くように、「**からです。**」などの**文末表現**に気を付ける。

必要な知識・技能

- ・書こうとすることの中心を明確にする。
- ・目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書く。

【正答例】
駅から歩いて五分以内という近い場所にあり、混んでいる平日の朝でも、あと二百台とめられるほどよゆうがあるからです(55字)

調査問題を活用した授業改善のための指導資料

誤答例とその原因

(誤答例1) 〈資料2〉のように、駅から歩いて五分以内という近い場所に、市営のちゅう輪場が三つあるからです(46字)

(誤答例2) 〈資料2〉のように混んでいる平日の朝でも、あと二百台とめられるほどよゆうがあるからです(43字)

- ◆ (3) から、考えの理由を1つしか取り上げていない。
※ (誤答例1) については、「ちゅう輪場が三つある」ことは理由にはならない。

(誤答例3) 駅から歩いて五分以内という近い場所にあり、混んでいる平日の朝でも、あと二百台とめられるほどよゆうがある(51字)

- ◆ 【ほうこくする文章】にふさわしい表現は敬体であるが、常体で書いている。

授業改善のポイント

- 「書くこと」の指導では、児童の「書きたい」「書いて伝えたい」という思いをもたせることが大切です。そのためには、単元の導入時に生活や他教科等との関連を図り、問題意識を高めたり、目的意識・相手意識を高めたりする指導を心がけましょう。



この前、先生が駅の近くを歩いていると、歩道に自転車がたくさんとまっていて、とても通りづらかった。どうかならないか、いろいろと考えてみたんだけど、みなさんも「こまったな」「問題だな」と思ったこと、気になっていることはないですか。

わたしがこの前、公園を歩いていると、ごみがたくさん落ちていて…



買い物に行くとマイバッグを持っている人が増えてきたけど…

「書くこと」の指導において、問題意識や目的意識・相手意識を高めることは、取材、選材、構成、推敲などの際、「よりよい表現にしよう」という思いの高まりにつながります。

- 付箋などを活用して、情報を取捨選択したり、分類・整理したりする活動を設定することは、自分の考えを明確にしたり、構成を工夫したりする上で有効です。



書くための情報を集めたけれど、集めた情報の中で、自分の考えがよりよく伝わる情報を見付けましょう。

【ちゅう輪場のきまり】は、【考え】には直接つながらないので取りのぞいたほうがよさそうです。



<p>・ 北口：駅から徒歩一分</p> <p>・ 南口：駅から徒歩三分</p> <p>・ 公園：駅から徒歩五分</p> <p>↓どこも五分以内</p>	<p>・ 北口：四十台</p> <p>・ 南口：五十台</p> <p>・ 公園：百五十台</p> <p>↓まだよゆうがある</p>	<p>・ ちゅう輪場の中にとめて歩く</p> <p>・ ちゅう輪場内では押し</p>	<p>市営ちゅう輪場をもっと利用すべき</p>
---	---	--	-------------------------

- ・ この二つは【考え】につながる
- ・ 表に整理すると分かりやすい

取りのぞく

調べて分かった事実の中からふさわしいものを取り上げ、自分の考えとの関係を十分に捉えて書くことができるように指導しましょう。

「話すこと・聞くこと」「読むこと」でも同様に繰り返し指導することが重要です。

4の(3)

メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフの何に着目して書かれているのかを説明することができるかどうかをみる問題

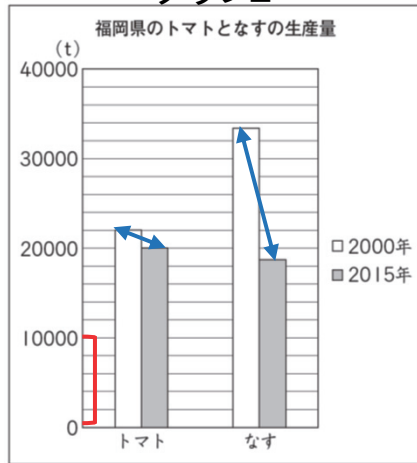
<関連する過去の問題>

H30全国B3 (1)：日常生活の事象を、グラフの特徴を基に、複数の観点で考察し、表現する問題

けんたろうさんは、福岡県のトマトの生産量について調べました。そこで、なつきさんが調べたなすの生産量と、けんたろうさんが調べたトマトの生産量を下のグラフ2に表しました。

けんたろうさんは、グラフからわかること2つをメモに書きました。

グラフ2



メモ1

- ・ トマト
- … 約20000 t
- ・ なす
- … 約19000 t

メモ2

- ・ トマト
- … 約2000 t
- ・ なす
- … 約15000 t

なつきさんとゆうとさんは、けんたろうさんが書いたメモについて話し合っています。



メモ1を見ると、トマトの量のほうが多いです。でも、メモ2を見ると、なすの量のほうが多いですね。



どちらもグラフ2について書いているのに、メモ1では、トマトの量のほうが多く、メモ2では、なすの量のほうが多いのは、なぜですか。



メモ1とメモ2は、それぞれちがうことについて書いているからです。

(3) けんたろうさんが言うように、メモ1とメモ2は、それぞれちがうことについて書かれています。

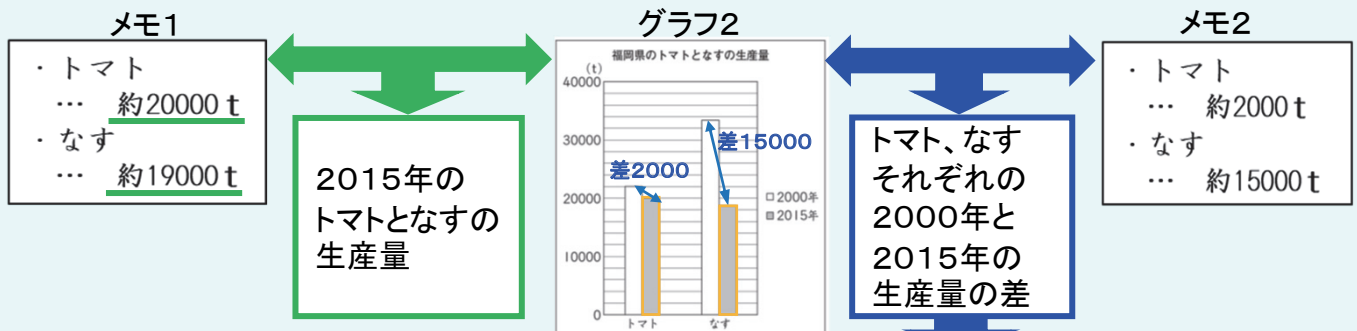
メモ1とメモ2は、それぞれグラフの何について書かれているかを、言葉や数を使って書きましょう。

正答の導き方

〔1〕 グラフ2で示されている事柄や数量を確認する。

- ① グラフ2は2000年と2015年の「福岡県のトマトとなすの生産量」を表している。
- ② 1目盛り(10000÷5)は、2000 tである。
- ③ トマトの2000年の生産量は約22000 tで、2015年の生産量は約20000 tである。
- ④ なすの2000年の生産量は約34000 tで、2015年の生産量は約19000 tである。

〔2〕 メモ1、メモ2が、グラフ2で示されている事柄や数量のどこに値するのか読み取る。



〔3〕 〔2〕で調べて分かったことをもとに、2つのメモについて、言葉や数を用いて説明する。

トマト $22000 - 20000 = 2000$
 なす $34000 - 19000 = 15000$

【正答例】

メモ1は、2015年のなすとトマトの生産量について書かれています。

メモ2は、2000年と2015年の生産量の差について書かれています。

必要な知識・技能

- ・ グラフが示す数量の大きさを正しく読み取る。
- ・ 項目間の関係(大小や差)を読み取る。

調査問題を活用した授業改善のための指導資料

誤答例とその原因

(誤答例1) メモ1は2000年の生産量でメモ2は2015年の生産量です。

- ◆ それぞれのメモに示されている数量が、グラフのどの部分に着目したものなのかを捉えることができていない。

(誤答例2) メモ1は2015年のトマトとなすの生産量について書かれています。
メモ2については記述することができていない。

- ◆ メモ1について示された数量が、2015年の生産量であることは捉えることができているが、メモ2について示された数量が、2000年と2015年の生産量の差であることを捉えることができていない。

授業改善のポイント

- 1つの観点だけでグラフを読み取るのではなく、**和や差などの複数の観点に着目して**、グラフを読み取ることができるようにすることが大切です。



このグラフで、分かることは何ですか。



2000年と2015年のトマトとなすの生産量が分かります。



1目盛りは2000tなので、2000年のトマトの生産量は、約22000t、2015年のトマトの生産量は、約20000tということが分かります。



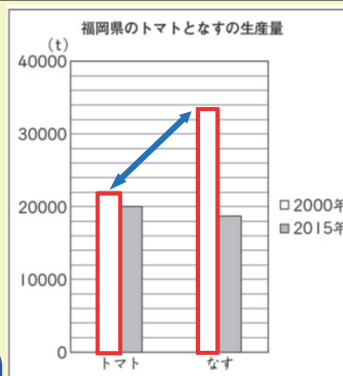
同じように、2000年のなすの生産量は、約34000t、2015年のなすの生産量は、約19000tということが分かるね。



それでは、【メモA】【メモB】は何について書かれたものでしょうか。グラフのどこを見ればわかりますか。

【メモA】

- ・ 2000年
… 約12000t
- ・ 2015年
… 約1000t



【メモB】

- ・ 2000年
… 約56000t
- ・ 2015年
… 約39000t



【メモA】は、トマトとなすの生産量のどちらでもないよ。



2000年のトマトとなすの生産量の差を見てみよう。
 $34000 - 22000 = 12000$ で、【メモA】の2000年と同じになったよ。



【メモB】の2000年の約56000tと2015年の約39000tはどちらもグラフにはない量だね。



2000年のトマトとなすの生産量をたしてみよう。
 $22000 + 34000 = 56000$ で、【メモB】の2000年の量と同じだね。
2015年も同じように計算してみよう。

グラフに表してある数量だけを読み取る活動ではなく、**グラフに表されていない和や差で数量を捉える**といった活動を仕組むことが、複数の観点でグラフを読み取ることができるようになることにつながります。

5の(3)

示された計算の仕方を理解し、 48×25 の計算の仕方をより計算しやすい式にして計算することができるかどうかをみる問題

<関連する過去の問題>

H26全国B ①(2) : 示された計算のきまりを基に、異なる数値の場合でも工夫して計算する方法を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題

(3) すばるさんは、かけ算の計算のきまりを使って、 48×25 をくふうして計算しました。

【すばるさんの計算の仕方】

$$\begin{aligned} 48 \times 25 &= 4 \times 12 \times 25 \\ &= 4 \times (12 \times 25) \\ &= 4 \times 300 \\ &= 1200 \end{aligned}$$

みおさんは、【みおさんの計算の仕方】をもとにして、 $4 \times 25 = 100$ を使えば、もっと計算しやすい式になると考えました。
【すばるさんの計算の仕方】のどこをどのように変えるとよいですか。言葉や数を使って書きましょう。

【みおさんの計算の仕方】

() を使って計算する

$$\begin{aligned} 96 \times 20 \times 5 &= \square \\ 96 \times (20 \times 5) &= 96 \times 100 \\ &= 9600 \end{aligned}$$

変わらない

だから、 $96 \times 20 \times 5$ の答えの \square は、9600です。

2つの数の順番を変えて計算する

$$\begin{aligned} 50 \times 38 \times 2 &= \square \\ 50 \times 2 \times 38 &= 100 \times 38 \\ &= 3800 \end{aligned}$$

変わらない

だから、 $50 \times 38 \times 2$ の答えの \square は、3800です。

正答の導き方

〔1〕 【すばるさんの計算の仕方】の中に、 $4 \times 25 = 100$ の4と25がどこにあるかを調べる。

【すばるさんの計算の仕方】

$$\begin{aligned} 48 \times 25 &= 4 \times 12 \times 25 \\ &= 4 \times (12 \times 25) \\ &= 4 \times 300 \\ &= 1200 \end{aligned}$$

すばるさんの計算の1行目の $4 \times 12 \times 25$ に4と25がある。

必要な知識・技能

- 四則に関して成り立つ性質（交換法則、結合法則、分配法則）について理解する。
- () のある式は、() から先に計算する。

〔2〕 【みおさんの計算の仕方】の () を使って計算する方法と2つの数の順番を変えて計算する方法のどちらの方法を使えば、 $4 \times 25 = 100$ が使えるか調べる。

【すばるさんの計算の仕方】

$$\begin{aligned} 48 \times 25 &= 4 \times 12 \times 25 \\ &= 4 \times (12 \times 25) \\ &= 4 \times 300 \\ &= 1200 \end{aligned}$$

1行目の $4 \times 12 \times 25$ の12と25の2つの数の順番を変えれば、 $4 \times 25 \times 12$ となり、 $4 \times 25 = 100$ が使える。

〔3〕 どこをどのように変えれば、計算しやすい式になるかを言葉や数を使ってまとめる。

【正答例】

$4 \times 12 \times 25$ の12と25の順番を変えて、 $4 \times 12 \times 25 = 4 \times 25 \times 12$ とすると、 100×12 となり、計算しやすい式になります。

調査問題を活用した授業改善のための指導資料

誤答例とその原因

(誤答例1) みおさんの計算の仕方の2つの数の順番を変えて計算する方法を使えばよい。

(誤答例2) $(4 \times 25) \times 12$ にすればよい。

- ◆ 2つの数の順番を変えれば簡単に計算できることを理解しているが、「どこをどのように変えればよいか」と問われたことに対して答えるように記述できていない。

(誤答例3) $4 \times (12 \times 25)$ を $(4 \times 12) \times 25$ に変えるとよい。

- ◆ 条件である $4 \times 25 = 100$ を使わず、計算しやすい式になっていない。

授業改善のポイント

- 工夫せずにそのまま計算した場合と、計算のきまりを使った場合の違いをとらえさせることが大切です。



50×38×2を計算しましょう。どのように計算すればよいですか。

$$\begin{array}{r} 50 \\ \times 38 \\ \hline 400 \\ 150 \\ \hline 1900 \end{array}$$

まず、50×38を計算して、その答えに2をかけると計算できると思います。



50×38×2を右のように計算しました。計算のきまりを使って、どのような工夫をしたのでしょうか。

$$\begin{array}{r} 50 \times 38 \times 2 = \square \\ \swarrow \quad \searrow \\ 50 \times 2 \times 38 = 100 \times 38 \\ = 3800 \end{array}$$

変わらない

だから、50×38×2の答えの□は、3800です。



「かけ算は計算する順番を変えても答えは同じになる」というきまりを使って、50×38×2の38と2の順番を変えて、50×2×38にして、50×2=100が使えるように工夫しています。



前から順番に計算する方法と、順番を変えて計算する方法のどちらが簡単にできるか実際に計算して調べてみよう。

順番を変えて計算する方法は、100倍すればいいので、筆算しなくても簡単に計算することができたよ。



2つの方法で実際に計算し、どちらの方法が簡単か比較する活動を位置付けることで、簡潔性や能率性といった数学のよさに気付かせることにつながります。

- () を使って計算する方法や2つの数の順番を変えて計算する方法が、他のかけ算でも使えるかどうかを調べさせることは、方法の一般化を図るうえでも大切です。



4×39×25と43×5×20の計算をします。計算の工夫を使って、簡単に計算することはできませんか。

$$\begin{array}{l} 4 \times 39 \times 25 = 4 \times 25 \times 39 \\ = 100 \times 39 \\ = 3900 \end{array}$$

4×39×25の25と39の順番を変えて、4×25×39にすれば、4×25=100が使えて、100×39となり、簡単に計算することができます。



$$\begin{array}{l} 43 \times 5 \times 20 = 43 \times (5 \times 20) \\ = 43 \times 100 \\ = 4300 \end{array}$$

43×5×20を()を使って、4×(5×20)にして、5×20を先に計算すれば、5×20=100が使えて、43×100となり、簡単に計算することができます。



1 の三

目的や必要に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことができるかどうかをみる問題

<関連する過去の問題>

H31全国 1 三：公衆電話について調べたことについて、報告する文章の□に分かったことを書く問題

- 三 大竹さんは、「3 調査の結果から考えたこと」の□に全ての人が
 にとって快適なまちをつくるためには、ユニバーサルデザインの考え方や
 取り組みを広めていく必要があると考えた理由として、「2 調査の
 内容と結果」の(2)と(3)で分かったことをそれぞれまとめて書いてい
 ます。□に入る内容を、次の条件に合わせて書きなさい。
- 〈条件〉
- 「2 調査の内容と結果」の(2)と(3)の両方から言葉や文
 を取り上げて書くこと。
 - 【報告する文章】にふさわしい表現で書くこと。
 - 七十文字以上、九十文字以内にまとめて書くこと。

大竹さんは、全ての人が快適に生活するための工夫に興味をもち、
 バリアフリーとユニバーサルデザインについて調べて、学級の友達に報告
 することにしました。次は、大竹さんが書いている【報告する文章】
 です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

【報告する文章】

バリアフリーとユニバーサルデザインについて

(略)

2 調査の内容と結果

(略)

(2) バリアフリーとユニバーサルデザインを知っている人の割合
 (略)

これにより、ユニバーサルデザインについて知っている人の割合が
 とても低いことが分かりました。

(3) 市内の現状
 (略)

これにより、市内にも、全ての人が快適に生活するために改
 善できる場所が残っていることが分かりました。

3 調査の結果から考えたこと

調査の結果から、全ての人がにとって快適なまちをつくるために
 は、ユニバーサルデザインの考え方や取り組みを広めていく必要
 があると考えました。そのように考えた理由の一つは、バリアフ
 リーが特定の人を対象とした考えであるのに対し、ユニバーサ
 ルデザインはより多くの人を対象とした考えであることが分
 かったからです。また、今回の
 調査を通して知ったことを周りの人にも伝えていきたいです。

大竹 みちる

正答の導き方

〔1〕 問題文と〈条件〉、【報告する文章】を読んで問われていることを確認する。

- ① 問題文 —— 部から、「ユニバーサルデザインの考え方や取り組みを広めていく必要が
 あると考えた理由」を書く必要がある。
- ② 問題文と〈条件〉により、「2 調査の内容と結果」の(2)と(3)で分かったこと
 をそれぞれから取り上げる必要がある。

〔2〕 上記②の「分かったこと」を(2)と(3)のそれぞれから見つける。

- ① 「3 調査の結果から考えたこと」の「理由の一つ」「また」から、理由を大きく2点
 から述べようとしていることを捉える。
- ② 「これにより、～分かりました。」の文型に着目し、「分かったこと」の内容を捉える。
 (2) ユニバーサルデザインについて知っている人の割合がとても低いこと。
 (3) 市内にも、全ての人が快適に生活するために改善できる場所が残っていること。

〔3〕 〈条件〉「ふさわしい表現」「字数制限」に合わせて書く。

理由を表す「…から」や敬体「…です」
 などの表現に気を付ける。

必要な知識・技能

- ・目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書く。
- ・事実と感想、意見などを区別して書く。

【正答例】

ユニバーサルデザインについて知っている人の割合がとても低く、市内にも、全ての人が快
 適に生活するために改善できる場所が残っていることが分かったからです。(78字)

調査問題を活用した授業改善のための指導資料

誤答例とその原因

(誤答例1) バリアフリーの言葉の意味を知っている人が八割以上いて、市内の道路に大きな段差がある横断歩道や、狭くて通りにくい歩道を通る必要があるからです。(70字)

◆ 「考えの理由」となる(2)(3)の「分かったこと」に着目できていない。

(誤答例2) 市民を対象として行われたアンケート調査の結果によると、ユニバーサルデザインについて知っている人の割合がとても低いということが分かったからです。(72字)

◆ (2)の「分かったこと」のみに着目し、(3)の「分かったこと」を書いていない。

(誤答例3) ユニバーサルデザインについて知っている人の割合がとても低く、市内にも、全ての人が快適に生活するために改善できる場所が残っていることが分かった。(71字)

◆ 理由を表す「…から」がなく、【報告する文章】にふさわしい敬体で書いていない。

授業改善のポイント

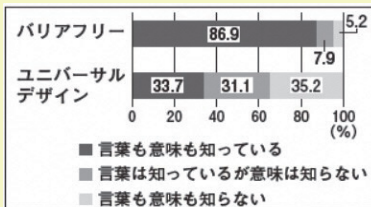
○ 「書くこと」の指導では、書く目的を明確にもつことができるように指導するとともに、目的や意図に応じて、**書くための材料を豊富に収集できるように指導**することが大切です。



調べたことを報告する文章を書くための材料を集めることができましたか。



このようなアンケート結果を見つけることができました。



伝えたいことが明確になっていない場合は、再取材を行うように促すことも大切です。

市内の現状を調べてみてはどうですか。



○ 構成の段階では、**伝えたいことを明確に伝える**ことができるように、**色分けした付箋紙などを活用して収集した情報を比較、分類、関係付けたり、取捨選択したりする**活動を設定することが有効です。



自分の考えが相手に伝わるように、取材して集めた情報と情報の関係を考えながら、文章の組み立てを考えてみましょう。

ユニバーサルデザインの考え方や取り組みを広めていく必要がある。

自分の考え

市内にも、全ての人々が快適に生活するために改善できる場所が残っている。

ユニバーサルデザインについて知っている人の割合がとても低い。

ユニバーサルデザインはより多くの人を対象とした考え方である。

分かったこと

分かったことは大きく3つで、この3つのことからユニバーサルデザインの「考え方」と「取り組み」を広めていく必要があるという組み立てにしよう。

相手に分かりやすく伝わるように、「考えと理由や事例」「原因と結果」「疑問と解決」などのつながりや配列を意識して文章全体の筋道を整えることができるように指導しましょう。

3 の三

話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問することができるかどうかをみる問題

＜関連する過去の問題＞

H28全国B 1 三：スーパーマーケットの店長へのインタビューメモを基にして、話の展開に沿った質問を書く問題

三 森田さんは、【インタビューの一部】の□の中で、【事前に準備したインタビューメモ】をもとに質問をしています。どのような質問をしたと考えられますか。次の条件に合わせて書きなさい。

＜条件＞

- 【事前に準備したインタビューメモ】の内容を使って質問をすること。
- 【インタビューの一部】の* 線部の森田さんの質問のように、「◇原さん」の発言を受けて質問をすること。
- 三十字以上、五十字以内で書くこと。

森田さん (略)

◇原さん (略) ほかにどのようなイベントを行っていますか。絵本の手作り体験会を行っています。これには、自分で一から絵本を作ってもらおうと、その大変さを知り図書館の本を大切にしようという目的があります。図書館のイベントとしては、本に親しんでもらうことを目的とした読み聞かせ会がよく知られていますが、私たちは、目的に合わせているいろいろなイベントを考えているのですよ。

森田さん

【インタビューの一部】

森田さん (略) *本を探しやすくするために、分類の仕方を変えて本を並べているということですが、そのときに、おすすめの本を目立たせる工夫は何かしているのですか。

◇原さん (略) ほかにどのようなイベントを行っていますか。これには、自分で一から絵本を作ってもらおうと、その大変さを知り図書館の本を大切にしようという目的があります。図書館のイベントとしては、本に親しんでもらうことを目的とした読み聞かせ会がよく知られていますが、私たちは、目的に合わせているいろいろなイベントを考えているのですよ。

森田さん (略) ほかにどのようなイベントを行っていますか。絵本の手作り体験会を行っています。これには、自分で一から絵本を作ってもらおうと、その大変さを知り図書館の本を大切にしようという目的があります。図書館のイベントとしては、本に親しんでもらうことを目的とした読み聞かせ会がよく知られていますが、私たちは、目的に合わせているいろいろなイベントを考えているのですよ。

森田さん (略) ほかにどのようなイベントを行っていますか。絵本の手作り体験会を行っています。これには、自分で一から絵本を作ってもらおうと、その大変さを知り図書館の本を大切にしようという目的があります。図書館のイベントとしては、本に親しんでもらうことを目的とした読み聞かせ会がよく知られていますが、私たちは、目的に合わせているいろいろなイベントを考えているのですよ。

森田さん (略) ほかにどのようなイベントを行っていますか。絵本の手作り体験会を行っています。これには、自分で一から絵本を作ってもらおうと、その大変さを知り図書館の本を大切にしようという目的があります。図書館のイベントとしては、本に親しんでもらうことを目的とした読み聞かせ会がよく知られていますが、私たちは、目的に合わせているいろいろなイベントを考えているのですよ。

正答の導き方

〔1〕問題文と＜条件＞、【事前に準備したインタビューメモ】【インタビューの一部】を読んで、問われていることを確認する。

- ① ＜条件＞から【事前に準備したインタビューメモ】の＜必ず聞くこと＞＜必要に応じて聞くこと＞の中から内容を取り上げる必要があることを捉える。
- ② 「◇原さん」の発言の内容から、**絵本作り体験会**について質問することを捉える。

〔2〕インタビューの流れを踏まえて、【事前に準備したインタビューメモ】の中で、どの質問をするとよいか考える。

- ① 「◇原さん」の発言の「**これには、・・・目的があります。**」から、目的についてはすでに情報を得ていることを捉える。
- ② インタビューメモの中で「**イベントに対する反応はどうか**」については、質問していないことを捉える。

〔3〕「◇原さん」の発言を受けて質問をする。

相手の発言を確認した上で質問する言い方「**…ということですが、**」を用いて質問をする。

必要な知識・技能

- ・話し手の意図を捉えて、話の要点をまとめる。
- ・自分が聞こうとする意図に応じて聞く。

【正答例】

絵本の手作り体験会を行っているということですが、利用者の反応はいかがですか。(38字)

調査問題を活用した授業改善のための指導資料

誤答例とその原因

(誤答例1) それでは、図書館の利用者の方たちはどのような反応をされていますか。
(33字)

(誤答例2) 講演会や朗読会などのイベントは、どのような目的で行っていますか。
(32字)

- ◆ どちらも、【事前に準備したインタビューメモ】をもとに質問はしているが、直前の「◇原さん」の発言を受けた質問になっていない。

(誤答例3) 図書館にある本の中で、どの分類の本が一番多く貸し出されていますか。
(33字)

- ◆ 【事前に準備したインタビューメモ】の〈必ず聞くこと〉〈必要に応じて聞くこと〉の内容と関係のない質問をしている。

授業改善のポイント

インタビュー等の活動では、相手の回答等によって、想定通りにインタビューを進めることができない場合があります。このようなインタビューの特質を踏まえ、**目的に応じて必要な事柄について調べる**ことができるように、**事前の段階における指導**が重要になります。

- 事前に**インタビューメモ**を作成しておくことで、自分が聞きたいことが明確になり、見通しをもって、**話の展開に沿った質問**をすることができます。



事前に調べたことをもとに、自分がもっと知りたいことについて、質問することを整理しましょう。相手とのやり取りを予想して、追加の質問も考えておきましょう。

目的を明確にする

「市立図書館では、利用者を増やすために具体的にどのような工夫をしているのか」

〈調べて分かったこと〉
一般書と中高生向けの本や児童書とでは、本の並べ方を変えている。

〈必ず聞くこと〉
なぜ、並べ方をかえているのか。
〔予想〕
本を探しやすくするため。

〈必要に応じて聞くこと〉
並べ方を変えるときに、おすすめの本を目立たせる工夫をしているのか。
学校図書館にも取り入れられそうな工夫はあるか。

事前に調べたことに
応じて質問を考える

答えを予想し、やり取り
のイメージをもつ

さらに聞きたいこと
を考えておく

具体的に
聞く

- 必要に応じて聞き返したり、話し手の内容を受けて返したりと、**話の展開に沿って質問**ができるように、質問の仕方について**具体例を挙げて指導**することが大切です。



インタビューをするときは、**話し手の発言を受けて質問**をすることが大切です。
どのように言えばよいか、練習してみましょう。

◆ 話し手の話の内容を確認した上で質問する場合

「・・・ということですが、
・・・ですか。」

◆ 話し手の話の内容を言い換えて質問する場合

「・・・ということは、
・・・ですか。」

◆ 話し手の話の内容と関係付けて質問する場合

「・・・と比べて、
・・・はどうですか。」

各教科や総合的な学習の時間、特別活動などとの関連を図って指導しましょう。

実際の学習や生活場面等において使う機会をもつことで、より効果的な情報の伝達ができるということを実感を伴って理解することができます。

4 の(2)

割合が同じで基準量が増えているときの比較量の大小を判断し、その判断の理由を説明することができるかどうかをみる問題

〈関連する過去の問題〉 H23全国(小6) B 4(3)：比較量の大小判断について、示された判断が正しい理由を言葉や数を用いて記述する問題

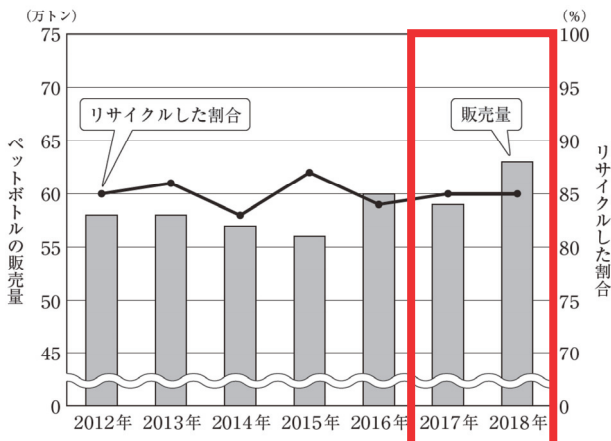
4 洋一さんのグループでは、日本のペットボトルのリサイクルについて調べています。
洋一さんたちは、2012年から2018年までの日本のペットボトルの販売量とリサイクルした割合を調べて、下のようなグラフに表しました。棒グラフはペットボトルの販売量を、折れ線グラフはリサイクルした割合を表しています。

(2) リサイクルしたペットボトルの量は、次の式で求められます。

$$\text{リサイクルしたペットボトルの量(トン)} = \text{販売量(トン)} \times \text{リサイクルした割合}$$

比べる量 もとになる量 割合

ペットボトルの販売量とリサイクルした割合



洋一さんは、前ページのグラフの2012年と2013年のところを見て、次のように言いました。

洋一さんの説明

2012年と2013年は、販売量は同じで、リサイクルした割合は2013年の方が多いです。だから、2013年にリサイクルしたペットボトルの量は、2012年より多いといえます。

前ページのグラフの2017年と2018年のところを見て考えます。このとき、「2018年にリサイクルしたペットボトルの量は、2017年より多い」ということは正しいですか、正しくないですか。下のア、イから1つ選び、その記号を書きなさい。また、その理由を洋一さんの説明と同じように説明しなさい。

- ア 正しい
- イ 正しくない

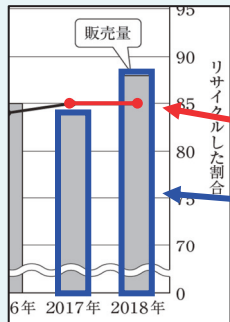
正答の導き方

〔1〕【洋一さんの説明】が表している内容を、**比べる量** = **もとになる量** × **割合**の式にあてはめて確認する。

2012年と2013年は、販売量は同じで、リサイクルした割合は2013年の方が多いです。だから、2013年にリサイクルしたペットボトルの量は、2012年より多いといえます。

$$\begin{array}{l} \text{リサイクルしたペットボトルの量(トン)} = \text{販売量(トン)} \times \text{リサイクルした割合} \\ 2012 \quad \text{小} = \text{同じ} \times \text{小} \\ 2013 \quad \text{大} = \text{同じ} \times \text{大} \end{array}$$

〔2〕グラフから必要な情報（もとになる量、割合）を取り出し、**比べる量**の大小を判断する。



- ① リサイクルしたペットボトルの量（比べる量）を求めるには、「販売量（もとになる量）」×「リサイクルした割合（割合）」
- ② 折れ線グラフから、2017年と2018年のリサイクルした割合（割合）はどちらも同じ。
- ③ 棒グラフから、2017年と2018年の販売量（もとになる量）は2018年の方が大きい。
- ④ 割合は等しく、販売量は2018年の方が大きいので、リサイクルしたペットボトルの量は2018年の方が多いといえる。

必要な知識・技能

- ・ 目的に応じて、グラフから必要な情報を読み取る。
- ・ 基準量、比較量、割合の関係を理解する。

$$\begin{array}{l} \text{リサイクルしたペットボトルの量(トン)} = \text{販売量(トン)} \times \text{リサイクルした割合} \\ 2017 \quad \text{小} = \text{小} \times \text{同じ} \\ 2018 \quad \text{大} = \text{大} \times \text{同じ} \end{array}$$

〔3〕判断の理由を「洋一さんの説明」と同じように書く。

【正答例】（記号）ア（理由）2017年と2018年は、リサイクルした割合は同じで、販売量は2018年の方が多いです。だから、2018年にリサイクルしたペットボトルの量は、2017年より多いといえます。

調査問題を活用した授業改善のための指導資料

誤答例とその原因

(誤答例1) (記号) 「イ 正しくない」

- ◆ 比較すべき情報を理解できていなかったり、情報を正しく読み取れていなかったりしている。

(誤答例2) (理由) 販売量は2018年の方が多からです。

(誤答例3) (理由) 2017年も2018年も85%だからです。リサイクルした量も同じです。

- ◆ 「何の割合か」など説明する対象を示す言葉や、グラフに示されている割合、判断の目安となる割合、大小の比較を表す言葉など、判断の理由の説明として必要な事柄を捉えられていない、または、それらを表す言葉を使って説明することができていない。

授業改善のポイント

- 異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係について、式に当てはめて解を導き出す学習だけでなく、**全体と部分の関係を理解させることが大切です。**

計算せずに、右のように考えて2013年が多いと判断しています。
なぜ、2013年が多いといえるのでしょうか。

2012年と2013年は、販売量は同じで、リサイクルした割合は2013年の方が多いです。だから、2013年にリサイクルしたペットボトルの量は、2012年より多いといえます。

2012年と2013年の販売量が同じで、リサイクルした割合は2013年が多いということを式に当てはめると、このように表すことができるね。

$$\begin{array}{l} \text{リサイクルしたペットボトルの量(トン)} = \text{販売量(トン)} \times \text{リサイクルした割合} \\ 2012 \quad \text{小} = \text{同じ} \times \text{小} \\ 2013 \quad \text{大} = \text{同じ} \times \text{大} \end{array}$$

もとになる量の販売量が同じならば、割合が大きいほうが比べる量のリサイクルしたペットボトルの量は大きくなるね。

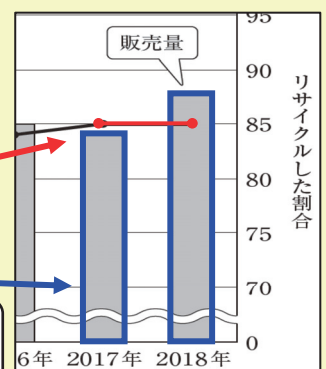
だから、計算しなくても2013年にリサイクルしたペットボトルの量は、2012年より多いということがわかるんだね。

文章だけの説明を式やキーワードで表現し直す活動を位置付けることで、異種の二つの量の割合についての理解が深まります。

- 全体で共有した考えが、別の事象でも活用できるかどうか調べさせることは、内容の理解を深めるうえでも大切です。

では、リサイクルした量が多いのは、2017年と2018年のどちらの年ですか？

$$\begin{array}{l} \text{リサイクルしたペットボトルの量(トン)} = \text{販売量(トン)} \times \text{リサイクルした割合} \\ 2017 \quad \text{小} = \text{小} \times \text{同じ} \\ 2018 \quad \text{大} = \text{大} \times \text{同じ} \end{array}$$



2018年です。2017年と2018年のリサイクルした割合は同じなので、販売量の多い2018年の方がリサイクル量は多くなります。

もとになる量が同じときは、割合が大きいほうが、比べる量が大きくなり、割合が同じときは、もとになる量が大きいほうが比べる量が大きくなるんだね。

5の(2)

示された考えを解釈し、その表現方法を適用して、条件が変わった場面に
おける二つの数量の関係について記述することができるかどうかをみる問題

<関連する過去の問題>

H30全国(小6)B 4(2) : 横に並んでいる七つの数について、示された表現方法を用いて書く問題

次に、それぞれの曜日のたてに並んでいる数について話し合いました。

8月のカレンダー

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

結衣さんは、9月6日が何曜日になるのかを下のように入求めました。

【結衣さんの考え】

9月6日を、8月のカレンダーの数の続きだとして考えると、8月
の31日と9月の6日をたすので、
 $(31+6) \div 7 = 37 \div 7$
 $= 5$ あまり2
あまりが2なので、9月6日は木曜日になります。



8月のカレンダーの火曜日の数の「7, 14, 21, 28」は、7でわるとすべてわりきれ数になっています。



木曜日の数の「2, 9, 16, 23, 30」は、7でわるとすべてあまりが2になるね。



土曜日の数の「4, 11, 18, 25」は、7でわるとすべてあまりが4になります。



同じように考えると、7でわると日曜日の数はあまりが5、月曜日の数はあまりが6、水曜日の数はあまりが1、金曜日の数はあまりが3になっているね。



このきまりを使うと、9月のある日が何曜日になるのかを調べられそうだね。

(2) 9月26日が何曜日になるのかを考えます。【結衣さんの考え】と同じように説明すると、どのようになりますか。言葉や式を使って書きなさい。

正答の導き方

〔1〕 話し合いの内容をもとに【結衣さんの考え】にある式の意味を理解する。

- ① $(31+6)$ は、8月の31日と9月の6日をたした数であること
- ② 1週間が7日であることから、 $\div 7$ をしていること
- ③ あまりの数が分かれば、曜日が分かるということ
(月曜日…6、火曜日…0、水曜日…1、木曜日…2、金曜日…3、土曜日…4、日曜日…5)

〔2〕【結衣さんの考え】をもとに、9月26日の曜日を調べる式について考える。

- ① 9月26日を求めるので、8月の31日と26日をたすこと $\rightarrow 31+26$
- ② 1週間が7日であることから、 $\div 7$ をすること $\rightarrow (31+26) \div 7$
- ③ あまりの数が1ということから、水曜日であること $\leftarrow (31+26) \div 7 = 8$ あまり1

〔3〕【結衣さんの考え】と同じように言葉や式を使って、説明する。

【正答例】

9月26日を、8月のカレンダーの数の続きだとして考えると、
8月の31日と9月の26日をたすので、
 $(31+26) \div 7 = 57 \div 7$
 $= 8$ あまり1
あまりが1なので、9月26日は水曜日になります。

必要な知識・技能

- 余りのある除法の被除数、除数、余りの関係を理解する。
- $()$ と除法が混じった式は、 $()$ から先に計算する。

調査問題を活用した授業改善のための指導資料

誤答例とその原因

(誤答例1) $26 \div 7 = 3$ あまり5。あまりが5なので、9月26日は日曜日になります。

- ◆ ふき出しの中からあまりに関するきまりは読み取ることができているが、【結衣さんの考え】の意味を読み取ることができていない。

(誤答例2) 9月26日を、8月のカレンダーの数の続きだとして考えると、8月の31日と9月の26日をたすので、 $31 + 26 \div 7 = 34$ あまり5。あまりが5なので9月26日は日曜日になります。

- ◆ 9月の26日を8月の続きとして考えているが、式表示において $(31 + 26)$ としておらず、 $26 \div 7$ を先に計算し、その余りに8月のカレンダーの曜日のきまりを用いている。

授業改善のポイント

- 数表のきまりを使って問題を解く場面では、きまりの見つけ方が重要になります。そこで、会話の中の**考え方の共通点に着目させ**、二つの数量の関係を**言葉の式**でつくらせましょう。

結衣さん、美波さん、貴史さんの会話で共通していることは、どんなことでしょうか。

3人とも、それぞれの曜日の日数を7でわって、あまりの数を出しています。

あまりの数と曜日の2つには、きまりがあるんだね。

3人の会話の中のきまりを式に表すことはできるでしょうか。

8月のカレンダーの火曜日の数の「7, 14, 21, 28」は、7でわるとすべてわりきれ数になっています。

木曜日の数の「2, 9, 16, 23, 30」は、7でわるとすべてあまりが2になるね。

土曜日の数の「4, 11, 18, 25」は、7でわるとすべてあまりが4になります。

3人の会話の中のきまりを式に表すことはできるでしょうか。

8月の日数 $\div 7 = \bigcirc$ あまり Δ になり、 Δ の数で何曜日がわかります。

- **見つけたきまりが、違う場面でも使えるかどうかを調べさせる**ことは、二つの数量の関係（日数とあまりの関係）の理解をより深めさせたり、きまりの一般化を図らせたりするためにも大切です。

それでは、10月10日が何曜日になるのかを調べてみましょう。
8月のカレンダーのきまりを使うには、どうすればよいでしょうか。

10月を8月のカレンダーの続きと考えるとあまりと曜日のきまりがそのまま使えるね。
8月の日数 $\div 7 = \bigcirc$ あまり Δ の8月の日数を（8月の日数+9月の日数+10日）にすればいいね。

10月10日を8月のカレンダーの続きとして考えると、8月の31日と9月の30日と10月の10日をたすので、 $(31 + 30 + 10) \div 7 = 71 \div 7 = 10$ あまり1
あまりが1なので、水曜日になるね。
このきまりは、8月の日数の続きと考えると、どの月にも使えるんだね。

8月のカレンダー

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	25
		あまり0		あまり2		あまり4

2 (33)	3 (34)	4 (35)	5 (36)	6 (37)	7 (38)	8 (39)
9 (40)	10 (41)	11 (42)	12 (43)
...
...	9月の日数
...
...	10 (?)	10月の日数

式の中にある**二つの数量の対応や変化の関係の特徴を捉えさせる**ことは、関数の考えを伸ばすことにもつながります。

3 の二

事実と意見との関係に注意して話すことができるかどうかをみる問題

<関連する過去の問題>

H31全国 ③ 二：伝えたい事柄について、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる問題

二 【話し合いの一部】の中で、根本さんは【アンケート調査の結果】の資料1から資料4までのうち、一つの資料をもとに意見を述べています。ア に当てはまる言葉を、次の条件1から条件3にしたがって書きなさい。

条件1 【アンケート調査の結果】の資料1から資料4までのうち、どの資料をもとに話しているかを明確に書くこと。その際、資料1などと記すこと。

条件2 【アンケート調査の結果】の具体的な数値を挙げて書くこと。グラフの数値を書く場合は左の例にならうこと。

条件3 四十字以上、六十字以内で書くこと。

例 0・2% 34・5%

【話し合いの一部】

西野(司) 生徒会では毎年、ボランティア活動を企画してきましたが、年々参加者が減っています。そこで今日は、どうすれば全校生徒がもっと活動に興味をもち、参加するようになるかを考えたいと思います。先日、活動について全校生徒を対象にアンケート調査を行いました。その結果も踏まえながら意見を出してください。

竹田 活動にまず一度参加してもらった方がいいと思いますが、どうでしょうか。

西野 はい、私は、ボランティア活動に参加したことがない生徒に、まず一度参加してもらった方がいいと思います。

竹田 はい、私は、ボランティア活動に参加したことがない生徒に、まず一度参加してもらった方がいいと思います。

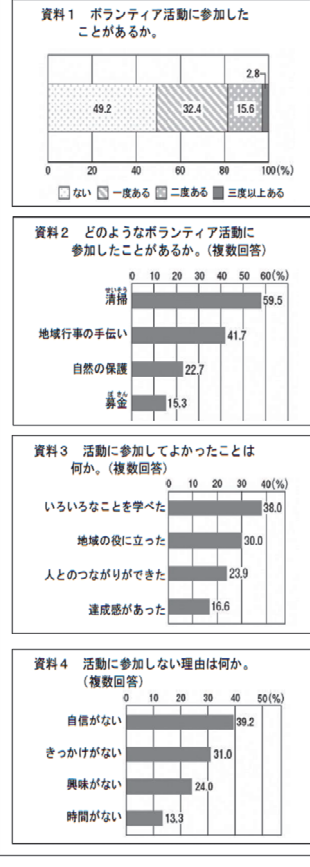
西野 活動にまず一度参加してもらった方がいいと思いますが、どうでしょうか。

竹田 はい、私は、ボランティア活動に参加したことがない生徒の割合が約五十パーセントと高いことに気付いたから、ア アンケート調査の結果から、一度も参加したことがない生徒の割合が約五十パーセントと高いことに気付いたからです。

根本 私は、竹田さんの意見に賛成です。アンケート調査の結果によると、一度も参加したことがない生徒は、消極的な考えをもっている人が多いようです。ア 一度参加してみたら、そのような消極的な考えはなくなると思います。

福岡 私は以前、ボランティア活動に参加したことがありますが、参加する前は不安でした。しかし、実際に活動してみると、地域の一員として役に立てたと実感できました。

〜(話し合いが続く)〜



かえて中学校の生徒会では、全校生徒にボランティア活動への参加を呼びかけるための方法について話し合っています。次は、ボランティア活動について生徒会が行った【アンケート調査の結果】と、それを見ながらの【話し合いの一部】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

アンケート調査の結果

正答の導き方

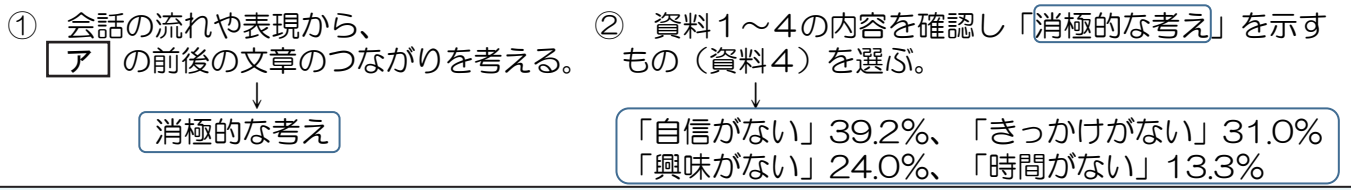
〔1〕 問題文と【話し合いの一部】、条件を読んで問われていることを確認する。

- ① 【話し合いの一部】の「ア」に入る言葉を、【アンケート調査の結果】のうち資料(一つ)をもとに考える必要がある。
- ② ①で選んだ資料を読み取り、「ア」の前後の文章とつながるように、条件1から3を踏まえて書く必要がある。

必要な知識・技能

- ・自分の意見とその根拠となる事実との関係を明確にする。
- ・複数の資料を目的に応じて読み、情報を整理する。

〔2〕 「ア」に当てはまる言葉がどの資料をもとに述べられているか、資料1から資料4のうちから見つける。



〔3〕 条件1～3にしたがって、「ア」に当てはまる言葉を書く。

【正答例】

- ・それは、資料4において、「自信がない」と回答している人が39.2%であることから分かります。(47字)
- ・それは、資料4で「きっかけがない」が31.0%であることから分かります。まずはきっかけをつくるのが大切だと思います。(55字)

調査問題を活用した授業改善のための指導資料

誤答例とその原因

(誤答例1) 「自信がない」と回答している人が39.2%いることから、消極的な考えをもっている人が多いことが分かります。(52字)

- ◆ 具体的な数値を挙げて書くことができている。しかし、どの資料をもとに意見を述べているかを明確に書いていない。つまり、条件1の内容が不足している。

(誤答例2) 資料4を見ると「きっかけがない」のように、消極的な考えをもっている人が多いことが分かります。(45字)

- ◆ 資料を示し、前後の会話の流れをふまえた言葉を書くことができている。しかし、選んだ資料から具体的な数値を挙げて書いていない。つまり、条件2の内容が不足している。

(誤答例3) 資料3と資料4を比較をすると、ボランティア活動に参加しない人が活動に対して消極的な考えをもっていることが分かります。(57字)

- ◆ 資料を示して書くことができている。しかし、選んだ資料から具体的な数値を挙げて書くという条件2の内容が不足している。また、資料を2つ挙げているが、問には「一つの資料をもとに」と示されている。問全体の設定や内容の確認が不足している。

授業改善のポイント

- 事実と意見との関係に注意して話すためには、**自分の意見とその根拠となる事実を明確にするよう指導することが大切です。**



あなたは、ボランティア活動への参加を呼びかけるにはどうしたらいいと思いますか。自分の意見とその根拠となる資料を整理しましょう。

私は、一度も参加したことがない人が多いようなので、その人たちに呼びかける必要があると思います。また、参加したことのない人たちの気持ちも踏まえて呼びかけるべきだと思います。



資料	タイトル	分かること
1	ボランティア活動に参加したことがあるか	参加した回数
2	どのようなボランティア活動に参加したことがあるか	ボランティア活動の種類 参加する人が多い活動
3	活動に参加してよかったことは何か	利点 参加する理由
4	活動に参加しない理由は何か	消極的な考え 参加しない理由

一度も参加したことがない人が多いことは、資料1で分かります。また、その人たちの気持ちは、資料4から分かりそうですね。

資料4を見ると、ボランティア活動に対して消極的な考えを持っている人が多いことが分かります。



では、意見を発表してみましょう。

資料4を見ると、「自信がない」が39.2%、「きっかけがない」が31.0%と、ボランティア活動に対して消極的な考えをもっている人が多いことが分かります。

一度参加してみるとそのような考えはなくなると思うので、参加したことがない人たちに向けて呼びかけることが大切だと思います。

4 の三

文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもつことができるかどうかをみる問題

<関連する過去の問題>

H28全国B1三：文章の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書くことができるかどうかをみる問題

- 条件1 「黒沢さんは、……。赤木さんは、……。」という形で書くこと。
- 条件2 表現の工夫を具体的に書くこと。
- 条件3 五十文字以上、七十文字以内で書くこと。

三 【図書館だよりの一部】の中の「推薦文コーナー」で、黒沢さんと赤木さんは、それぞれどのような表現の工夫をして書いていますか。あなたの考えを、次の条件1と条件3にしたがって書きなさい。

すいせん
推薦文コーナー

「ヒコハ、オレト トモダチニナリタクナイノカ!?!」
これは、ヒコが、自分にはハリーと友達になる資格がないと言ったとき、ハリーが怒りながら発した言葉です。ハリーの切実な思いが伝わってきて、雷に打たれたような衝撃を受けました。
友達になるのに資格なんかいら
ない——そういう大切なことを、私
はこの本から教えてもらいました。

もみじ中学校
赤木さん

皆さんは、「思いやり」とはどういうものだと思いますか。
この本の中で、ヒコはハリーと友達になります。人間とコロボツクルという違いはありますが、おたがいを大切に思う気持ちがあるので、友情を深めることができます。
この本を読んで、身の周りの人に対して優しい気持ちで接するためのヒントを得てみませんか。

さくら中学校
黒沢さん

A町では、地域の図書館が毎月図書館だよりを発行しています。次は、その【図書館だよりの一部】です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。


正答の導き方

〔1〕「推薦文コーナー」と条件を読んで、問われていることを確認する。

- ①黒沢さんと赤木さんの表現の工夫について書く必要がある。
- ②条件1により、「黒沢さんは、……。赤木さんは、……。」という形で書く必要がある。
- ③条件2より、表現の工夫について、具体的に書く必要がある。
- ④条件3により、50字以上、70字以内で書く必要がある。


〔2〕表現の工夫の具体的な内容を、黒沢さんと赤木さんの推薦文から見つける。

さくら中学校
黒沢さん



- ・「「思いやり」とはどういうものだと思いますか。」という表現で、読み手に呼びかけている。
- ・「ヒントを得てみませんか。」という表現で、読み手に呼びかけている。

もみじ中学校
赤木さん



- ・本の中で印象に残った「ヒコハ、オレト トモダチニナリタクナイノカ!?!」という言葉を用いている。
- ・「雷に打たれたような衝撃」という比喩の表現を用いている。

〔3〕条件1～3にしたがい、表現の工夫について書く。

【正答例】

黒沢さんは、「ますか」「みませんか」のように呼びかける表現を使っている。赤木さんは、本の中で印象に残った言葉を引用しながら紹介している。
(68字)

必要な知識・技能

- ・表現の仕方について分析する。
- ・自分の考えを支える根拠となる部分を挙げて書く。

調査問題を活用した授業改善のための指導資料

誤答例とその原因

(誤答例1) 黒沢さんは、呼びかける表現を使って書いている。赤木さんは、言葉を引用しながら紹介している。(45字)

- ◆ 50字以上、70字以内で書いていない。つまり、条件3の内容が不足している。

(誤答例2) 黒沢さんは、思いやりや優しい気持ちのことを書いている。赤木さんは、友達になるのに資格なんかいらぬことを書いている。(58字)

- ◆ 表現の工夫について具体的に書いていない。つまり、条件2の内容が不足している。

(誤答例3) 黒沢さんは、「思いますか」「得てみませんか」のように、初めと終わりの部分に、読み手に呼びかける表現を使って書いている。(59字)

- ◆ 黒沢さんと赤木さんのそれぞれの表現の工夫について書くことができていない。つまり、条件1の内容が不足している。

授業改善のポイント

- 文章の構成や展開、表現の特徴について自分の考えをもたせるためには、**表現の仕方に着目させ、その効果を考えさせるように指導をすることが大切です。**



【推薦文コーナー】の黒沢さん、赤木さんのそれぞれの文章には、どのような表現の工夫があるでしょうか。文章を比べて考えてみましょう。

	赤木さん		黒沢さん
引用	「ヒコハ、オレト トモダチニナリタク ナイノカ!？」 (登場人物の言葉)	呼びかけ	「皆さんは“思いやり”とはどういうものだと思いますか」 「この本を読んで～(略) ヒントを探してみませんか？」
比喩	「雷にうたれたような衝撃」		

黒沢さんは、文章のはじめと終わりで読み手に呼びかける工夫をしています。



赤木さんは、印象に残った言葉を引用したり、比喩の表現を用いたりする工夫をしています。



推薦文の中から見つけた黒沢さん、赤木さんの表現の工夫には、どのような効果があるのでしょうか。考えを述べ合ひましょう。

呼びかける表現をすることで、読み手に自分に語り掛けられていると感じさせ、読んでみようと思わせる効果があると思います。はじめと終わりの二回呼びかけることで、その効果を高めていると思います。



比喩を用いることで、伝えたいイメージをわかりやすくしたり、強調して伝えたりできます。また、引用することで、読み手に自分の考えが伝わりやすくなります。



「読むこと」の指導において、表現の仕方の工夫を見つけてその効果を考えたり、自分の考えの根拠を明確にして考えをまとめたりすることは、相手に分かりやすく効果的に伝わるように書くという「書くこと」の学習にもつながります。

2 の(3)

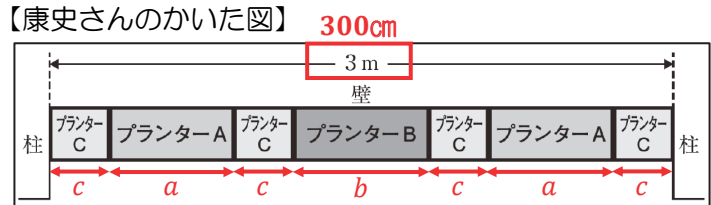
適切な事柄を判断し、その事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題

<関連する過去の問題>

H28全国B 1 (3) : 数学的な結果を事象に即して解釈することを通して、適切な事柄を判断し、その事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題

美化委員の恵美さんと康史さんは、学校の柱と柱の間のスペースに、花を植えたプランターを並べる計画を立てています。

(3) 康史さんは、プランターAとは横の長さが異なる直方体のプランターB、プランターCも並べたいと考え、右のような図をかきました。



康史さんのかいた図から、プランターAの横の長さを a cm、プランターBの横の長さを b cm、プランターCの横の長さを c cmとすると、 $2a + b + 4c = 300$ という式ができます。これをもとに、二人は話合っています。

康史さん「柱とプランターCの間と、それぞれのプランターの間は、できるだけあけないようにしたいな。」

恵美さん「プランターAの横の長さは60cmで、プランターBの横の長さは65cmだよ。このとき、プランターCの横の長さが30cmだったら、並べることはできるのかな。」

康史さん「 $2a + b + 4c = 300$ という式を利用して考えられないかな。」

恵美さん「 $a = 60$ 、 $b = 65$ になるから、 c がわかりそうだね。」

【康史さんのかいた図】のように、横の長さが60cmのプランターAと、横の長さが65cmのプランターBを並べるとき、横の長さが30cmのプランターCを4個並べることはできますか。下のア、イの中から正しいものを1つ選び、その記号を書きなさい。また、それが正しいことの理由を、 $2a + b + 4c = 300$ の式をもとに説明しなさい。

ア 横の長さが30cmのプランターCを4個並べることはできる。

イ 横の長さが30cmのプランターCを4個並べることはできない。

正答の導き方

〔1〕 式 $2a + b + 4c = 300$ が何を表しているのかを確認する。

① プランターAを2個、プランターBを1個、プランターCを4個並べたときの横の長さの合計と、柱と柱の間のスペース300cmとが等しいことを表した式である。

〔2〕 プランターA、プランターBの横の長さを式 $2a + b + 4c = 300$ に代入し、 c の値を求める。

① $a = 60$ 、 $b = 65$ を代入して、 c についての一次方程式を解く。

② $2 \times 60 + 65 + 4c = 300$ $c = 28.75$ となる。

〔3〕 〔2〕で求めた c の値とプランターCの横の長さ30cmを比較する。

① $c = 28.75$ は、柱と柱の間のスペースにすき間なく並べることができるプランターCの横の長さを表している。

② プランターCの横の長さ30cmと比較すると、 $28.75 < 30$ となり、柱と柱の間のスペース300cmを超えるので、並べることができない。

必要な知識・技能

- 文字の式が表す数量の意味を理解する。
- 一元一次方程式を解く。
- 方程式の解の意味を理解する。
- 文字に値を代入して、式の値を求める。

【正答例】

(記号) イ

(理由) $2a + b + 4c = 300$ の式に、 $a = 60$ 、 $b = 65$ を代入すると、 $185 + 4c = 300$ これを解くと、 $c = 28.75$ $28.75 < 30$ となるので、横の長さが30cmのプランターCを4個並べることはできない。

調査問題を活用した授業改善のための指導資料

誤答例とその原因

(誤答例1) (記号) ア

(理由) $a = 60$ 、 $b = 65$ なので、 $2a + b = 2 \times 60 + 65 = 185$

$4c = 185$ より $c = 46.25$ よって、4個並べることができる。

- ◆ 与えられた式の意味が理解できていないため、プランターAの横の長さの合計、プランターBの横の長さ、プランターCの横の長さの合計、柱と柱の間のスペースの4つの数量の関係を捉えることができていない。

(誤答例2) (記号) イ

(理由) $2a + b + 4c = 300$ に $a = 60$ 、 $b = 65$ を代入すると、

$$2 \times 60 + 65 + 4c = 300 \quad 4c = 115$$

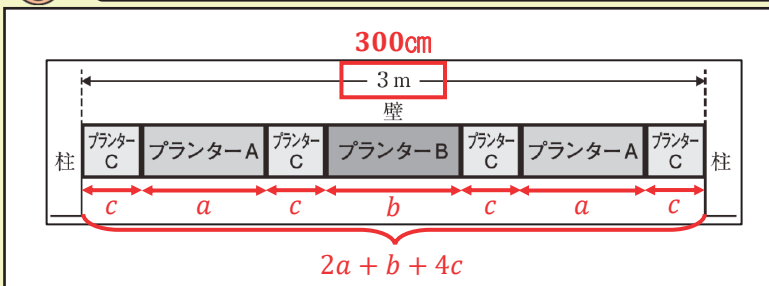
- ◆ 数学的な表現と具体的な場面とを結びつけられていないため、 $4c = 115$ から $c = 28.75$ と求めて30と比較することや、 $4c$ の c に30を代入して120と115を比較することが必要であることを理解できていない。

授業改善のポイント

- 数学的な表現と具体的な場面とを結び付けて考えられるようにするために、式と図を提示した上で式の意味を問うたり、方程式の解が与えられた条件に当てはまるかどうかを確認させたりすることが大切です。



式 $2a + b + 4c = 300$ は、何と何が等しいことを表した式ですか。



左の図を見てわかるように、プランターAを2個、プランターBを1個、プランターCを4個並べたときの横の長さの合計と、柱と柱の間のスペース300cmが等しいことを表した式です。



上の図のようにプランターを並べるとき、 $2a + b + 4c = 300$ という式を使うと、プランターCの横の長さが求められます。どのように使えば求められますか。

この式に、 $a = 60$ 、 $b = 65$ を代入して c についての一次方程式を解けば、 c の値を求められます。



求めた c の値は何を表していますか。

求めた c の値は、柱と柱の間のスペースに、3種類のプランターをぴったり並べたときのプランターCの横の長さです。



では、プランターCの横の長さは30cmですが、柱と柱の間のスペースに入るかどうかは、どのように考えればよいでしょうか。

30cmが c の値より小さければ入ります。30cmが c の値より大きければ入りません。



いま、考えたことをもとにして、問題を解いてみましょう。

問題解決させる際には、見通しをもたせる段階において、すでにわかっていることや、何がいえればよいのかを確認するなど、「何を、どのように、どうするのか」が明らかになるような活動を位置付けることが大切です。

4の(2)②

2つの図形の関係を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題。

<関連する過去の問題>

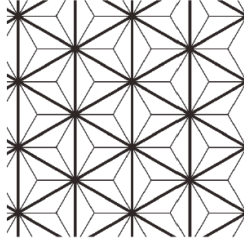
H29全国 [B] 1 (2) : 2つの図形の関係を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題

組子の模様の中には、同じ模様を組み合わせたものが多くあります。
例えば、図1の正三角形の模様を組み合わせると、図2のような模様ができます。

図1

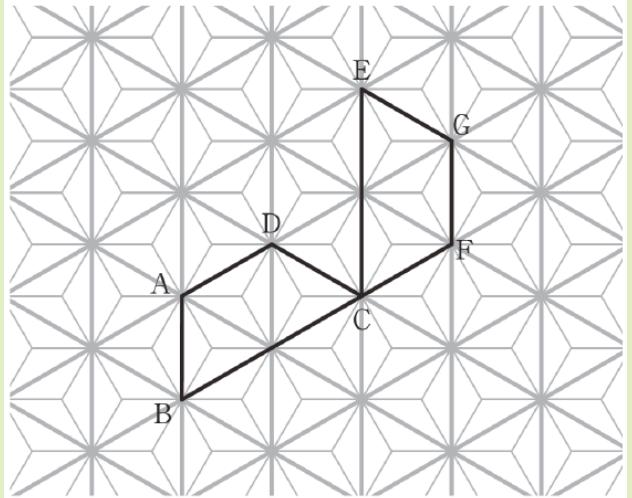


図2



② 前ページの図2の模様を図4のように広い範囲で考えます。図4の四角形ABCDの模様は、1回の回転移動で四角形GECFの模様と重なります。四角形ABCDの模様は、どの点を回転の中心として、どの向きに、何度回転することによって、四角形GECFの模様と重なるか説明しなさい。

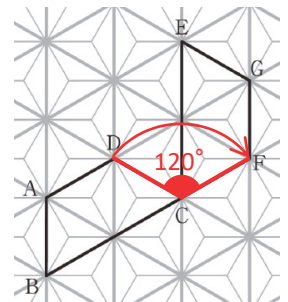
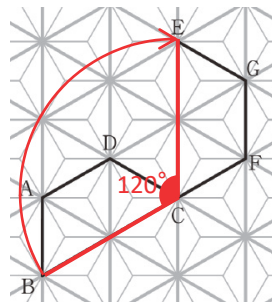
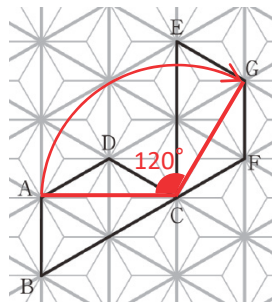
図4



正答の導き方

〔1〕 どの点を回転の中心にするかの見当をつけ、その点を中心に回転移動したときに、対応する点と回転の中心とを結んでできた角の大きさはすべて等しいことを確認する。

- 右図から、
- 【回転の中心】 点C
- 【対応する点】
点Aと点G、点Bと点E、
点Dと点F、点Cと点C
- 【回転の向き】
時計回り
- 【回転角の大きさ】
120°



必要な知識・技能

- 回転移動は、図形をある点を回転の中心として一定の角度だけ回転する移動である。
- 正三角形は、辺の長さが全て等しく、1つの内角の大きさは60°である。

〔2〕 四角形ABCDの模様が四角形GECFの模様と重なることを、回転の中心、回転の向き、回転角の大きさを示して説明する。

【正答例】

四角形ABCDを点Cを回転の中心として、時計回りに120°（反時計回りに240°）回転した図形は、四角形GECFに重なる。

調査問題を活用した授業改善のための指導資料

誤答例とその原因

(誤答例1) 点Cを中心として、時計回りに 60° 回転移動すれば重なる。



- ◆ 回転角の大きさを、 $\angle DCE$ の大きさと誤って捉えている。

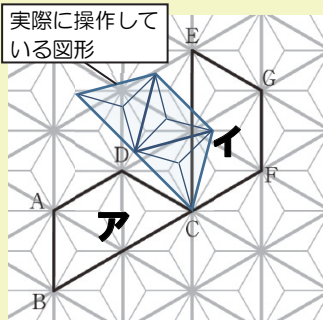
(誤答例2) 点Cを中心として、回転移動すれば重なる。



- ◆ 回転の中心の位置を見いだすことはできているが、回転の向きや回転角の大きさについての理解が不十分であったり、その記述が不足したりしている。

授業改善のポイント

- 移動前の図形と移動後の図形などを提示し、移動の方法を説明させたり、透明なシートやICT機器などを活用して実際に図形を操作させ確かめさせたりすることが大切です。



アの図形は、どのように移動すればイの図形に重なりますか。
実際に図形を移動させて確かめてみましょう。

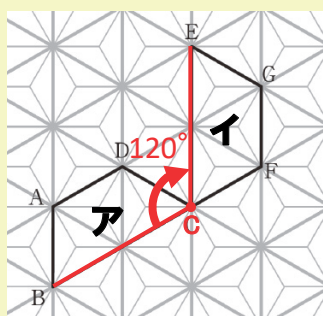
図形の移動には、次の3つの移動があります。



平行移動: 図形を一定の方向に、一定の長さだけずらして移すこと

対称移動: 図形を1つの直線を折り目として、折り返して移すこと

回転移動: 図形を1つの点を中心として、一定の角度だけまわして移すこと



回転移動なら、1回の移動で重なりそうだよ。(図形を操作しながら) このように移動させれば重なります。



では、アの図形は、どのように回転移動をすればイの図形に重なるのか説明しましょう。

アの図形は、点Cを中心にして、時計回りに回転移動すればイの図形に重なります。

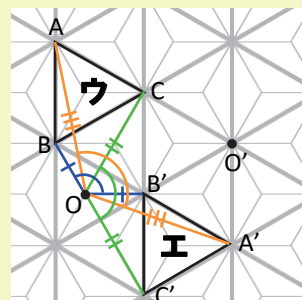


回転の角度は $\angle BCE$ から 120° 回転しています。

回転移動は、回転の中心、回転の向き、回転する角の大きさをいえば、正しく説明できるね。



- 移動前の図形と移動後の図形について、対応する点と回転の中心を結んでできる線分や角の関係を調べさせ、回転移動の性質を見いださせます。さらに、その性質をもとに回転移動した図形をかかせる活動も大切です。



エの図形は、ウの図形を点Oを回転の中心として 120° 時計回りに回転移動した図形です。対応する点と回転の中心を結んでできる線分や角について、どんなことがいえますか。

対応する点は、回転の中心からの距離が等しく、回転の中心と結んでできた角の大きさは全て等しくなっています。



いま見つけた性質を使って、ウの図形を点O'を回転の中心として反時計回りに 60° 回転移動した図形をかきましょう。

第2章 過去5年(H27～R1)の全国学力・学習状況調査結果に着目した分析と学力向上の取組

I 過去5年における標準化得点の伸び

1 分析の目的

全国学力・学習状況調査の年度によって変動のある各学校の標準化得点をもとに、一定期間の伸び具合を数値化し、各学校の中期的な取組状況の成果を把握する。

2 分析の方法

(1) 「過去5年の伸び」の判断

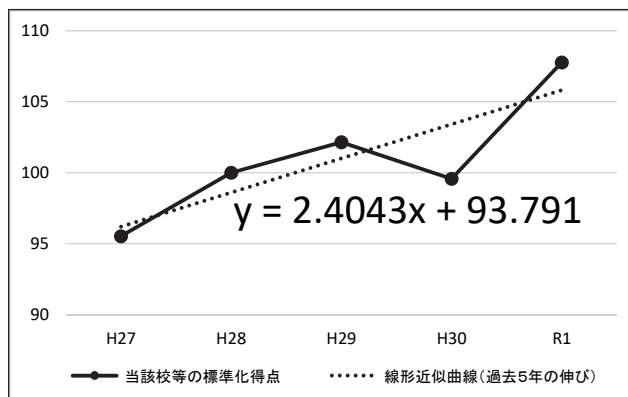
右図のように、平成27年度から令和元年度までの全国学力・学習状況調査における標準化得点の推移(—●—)から、過去5年の推移の傾向を示す線形近似曲線(……)を作図し、その直線の傾きをもって「過去5年の伸び」を見る。

右図では、直線の傾きが正(2.4043>0)であることから、「伸ばしている」と判断する。

つまり、線形近似曲線の傾きが正に大きいほどよく伸ばしており、負であれば伸び悩んでいると見取る。

※ 「線形近似曲線」については、国語と算数・数学の値の平均((国語の結果+算数・数学の結果)÷2)の折れ線グラフの線形近似曲線を示している。

※ R1より知識と活用を一体的に問う調査問題となったため、H27からH30の標準化得点については、各教科のA問題とB問題の結果の平均((A問題の結果+B問題の結果)÷2)を各教科の値として算出している。



(2) 各学校の状況

各学校の「R1標準化得点」(横軸)と「過去5年の伸び」(縦軸)を以下の①から③の方法で右図のように「●」で示した。

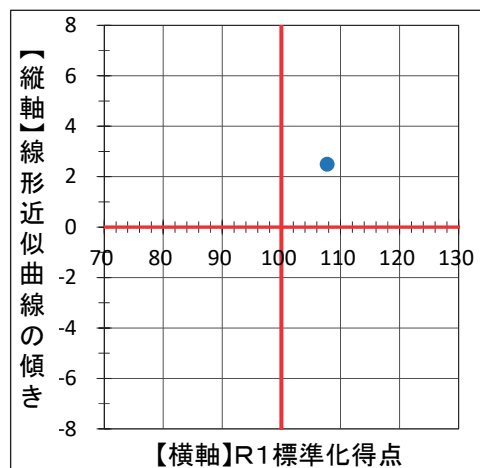
① R1の標準化得点(国語と算数・数学の値の平均)を横軸にとる。

(上記(1)に示す学校：107.8)

② 上記(1)により見出した線形近似曲線の傾きを縦軸にとる。

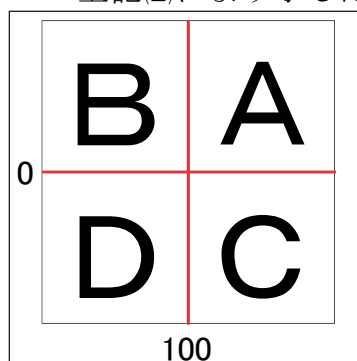
(上記(1)に示す学校：2.4043)

③ 当該校を「●」で示す。



(3) 「R1標準化得点」と「過去5年の伸び」による分類

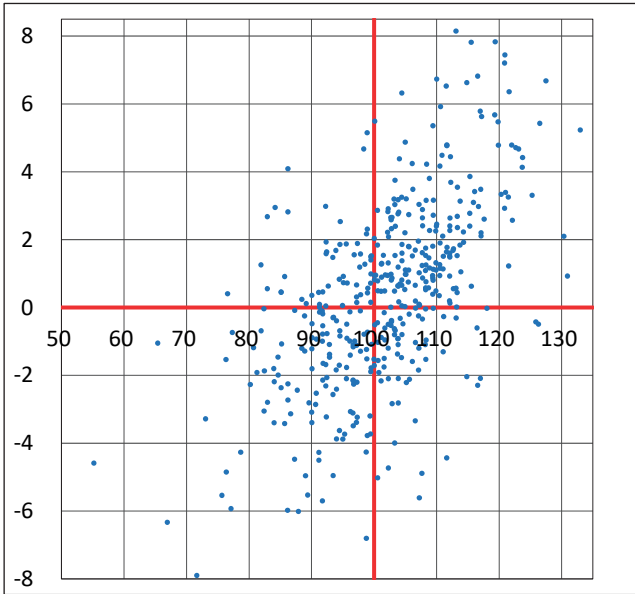
上記(2)により示した各学校の状況について、次のAからDに分類した。



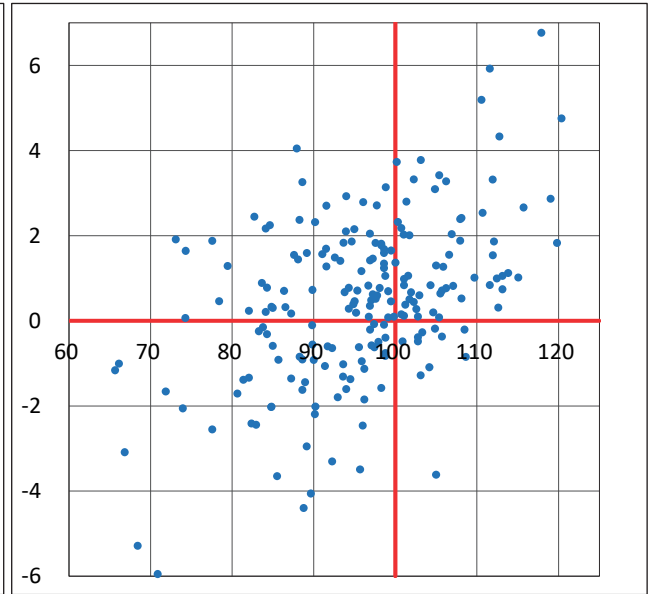
- A** : R1結果が100以上かつ近似曲線の傾きが正
→R1結果が全国平均以上であり、伸ばしている
- B** : R1結果が100未満かつ近似曲線の傾きが正
→R1結果は全国平均を下回るが、伸ばしている
- C** : R1結果が100以上かつ近似曲線の傾きが負
→R1結果は全国平均以上であるが、伸び悩んでいる
- D** : R1結果が100未満かつ近似曲線の傾きが負
→R1結果が全国平均を下回り、伸び悩んでいる

3 県全体における学校別の状況

【小学校第6学年】



【中学校第3学年】

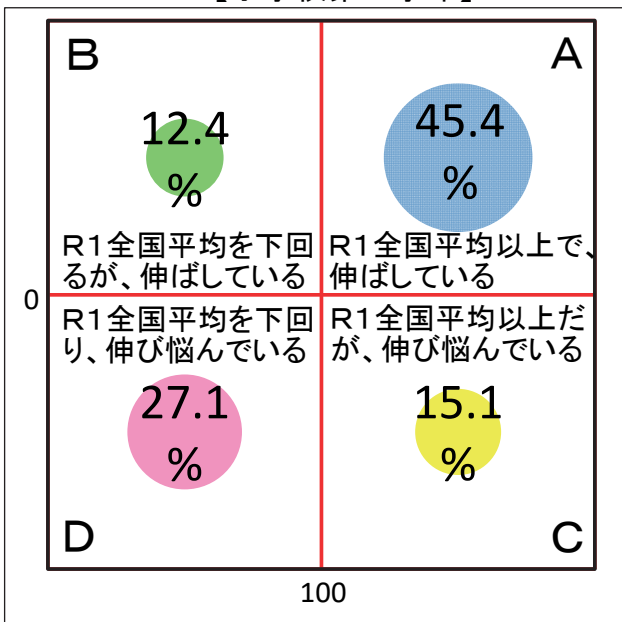


○ ABCD各区分の割合

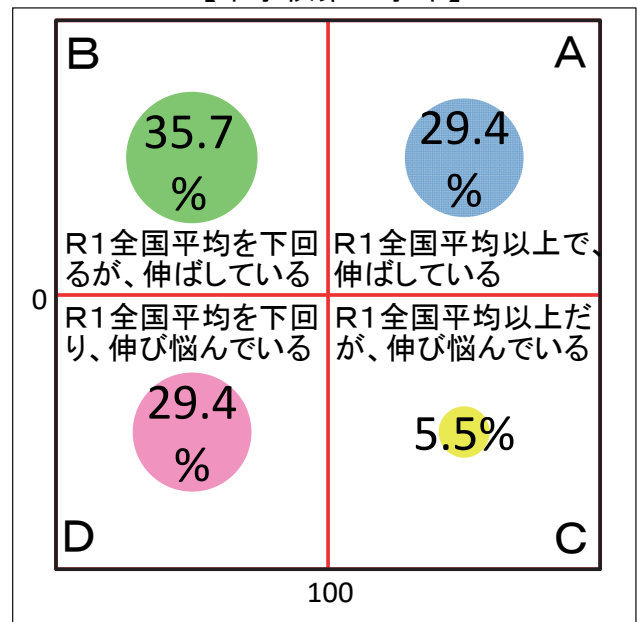
※ ABCD内の数値は、県全体の学校数に対する各区分に属する学校数の割合。

※ 円の大きさは割合に比例している。

【小学校第6学年】



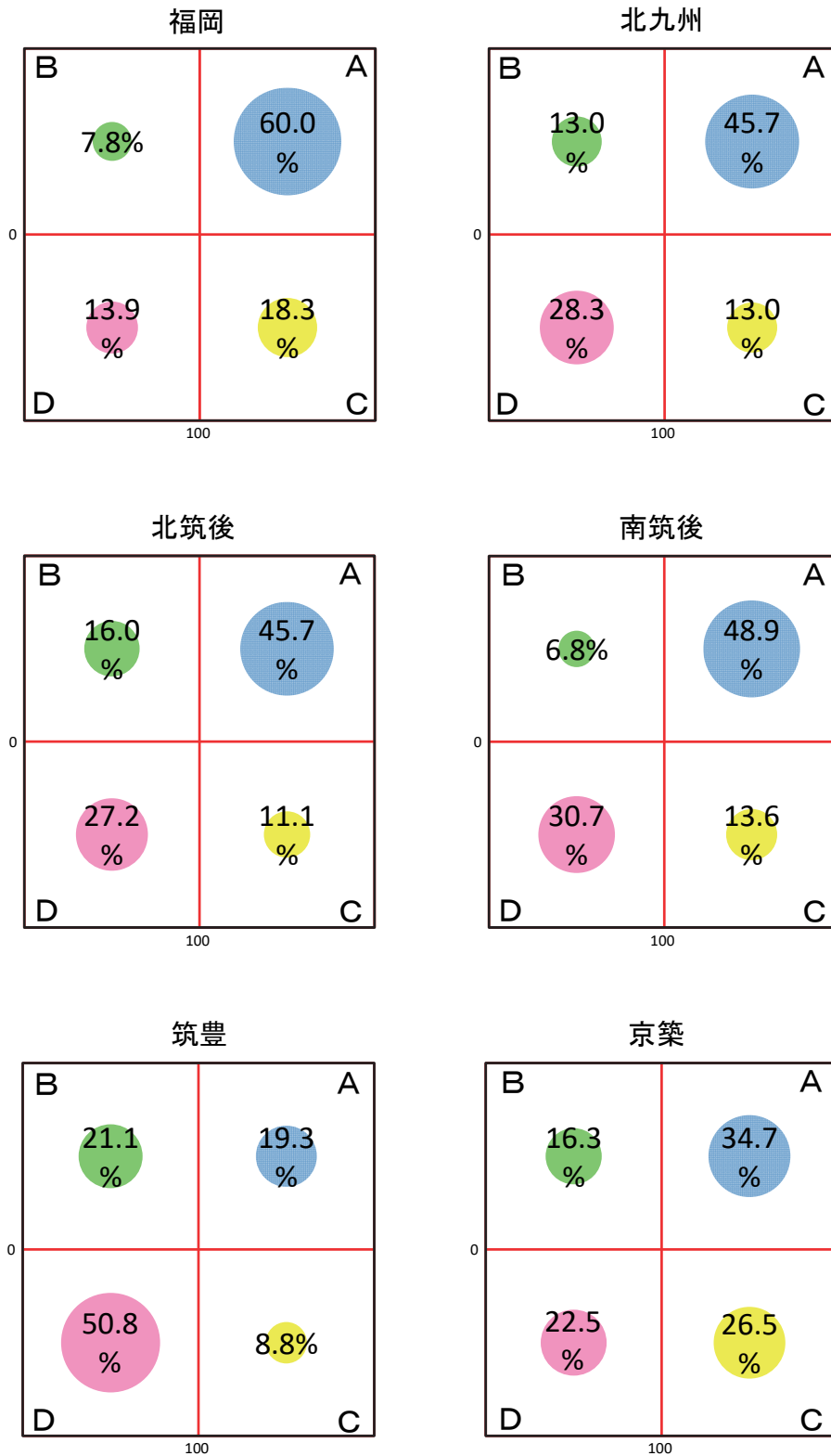
【中学校第3学年】



○ 小学校では「R1全国平均以上で、伸ばしている (A)」学校が最も多く、中学校では「R1全国平均を下回るが、伸ばしている (B)」学校が最も多い。

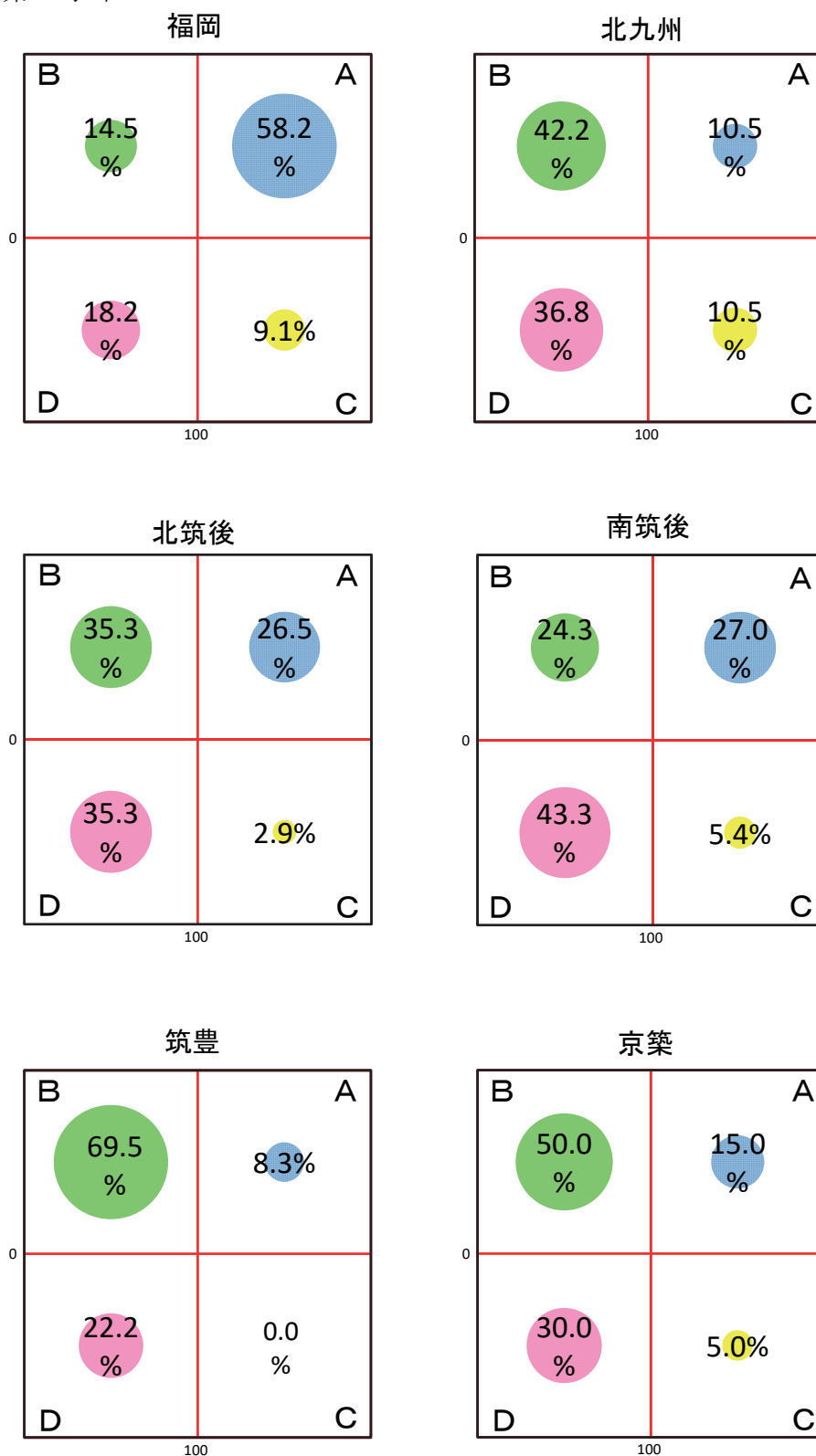
4 各地区における学校別の状況

(1) 小学校第6学年



- 5つの地区では「R1全国平均以上で、伸ばしている (A)」学校が最も多い。
- 6つの地区間の「R1全国平均以上で、伸ばしている (A)」学校の割合の最大・最小の差は、40.7ポイントであった。
- 「伸ばしている (A+B)」学校の割合の最大・最小の差は、27.4ポイントであった。

(2) 中学校第3学年



- 4つの地区では「R1全国平均を下回るが、伸ばしている(B)」学校が最も多い。
- 「R1全国平均を下回り、伸び悩んでいる(D)」学校が最も多い地区もある。
- 6つの地区間の「R1全国平均以上で、伸ばしている(A)」学校の割合の最大・最小の差は、49.9ポイントであった。
- 「伸ばしている(A+B)」学校の割合の最大・最小の差は、26.5ポイントであった。

Ⅱ 児童生徒質問紙調査結果から見た各区分の特徴

1 分析の目的

「Ⅰ 過去5年における標準化得点の伸び」において、「R1標準化得点」と「過去5年の伸び」の2つの視点から分類した、学校群A、B、C、Dの児童生徒質問紙調査結果に見られる特徴を把握する。

2 分析の方法

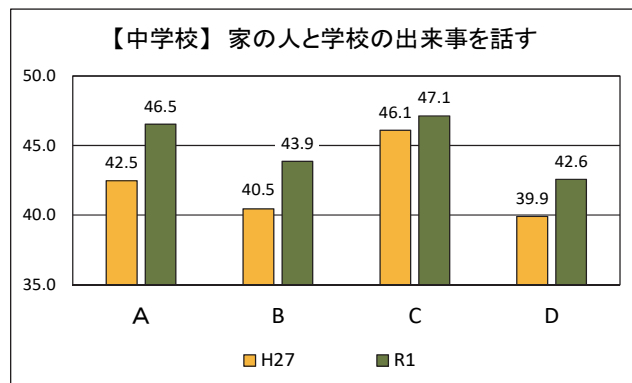
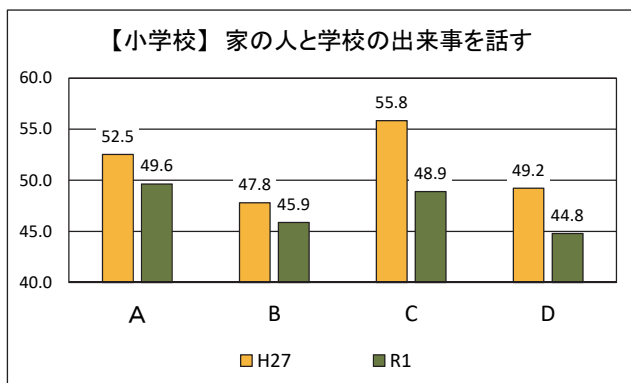
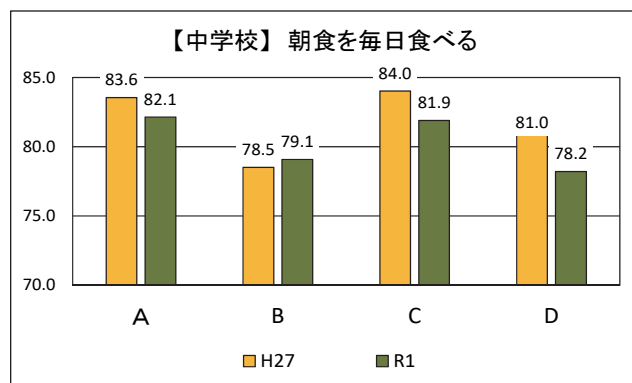
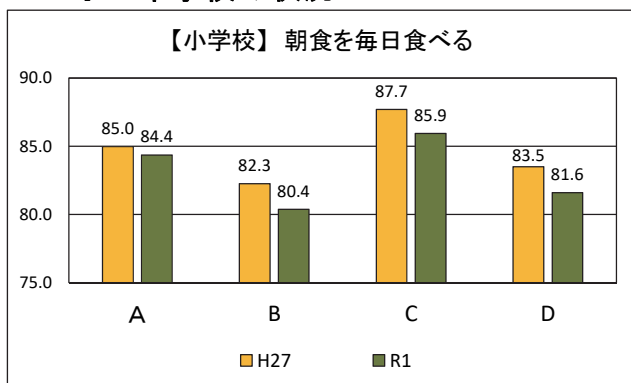
平成27年度から令和元年度までの児童生徒質問紙調査結果をもとに、以下の方法で分析を行った。

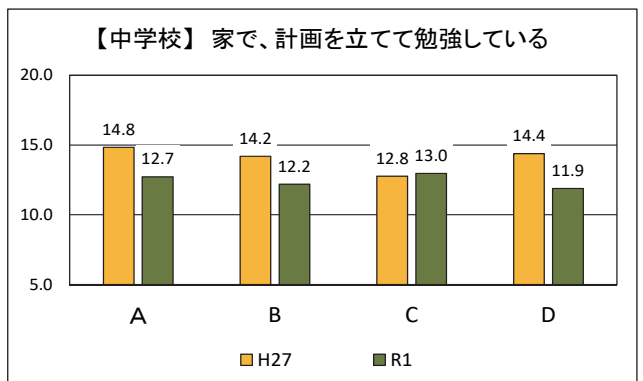
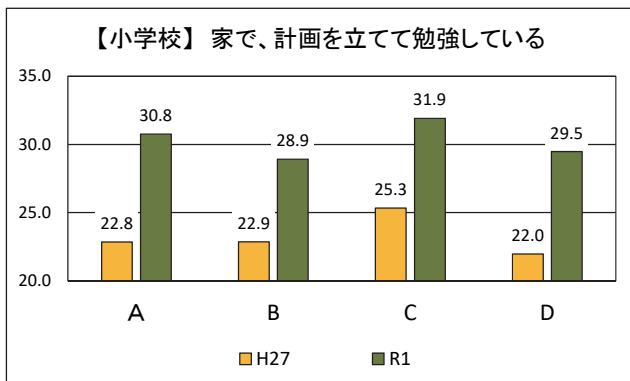
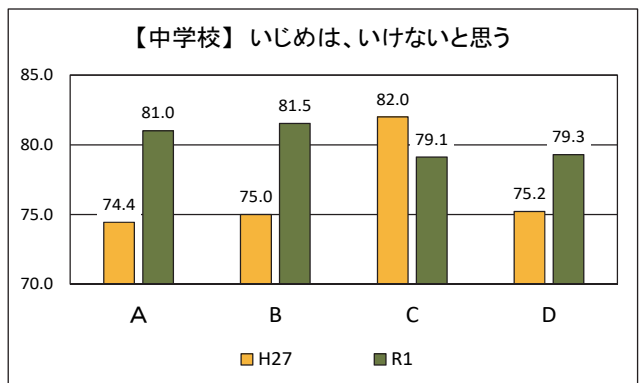
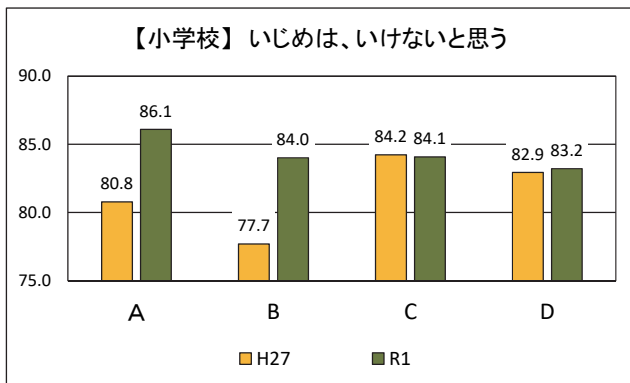
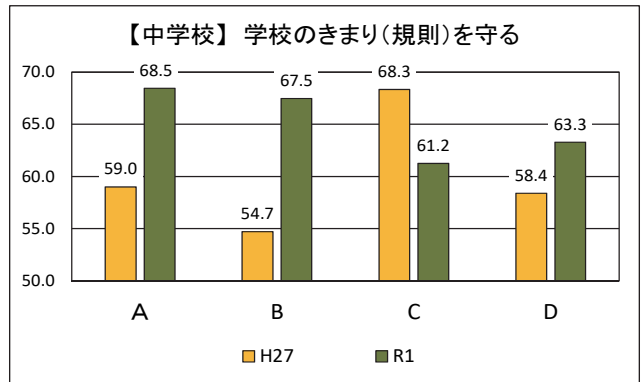
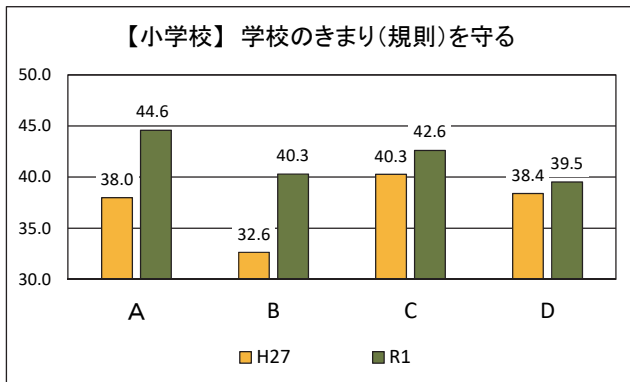
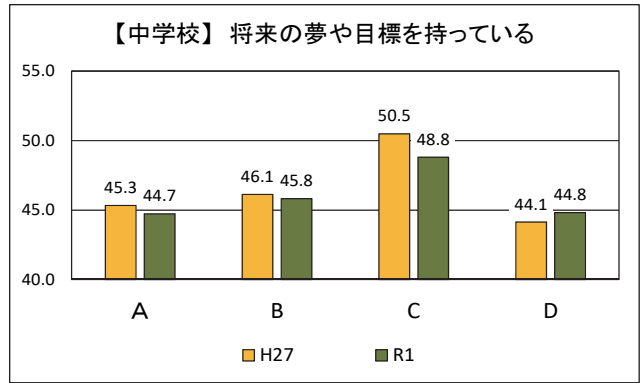
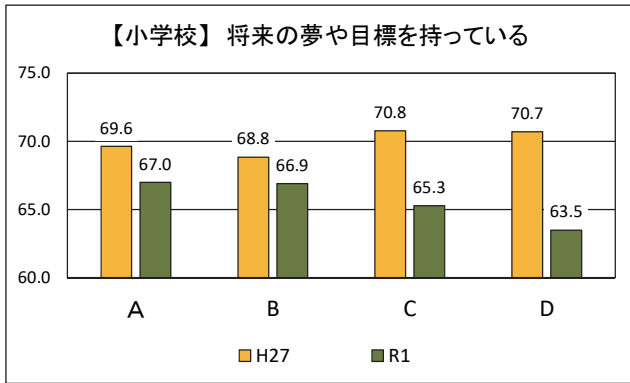
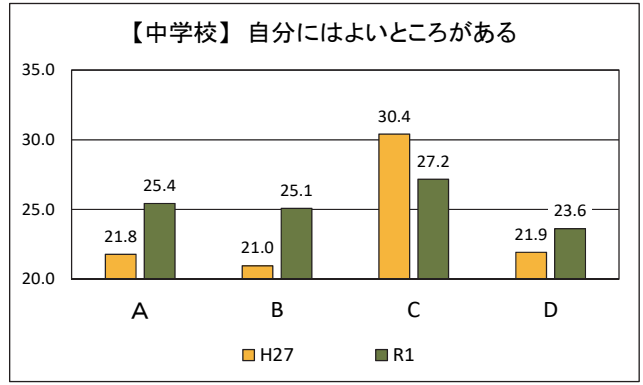
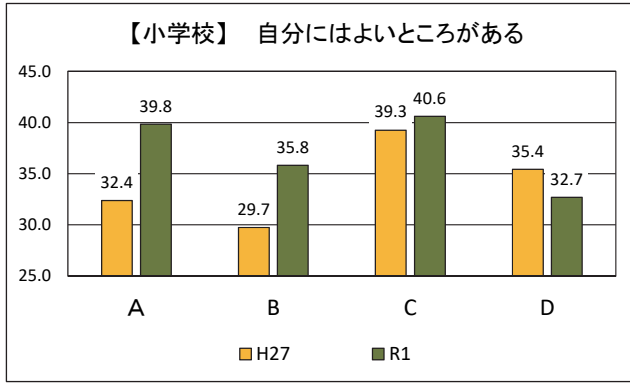
- ① 児童生徒質問紙の質問項目のうち、平成27年度から令和元年度まで継続して問われている11項目を対象とする。
- ② 各質問項目について、A～Dの各群に属する学校の最も肯定的な回答（選択肢1）をした児童生徒の割合を集計する。
- ③ ②の平成27年度から令和元年度への変化の状況について、A～Dの各群を比較する。

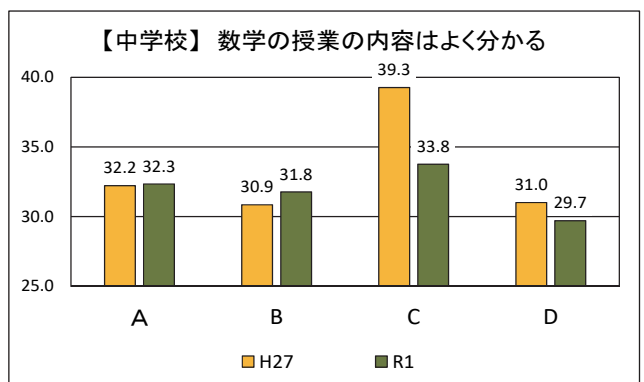
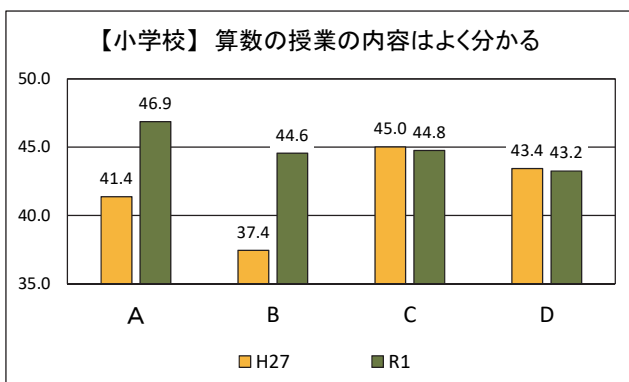
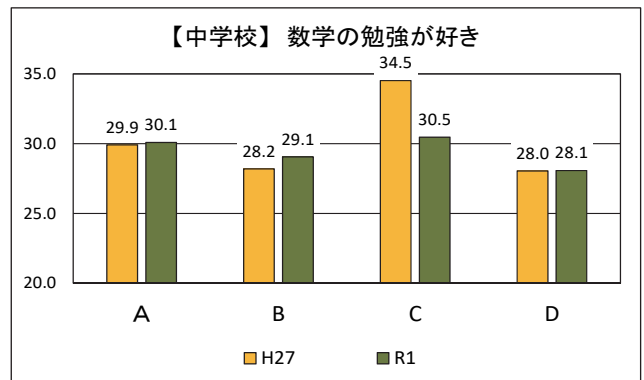
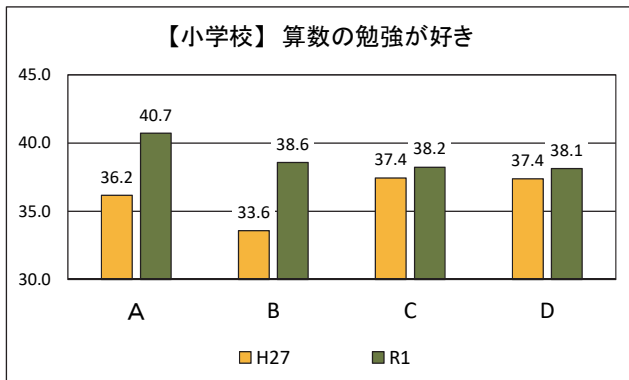
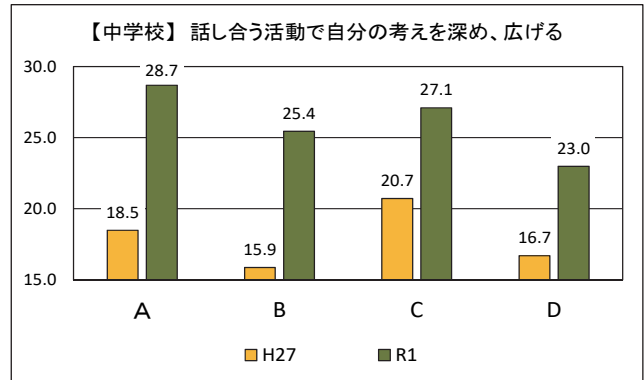
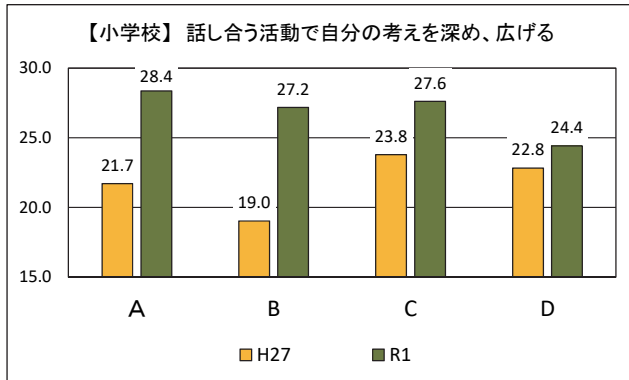
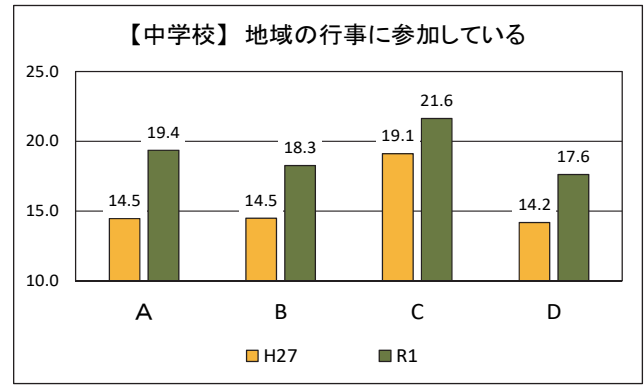
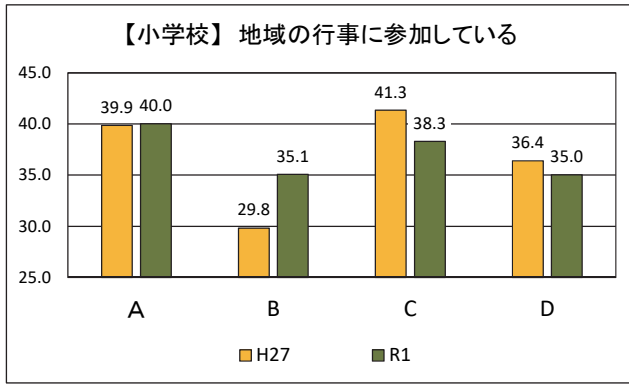
<対象質問項目>

・ 朝食を毎日食べていますか。
・ 家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか。
・ 自分には、よいところがあると思いますか。
・ 将来の夢や目標を持っていますか。
・ 学校のきまり〔規則〕を守っていますか。
・ いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。
・ 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。
・ 今住んでいる地域の行事に参加していますか。
・ 学級の友達と〔生徒〕の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか
・ 算数〔数学〕の勉強は好きですか。
・ 算数〔数学〕の授業の内容はよく分かりますか。

3 小・中学校の状況







○ ほとんどの項目で、H27とR1の結果を比較して、「伸び悩んでいる」学校（C・D）よりも「伸ばしている」学校（A・B）のほうが、肯定的な回答をした児童生徒の割合が大きくなった場合、変化の割合が大きい。また、A～D各群とも割合が小さくなっていても変化の割合が小さい。

Ⅲ 学力向上に結び付く小・中学校及び教育委員会の取組

本県の学力の課題の一つに、「地区間差」「学校間差」があり、一律の取組だけでは改善が難しい場合があります。

そこで、本章では、児童生徒・学校・地域等の実態を踏まえた取組を行うことで、学力を向上させている学校及び教育委員会の効果的な取組事例を紹介しています。

本事例を参考に、そのまま実践したり、実態に合わせてアレンジしたりして、学力向上、授業改善等の一助としていただければ幸いです。

【小・中学校】

<授業改善>

- 事例 1 「1 単位時間における『めあて』と『振り返り』を重視した授業改善」----- (北筑後地区 A 小学校) …50
- 事例 2 「学力向上虎の巻(京築教育事務所作成)を活用した授業改善」----- (京 築地区 B 小学校) …51
- 事例 3 「ピンチをチャンスに捉えた組織的・持続可能な学力向上の取組」----- (筑 豊地区 C 中学校) …52

<人材育成>

- 事例 4 「授業力向上を目指した組織的な研修による人材育成」----- (北九州地区 D 小学校) …53
- 事例 5 「ミドルリーダーと若年教員による研究推進を基盤とした人材育成」----- (京 築地区 E 中学校) …54

<学校のマネジメント>

- 事例 6 「管理職のマネジメントによる学力向上を図る組織的取組」----- (北筑後地区 F 小学校) …55
- 事例 7 「学校の教育理念【G 中 ACTION】の浸透・徹底による教育活動の展開」----- (福 岡地区 G 中学校) …56

<その他：個に応じた指導、学力基盤づくり、非認知的能力の育成、家庭学習等>

- 事例 8 「『個別の学習ファイル(個人カルテ)の活用』による個に応じた指導の充実」-- (福 岡地区 H 小学校) …57
- 事例 9 「特別活動の本質を踏まえた学級活動と各教科を往還させるカリキュラム・マネジメント」----- (南筑後地区 I 小学校) …58
- 事例 10 「『自己更新プロジェクト』による学力向上に向けた基盤づくり」----- (筑 豊地区 J 中学校) …59
- 事例 11 「自主的・自律的に学びに取り組む生徒を育てる学力の基盤づくりの取組」----- (福 岡地区 K 中学校) …60
- 事例 12 「授業と家庭学習をつなぐ『ドリムノート』の活用」----- (南筑後地区 L 中学校) …61

【教育委員会】

<授業改善>

- 事例 13 「小・中学校一貫した授業スタイルの確立」----- (北筑後地区ア教育委員会) …62

<小中連携>

- 事例 14 「教育委員会のリーダーシップによる小中連携した検証改善」----- (北九州地区イ教育委員会) …63
- 事例 15 「学力向上スタンダード等による小中9年間を見通した学力向上」----- (福 岡地区ウ教育委員会) …64

<ICT活用>

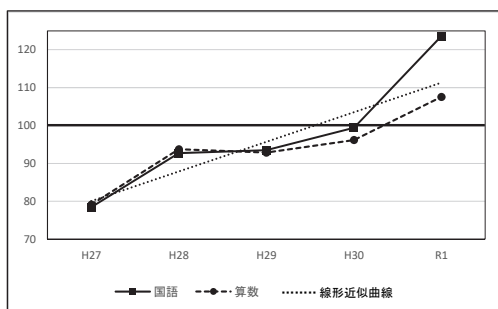
- 事例 16 「21 世紀にふさわしい学びの環境と ICT を活用した授業づくりの推進」-- (北筑後地区エ教育委員会) …65
- 事例 17 「授業改善・学力向上に向けた ICT 機器活用の取組」----- (南筑後地区オ教育委員会) …66
- 事例 18 「ICT 教育機器の整備と連動した計画的・段階的な教員研修の実施」----- (筑 豊地区カ教育委員会) …67

<教員研修>

- 事例 19 「キ町校内研修交流システムの活用」----- (京 築地区キ教育委員会) …68

【グラフ等の見方について】

1 グラフ「過去5年の経年推移(各教科の状況)」



グラフ

H27 から H30 の国語 (—■—)、算数・数学 (---●---) については、各教科の A 問題と B 問題の結果の平均 ((A 問題の結果 + B 問題の結果) ÷ 2) の推移を示しています。

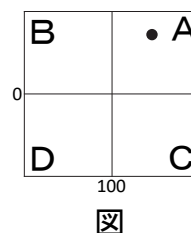
※ R1 は、知識と活用を一体的に問う調査問題となったため国語、算数・数学の標準化得点をそのまま示しています。

※ 「線形近似曲線 (.....)」については、国語と算数・数学の値の平均 ((国語 + 算数・数学) ÷ 2) の折れ線グラフの線形近似曲線を示しています。

2 ABCD 区分

各事例の紹介に当たって、右図のように「ABCD 区分」を示しています。

これは、「第2章 I 過去5年における標準化得点の伸び」で示した分析の方法に基づき、当該校(教育委員会)の過去5年における標準化得点の推移を上「グラフ」のように線形近似曲線で表し、その直線の傾きを縦軸に、R1の標準化得点を横軸として、当該校(教育委員会)について「●」で示したものです。



■事例1：授業改善

B	●A
D	C

1 単位時間における「めあて」と「振り返り」を重視した授業改善

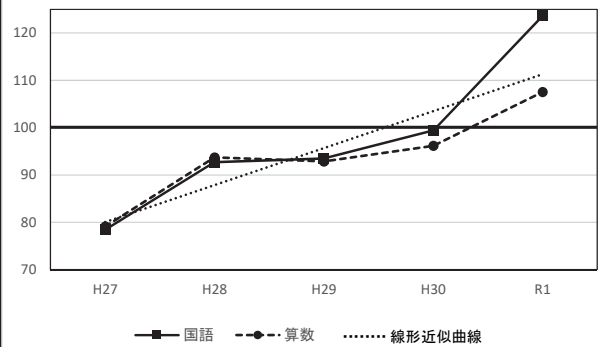
A 市立 A 小学校（北筑後地区）

○学校の特徴

全校児童数 172 名、9 学級（特別支援学級含む）、教職員 21 名の学校である。

学力調査結果や児童・教員による授業評価等をもとに、学習の「めあて」の意識化と学習の「振り返り」に課題を見出し、改善するための校内研修での取組を中学校区に広げ、小・中学校で連携し授業改善に取り組んでいる。

○過去 5 年の経年推移（各教科の状況）¹⁰⁰



1 主な取組の概要

基礎的・基本的な学習内容の定着と習熟を図るために、学習の「めあて」の意識化と学習の「振り返り」を重視した授業改善を、小・中学校で連携しながら組織的・計画的に取り組んでいる。

① 目的意識（ゴール像）を明確にした学習の「めあて」づくり

この時間に何を学ぶのか、何ができるようになればいいのかなど、学習の途中でめあてに立ち返って再確認し、その時間のねらいを児童に意識付けながら授業を進めている。

② 学習の「振り返り」の充実

「めあては達成できたか」「何ができるようになったか」「何が分かったか」と振り返りのポイントを提示するとともに、モデル文を示して、結論だけでなく「どうして分かるようになったのか」、結論を導く方法や理由を書くことで、振り返りの質の向上を目指している。

③ 学習規律や学習方法の共有

「授業に必要な道具は休み時間のうちに準備しよう。」「話している人の方を向いて、うなずきながら聞こう。」など学習規律に関する項目と「①分きたいこと、できるようになりたいことをはっきりもって授業に取り組もう。②自分の考えと友達の考えを比べながら話し合おう。③『分かったこと』や『なぜ分かるようになったか』をまとめて書こう。」と学習の方法に関する項目を、小・中学校で共有して取り組んでいる。また、児童・生徒による授業評価も共通のアンケート項目で実施している。

2 取組のポイント

○ 授業改善の日常化

- ・ 校内研修の内容を日々の授業改善に生かすことができるように、「めあて」と「振り返り」の意義や効果を共有したり、OJT が機能するようなグルーピングを仕組んだりするような工夫を行っている。
- ・ 教員も毎回の単元テストの結果をもとに、児童の思考の深まりや知識の定着状況を振り返り、授業改善につなげている。
- ・ 小・中連携推進部会では、取組の成果と課題を明らかにし、教員だけでなく保護者にも通信を配布し、次年度の取組に活かしている。

3 取組の効果

- ・ 授業の中で、児童がめあてを基に、見通しをもって意欲的に問題解決しようとする姿が増え、思考力、判断力、表現力等の育成につながり、上記のように学力も向上している。
- ・ 教員の授業づくりの意識向上や若年教員の育成にも成果が出ている。

本事例は、授業評価等により明らかになった課題を基に、「めあて」と「振り返り」を重視した授業を改善策として見出し、小・中学校で連携して取り組んでいるところによさがあります。また、「振り返り」の充実に向けて、ポイントやモデルを提示していることは、共通実践を可能にする方法として参考になります。

■事例2：授業改善

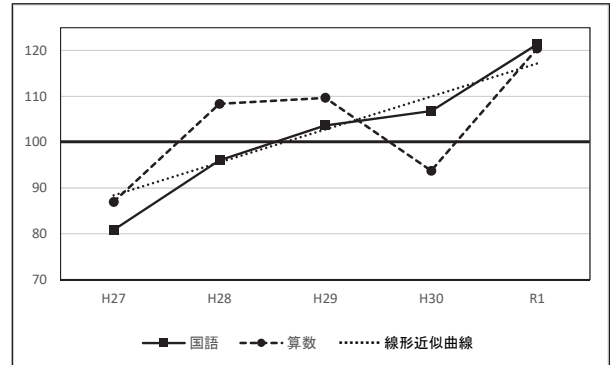
B	●A
D	C

学力向上虎の巻（京築教育事務所作成）を活用した授業改善
 B町立B小学校（京築地区）

○学校の特徴

全校児童数 78 名、7 学級（特別支援学級含む）、教職員 14 名の学校である。
 国語科・算数科・理科において「学力向上虎の巻（京築教育事務所が作成した全国学力・学習状況調査問題等を評価問題として位置付けた年間指導計画例）」を活用した授業実践やミドルリーダーを活用して授業改善に向けた研修に組織的・計画的に取り組んでいる。

○過去5年の経年推移（各教科の状況）¹⁰⁰



1 主な取組の概要

確かな学力を育成する指導の充実を図るために、「学力向上虎の巻」を活用した学習活動を国語科・算数科・理科の年間指導計画に位置付け、授業のゴール像を明確にするとともに、習熟度等に応じた指導の改善を行っている。

① 「学力向上虎の巻」を活用した授業実践

授業者は、国語科・算数科・理科の単元指導計画を立てる際、「学力向上虎の巻」を開き、学習課題の把握と具体的な授業展開を考えている。また、単元末には、「学力向上虎の巻」から調査問題をプリントアウトし、授業の評価問題として活用している。

② B小スタンダードによる指導の充実

授業等の基本的な在り方（ノート指導・交流活動の行い方・自主学習の取り組み方等）について、B小スタンダードを示し教員間で共通理解を図っている。

③ 個に応じた指導の充実

- ・ 個のつまづきを把握するために、学力向上コーディネーターが単元末評価問題の結果分析を行っている。
- ・ 分析をもとに補充学習を設定して、学力向上コーディネーター、主幹教諭、学級担任で個別の指導に当たっている。
- ・ 朝のスキルタイムには、全教員で個に応じた指導を行っている。

2 取組のポイント

○ 校内研修推進体制の充実

- ・ 学力向上コーディネーターと主幹教諭を中心に、学力向上に向けた研修（「基礎基本を含む活用力を育成する教材集」「学力向上虎の巻」などの活用方法）の企画・運営を行っている。
- ・ ミドルリーダーを活用したモデル授業、授業参観などを通じた校内研修を実施し、授業づくりの在り方についての共有化を図っている。

3 取組の効果

「学力向上虎の巻」を活用した授業づくりが浸透し、各種学力調査等における成果が見られてきた。特に平成28年度以降の全国学力・学習状況調査における標準化得点は、全国平均を大きく上回り上昇傾向も継続している。

本事例は、教育事務所が作成した年間・単元指導計画例を活用することで、学力向上に向けた授業改善の取組が全校での共通実践、日常的な取組となるようにしているところによさがあります。また、ミドルリーダーを中核として研修等の取組を進めているところは、学力向上の取組を組織的に進める上でも参考になります。

■事例3：授業改善

B	A
●	
D	C

ピンチをチャンスに捉えた組織的・持続可能な学力向上の取組

C町立C中学校（筑豊地区）

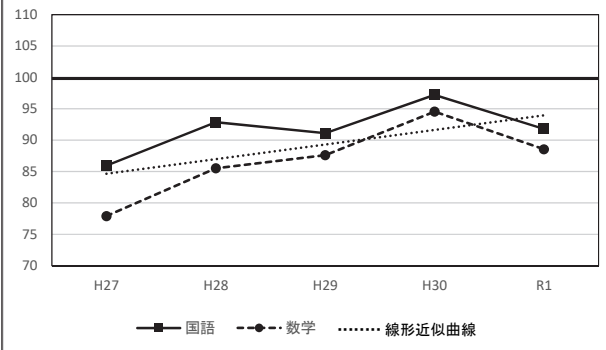
○学校の特徴

全校生徒数 292 名、13 学級（特別支援学級含む）、教職員 39 名の学校である。

本年度、町学力向上検証改善委員会から教員の授業改善と意識改革の具体が示され、組織的に実行するよう提言を受けた。また、学力調査や授業評価結果から、理由や根拠を基に考えを説明すること、家庭学習の定着に課題を見いだした。

そこで、本年度「C中学校授業スタンダード」と「学習支援ソフトの活用」を中心に学力向上の取組を行っている。

○過去5年の経年推移（各教科の状況）¹⁰⁰



1 主な取組の概要

学力向上の取組を組織的・継続的に行うために、教員の授業改善と意識改革を図る「C中学校授業スタンダード」の取組を、個に応じた学習支援のために「学習支援ソフトの活用」の取組を中心に据えて実施している。

① 「C中学校授業スタンダード」の作成、実施

研究推進委員会と学力向上コーディネーターが中心となり、1 単位時間の授業等（準備・導入・展開・終末・家庭学習）の流れを A4 1 枚で示した「C中学校授業スタンダード」（教員用・生徒用）を作成し、それをもとに授業改善の取組を行った。

② 学習支援ソフト「e-ライブラリ」の活用

学習支援ソフト「e-ライブラリ」を活用して、生徒が家庭等で自由に復習・予習を行える体制を整備した。このソフトはC町が3年前から業者に委託しているもので、生徒は各自に割り振られたIDとパスワードをもとにスマートフォン等からアクセスし、苦手教科（9教科対応）を中心に学習を進めることができる。本年度は、令和2年3月以降の新型コロナウイルス感染症による臨時休業を契機に利活用が活発になり、いわゆるピンチをチャンスに捉えた取組となった。

2 取組のポイント

○ 「C中学校授業スタンダード」による教師の授業改善と教師及び生徒の意識改革

- ・ 生徒用「授業スタンダード」を作成し全教室に掲示し、1 単位時間の授業の見通しをもたせるようにした。
- ・ 各学年で「授業スタンダード」に沿った公開授業、協議会を実施し、全教員で共通理解を図った。
- ・ 日常化を図るため、指導案は「授業スタンダード」に必要な事項のみを書き込む形式に簡略化した。

○ 「学習支援ソフトの活用」による個に応じた学習支援

校務用パソコンで全生徒の取組状況を把握するとともに、評価の声かけをしたり、必要に応じて支援を行ったりするようにした。

3 取組の効果

- ・ 教員は、「授業スタンダード」の取組により、「主眼」「めあて」「まとめ」の整合性や、見通しや振り返り、ペアトーク等の言語活動を位置付けた授業づくりを意識するようになった。また、指導案の簡略化により、指導案作成の負担軽減にもつながった。
- ・ 生徒は、全教科で授業の流れが統一され、同じリズムで見通しをもって学習できるとともに、授業と家庭学習をつながりがあるものとして捉えることができるようになった。
- ・ 学習支援ソフト「e-ライブラリ」は、特に、長期欠席（病気・不登校等）生徒の家庭での学習や、特別な支援を要する生徒の理解に応じた学習支援に効果を発揮している。

本事例は、授業改善の取組を全教員による共通実践とするために授業スタンダードを作成・活用するだけでなく、生徒用も作成し、生徒自身にも意識化を図っているところによさがあります。また、学習支援ソフトの活用は、生徒が自身の理解度等に応じて、家庭での予習・復習等を行えるようにしている点で参考になります。

■事例4：人材育成

授業力向上を目指した組織的な研修による人材育成

D町立D小学校（北九州地区）

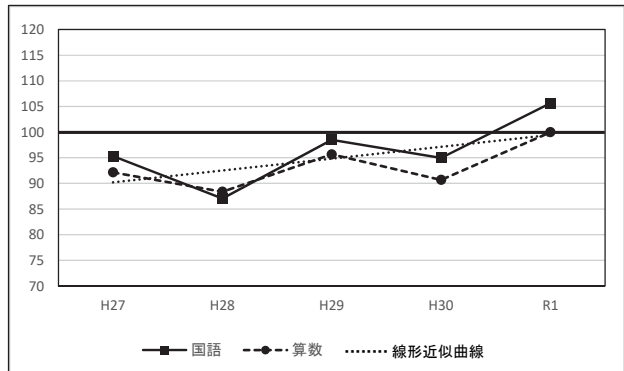
B	A
D	C

○学校の特徴

全校児童 313 名、14 学級（特別支援学級含む）、教職員 21 名の学校である。

初任者 2 名を含む 4 割が教職経験 10 年未満の若年教員で、学力向上に向けた授業力の向上が課題であった。そこで、主題研究、若年教員研修、近接学年部会を中心に校内の研修組織の活性化に重点を置き、全教員の授業力向上を図ることで学力の向上を目指している。

○過去 5 年の経年推移（各教科の状況）¹⁰⁰



1 主な取組の概要

若年教員の指導力の向上を図るために、若年教員研修、近接学年部会を中心にミドルリーダーやベテランと若年教員のつながりを意識した授業研修の充実を図った。

① 若年研修、近接学年部会で授業力を高める

- ・ 年度当初、指導教諭が若年教員と面談を行って授業づくりにおける課題や身に付けたい力を聞き取った。指導教諭はそれをもとに、ミドルリーダーとベテランを活用して講義等の研修を計画し、若年教員のニーズに応える研修を運営した。
- ・ 若年教員は、月 1 回以上授業を公開し、近接学年部会の教員がそれを参観し、その後の協議でミドルリーダーとベテランを中心に助言を行った。

② 「授業参観シート」を活用して指導力を高める

- ・ 若年教員は授業を公開する前に、本時の重点的な手立てを記した「授業参観シート」を参観する教員に配付し、ミドルリーダーとベテランは、それを基に授業を参観して手立てを 4 件法で評価、コメントを記入して協議会で若年教員へ助言を行った。
- ・ 研修後は、指導教諭が「授業参観シート」を回収し、公開した授業ごとの評価された数値の推移をグラフ化し、それを若年教員に示して手立ての成果や課題を若年教員に把握させて今後の授業改善に活用するようにした。

2 取組のポイント

○ ミドルリーダーの育成

- ・ 管理職が、ミドルリーダーに対して、若年教員の育成に向けた取組を充実させるための意識付けを行い、PDCAサイクルを基に、若年教員研修を実施した。
- ・ ミドルリーダーが中心となって、若年教員が、ミドルリーダーやベテランとともに授業づくりについて話し合う場を設定する等、教員同士が学び合う雰囲気づくりを行った。

○ 若年教員の研修に対する主体性の醸成

若年教員が他の近接学年に所属するミドルリーダーとベテランにも指導案に対する助言を自ら受けに行くようにすることで、多様な改善案等にふれる機会を設け、授業力向上につなげた。

3 取組の効果

各学期末に実施した教師用のアンケートでは、若年教員が「授業で主眼を達成できるようになった」と回答されるなど、若年教員の授業力向上の成果が現れてきている。

本事例は、若年教員の授業力向上という、多くの学校に見られる課題の改善に向けて、ミドルリーダーとベテランの力を生かし、双方の指導力向上につないでいるところによさがあります。また、取組を進めるに当たって、年度当初に若年教員から身に付けたい力等を聞き取っているところは、本人の意識を高める参考になります。

■事例5：人材育成

B	A
0	●
D	C

ミドルリーダーと若年教員による研究推進を基盤とした人材育成

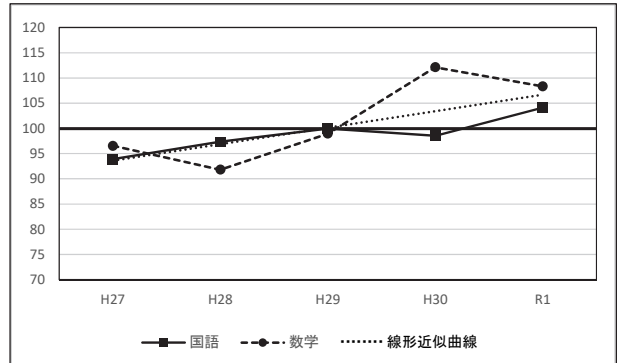
E 市立 E 中学校（京築地区）

○学校の特徴

全校生徒数 406 名、15 学級（特別支援学級含む）、教職員 31 名の学校である。

生徒が自己の考えを形成し表現する力に課題を見出し、戦略的にミドルリーダーと若年教員を研究推進委員会に配置し、授業改善を推進していく中で人材育成を行っている。

○過去 5 年の経年推移（各教科の状況）



1 主な取組の概要

課題を踏まえて全教科等において授業改善を推進し、学力向上を図るため、複数のミドルリーダーと若年教員の OJT を機能させる研究推進委員会を組織し、研究推進と人材育成を行っている。

① ミドルリーダーと若年教員で構成する研究推進部

研究推進委員会に、管理職とベテラン層の他、40 代のミドルリーダー 4 名（研究主任及び副主任、教務担当主幹教諭、国語科教育推進部長）並びに 20 代及び 30 代の若年教員 4 名を据えている。研究推進委員であるミドルリーダーと若手教員を交互に代表授業公開者とし、OJT の機能を働かせている。

② 強みを生かした教科等横断的な研究推進

- ・ 学力調査等において、国語科は成果を上げている。このことを強みと捉え、研究推進委員会に国語科教育推進部を位置付け、主題研究では、国語科で積み上げている「伝え合い」を全教科における着眼としている。
- ・ 主張、根拠、理由付けからなる、「三角ロジック」による思考、判断、表現をもう一方の着眼とし、思考を促すためのワークシートの工夫により実践を行っている。

2 取組のポイント

○ 定期考査における問い方の検討及び共有

各教科の定期考査における思考、判断、表現を問う問題での問い方について、国語科教育推進部が学力調査問題や入試問題を例示するなどして、価値付けたり助言したりしている。また、その内容については、国語科教育推進部報を発行し、全教科での共有化を図るとともに、定期考査問題の質の向上及び授業改善につなげている。

○ 管理職による日常的なフィードバック

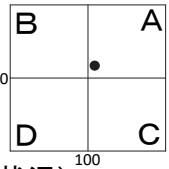
研究推進委員会での OJT に着眼を置き、ミドルリーダー、若年教員に対して究推推進や授業実践について価値付けや助言を行っている。

3 取組の効果

- ・ 研究推進委員会で OJT の機能を働かせることで、ミドルリーダー、若年教員ともに指導力が向上している。同時に、研究推進委員会が活性化することで、他の若年教員やベテラン層の授業改善に向けた意欲も高まっている。
- ・ 国語科教育推進部会が検証改善の CA 段階の一つである定期考査問題を検証した結果を教員にフィードバックすることで、単元のゴール像に対する教員の意識改革が図られるとともに、授業改善が促され、学力調査結果での伸びにつながっている。

本事例は、学力調査等の結果から成果を上げている国語科における取組を中核に据え、成果をモデル化して共通実践を図っているところによさがあります。また、授業だけでなく、定期考査も含めて取組を進めている点は、指導と評価の一体化の観点からも参考となる事例です。

■事例6：学校のマネジメント

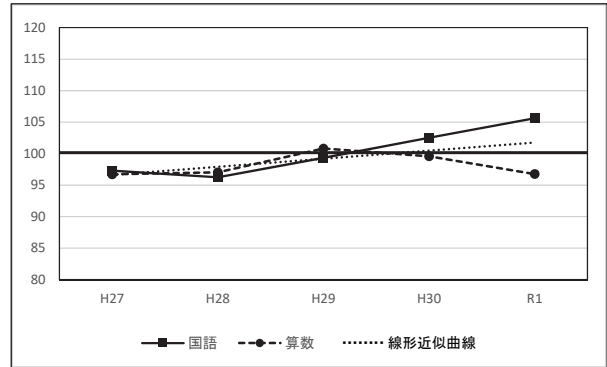


管理職のマネジメントによる学力向上を図る組織的取組
 F 市立 F 小学校（北筑後地区）

○学校の特徴

全校児童 689 名、29 学級（特別支援学級含む）、教職員 41 名の学校である。市内の学力向上推進拠点校として、管理職のリーダーシップとマネジメントのもと、担任や学力向上コーディネーター等が主体的に学力向上の取組を進めるための組織の機能化を図っている。

○過去 5 年の経年推移（各教科の状況）



1 主な取組の概要

学力向上のための共通実践を全教職員へ浸透・徹底させるため、ボトムアップ型の短時間研修（20 分間）や取組後の通信発行により情報を共有し、組織力を生かした授業改善を図っている。

① 全教職員が主体となる組織

管理職のリーダーシップのもと全教職員の参画意識を高めるために、右表のように学力向上プランの視点に沿って「わかる授業部」内で役割分担を行い、組織的取組を推進している。

わかる授業部 役割分担(例)

視点	取組	分担
2	主題研究との連動	研究主任
3	パワーアップタイム	特別支援学級担任3名
4	○○スタンダード	学力向上C、中学年担任2名
	ちょこっと研修の企画・運営	指導方法工夫改善担当、高学年担任1名
	児童・先生アンケート	低学年担任2名
	算数科通信	中学年担任1名
	職員室通信等	教頭

② 主題研究（算数科）と連動した学力向上プランの徹底

○ 視点2と主題研究を連動させた授業改善

- ・ めあてとまとめが整合した授業づくり→主題研究「問いを引き出す活動」で具体化する。
- ・ 図や式と関連させ自分の思考過程を表現する活動を位置付けた授業づくり
→主題研究「価値ある考えに導く活動」で深化・充実を図る。

○ 授業力向上のための効果的な OJT 研修

共通実践に向けた浸透・徹底を図るために、日常的に互いの授業を見合う機会や放課後の 20 分間で「ちょこっと研修」を設定し、目指す授業イメージの共有ができるようにしている。各教職員が得意分野の力を発揮し講師となる「ちょこっと研修」では、「板書のこつ」「ノート指導」「児童の意欲喚起の工夫」など教職員のニーズに応じた内容で、研修を充実させている。

2 取組のポイント

○ 教職員のモチベーションの持続

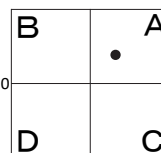
各取組後に課題解決の手立てやその効果について共有する目的で「ちょこっと研修通信」「学びを止めない算数通信」等を配布している。その中で、各教職員の実践の価値や参加した教職員の感想等が紹介され、全教職員の学力向上の取組へのモチベーションの持続につながっている。

3 取組の効果

学力向上・授業改善に関する意識調査〔4 件法〕の結果（R 1 と R 2 の比較）では、「主題研究への取組」に対する教職員の意識が向上した。特に、若年教員の意識が大きく上昇している。

本事例は、役割を明確にして取組を進めているところによさがあります。また、短時間の研修実施や通信の発行、互いの授業を見合う機会の設定等により、研修の日常化、授業改善の意識化、授業改善の取組の日常化を図っているところも参考になります。

■事例7：学校のマネジメント



学校の教育理念【G中 ACTION】の浸透・徹底による教育活動の展開
G町立G中学校（福岡地区）

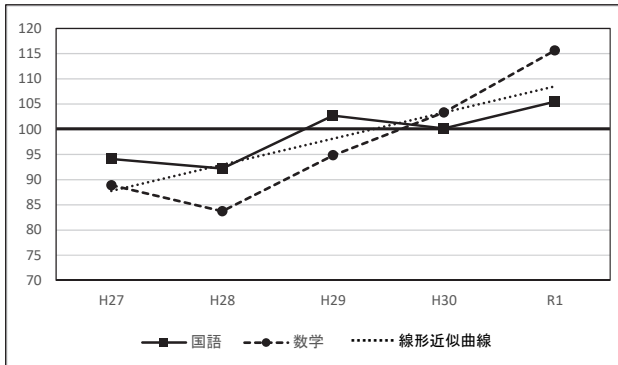
○学校の特徴

全校生徒 773 名、27 学級（特別支援学級含む）、教職員 56 名の学校である。

以下の頭文字を組み合わせた「G 中 ACTION」をスローガンに、教育活動の充実につなげている。

Affection(愛情、慈しみ)**C**hallenge(挑戦、努力)
Teamwork(チームワーク)**I**magination(想像、創造)
Obligation(義務、責任)**N**otice(気付き)

○過去5年の経年推移（各教科の状況）¹⁰⁰



1 主な取組の概要

全ての教育活動に【G 中 ACTION】の理念を反映し、組織マネジメントシステムの構築と校内研究の推進を図っている。

① 組織マネジメントシステムの構築

教職員の自己評価表の評価項目（資料）を「ACTION」とリンクさせ、目指す教師像を明確にした。目指す姿の達成に向けて三役会議や各部会で評価項目に基づいた取組等の共有、意思統一を図った。

② 若手人材の育成と職能向上

人材育成プランに基づき若年教員の学級経営力や学習指導力を育て、生徒の学習・生活基盤を整える。本年度の初任者4名の授業研修を全ての若年教員の研修機会と捉えて、協議会へ参加させた。客観的データによる生徒理解を図るために、QUテストの結果分析方法の研修を行った。

③ 積極的生徒指導の推進

体育大会では、「子供を動かす」をキーワードに、Challenge（挑戦、努力）に重点を置いて一体感を味わわせた。挨拶運動ではNotice（気付き）に重点を置いて実践し、生徒は正当な評価を得られることで達成感をもった。積極的に生徒と関わる教師の存在が、生徒同士が関わる学校へとつながっている。

評価項目	ACTION
AFFECTION 愛情・慈しみ	生徒に対する愛情のAction
	組織に対する愛情のAction
CHALLENGE 挑戦・努力	生徒への挑戦・努力を促すAction
	自身の指導力向上のためのAction
TEAMWORK チームワーク	生徒の協働を促すAction
	職員集団における協働のAction
IMAGINATION 想像・創造	生徒の創造性を育むAction
	組織、分掌における創造的Action
OBLIGATION 義務・責任	生徒の義務・責任の行動を促すAction
	教員としての義務・責任を果たすAction
NOTICE 気付き	生徒の気づきを促すAction
	教員としての気づきのAction

資料「自己評価表」

2 取組のポイント

○ 教育理念「ACTION」の基「そろえて、貫く」

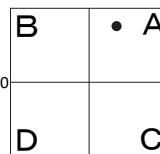
- ・ 「ACTION」を学級や学年、学校、地域に至るまで徹底して知らせることに留意した。行事計画や通信、自己評価ともリンクさせ、教職員や生徒のベクトルをそろえるようにした。
- ・ 校長自ら挨拶運動を行い教職員へのモデルを示したり、主任会や三役会で進捗状況を確認したりして、目標達成に向けて「ACTION」を軸として取組を進めた。

3 取組の効果

学校のスローガンを教員、生徒、地域に浸透させることで、授業や生徒指導など教育活動の全てにおいて、その「目標・内容・方法」を徹底的に吟味し教育理念とリンクさせる学校文化が根付いてきた。

本事例は、目指す姿をスローガンとして示し、教員だけではなく生徒や地域も含めて共有し、実践している好事例です。自己評価との関連付け、主任会や三役会での進捗状況の確認等により、常に意識して教育活動が行われるようにマネジメントしているところも参考になります。

■事例8：その他（個に応じた指導の充実）



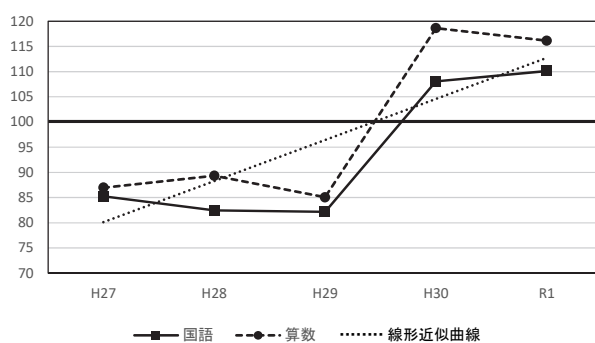
「個別の学習ファイルの活用」による個に応じた指導の充実
H市立H小学校（福岡地区）

○学校の特徴

全校児童数 80 名、8 学級（特別支援学級含む）、教職員 22 名の学校である。

全児童の入学時からの学力状況を蓄積した個別の学習ファイル（個人カルテ）を作成し、児童自らの振り返りや学習指導にいかすようにした。そのことで、個々の課題が明確になり、主体的に学びに向かう姿勢が見られるようになった。

○過去5年の経年推移（各教科の状況）¹⁰⁰



1 主な取組の概要

学習意欲をもって自ら学ぶことができるようにするために、各種学力調査結果や単元テスト結果を「個別の学習ファイル」としてまとめ、個に応じた課題別学習で活用した。

① 各学年の学力向上ロードマップづくりによる取組の共通理解

学力向上コーディネーターから提案された学力向上プランに明記した取組を実践できるように、各担任及び指導方法工夫改善教員が「個別の学習ファイル」から児童の実態分析を行い、学年学力向上ロードマップを作成して、具体的な取組内容や時期を決めて取組を進めた。

② 全学年による課題別及び習熟度別学習の実施（月2回） 【隔週に固定された学習日】

担任が「個別の学習ファイル」を使って各児童と面談を行い、分かっているところや苦手なところを確認する。そして、指導方法工夫改善教員が中心となって準備した学習プリントの中から、児童自ら選んで課題別学習・習熟度別学習を進める。また、必要に応じて、基礎問題だけではなく、活用・記述問題にも取り組ませる。このような学習日を隔週に固定して位置付け、保護者や地域の方の協力も得て取組を進めている。（本年度はコロナ禍により、校内のみで実施）

	第一週	第二週	第三週	第四週
1限目	1年生	2年生	1年生	2年生
2限目	3年生	4年生	3年生	4年生
3限目	5年生	6年生	5年生	6年生

③ 4～6年生のスペシャル習熟の時間の設定（年6回）

金曜日の6限目に、中・高学年の担任外の教員と低学年の担任が、学年学力向上ロードマップをもとに、思考力・判断力・表現力等を問う問題を活用して授業を進める。特に解答の際に条件を与えられている問題や、順序や根拠を明確にして書かなければならない問題を重点的に扱うようにしている。

2 取組のポイント

○ 取組の意義や効果を意図的・計画的に発信すること

年度当初に、児童の実態を「個別の学習ファイル」で分析し、学年学力向上ロードマップを作成し実践する中で、児童の学びの変容から取組の評価・改善を行う。このようなPDCAサイクルを年間の校内研修に位置付けたり、児童の伸びを定期的に確認したりすることで、教員の共通理解・共通実践が可能となるようにした。

3 取組の効果

日常の授業における表現力の伸びや学びに向かう力の高まりが見られる。また、全国学力・学習状況調査での無解答率の減少にもつながっている。

本事例は、「個別の学習ファイル」の作成・活用により、真の個に応じた指導を実現しているとともに、ファイルを基に面談を実施し、教員と児童が課題を共有して取組を進めているところによさがあります。また、ファイルを分析した上で、学年学力向上ロードマップを作成し、取組を進めているところは、組織的・計画的に取組を進めている好事例と言えます。

■事例9：その他（学力基盤づくり）

B	A
0	●
D	C

特別活動の本質を踏まえた学級活動と各教科を往還させるカリキュラム・マネジメント

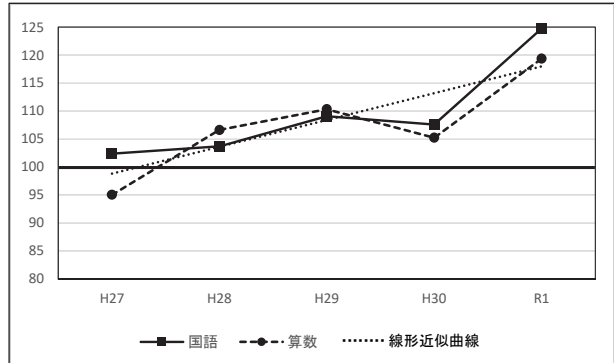
I 市立 I 小学校（南筑後地区）

○学校の特徴

全校児童数 223 名、11 学級（特別支援学級含む）、教職員 20 名の学校である。

非認知的能力育成に向け、よりよい生活の実現を求めた子供の主体的な活動の積み上げができるように、学級活動を中核としたカリキュラム・マネジメントを行い、子供たちの思いや願いを大切にしたい学級活動を創り出している。

○過去 5 年の経年推移（各教科の状況）



1 主な取組の概要

本取組は、主体的によりよい生活を拓く子供を育てるために、特別活動で育成する資質・能力を、重点目標に照らしながら3つの力（「生活力」「つながり力」「学び力」）から全校的に設定し、子供の思いや願いを重視する学級活動を創り出し、非認知的能力を高めることを通して学力向上につなげたものである。

① SP DCAに基づく学級活動の授業づくり

学級活動（1）の各活動段階において育成したい資質・能力の評価規準を設定・活用し、小学校6年間を通じて系統的な資質・能力の積み上げを実現できるようにした。また、学級活動の学び方をSP DCA（Standing-Plan-Do-Check-Action）とし、特にS段階（問題の発見・確認）における教師の支援を重点化し、子供にとって切実感のある議題・題材を選定して実践を積み上げた。また、C段階では、自分や学級の成長をキャリアノートに記録し、キャリア・パスポートにファイリングした。

② 特別活動を中核としたカリキュラム・デザイン

各学年でめざす「生活力」「つながり力」「学び力」の3つの力を系統的に設定し、計画的・組織的に育成していくことができるように、学級活動の推進を教育活動の中核に据えたカリキュラム・デザインを全学級で行った。そして、特別活動を中核として教科等との往還を図りながら重点目標の達成に向けた取組を行った。

2 取組のポイント

○ 学級活動と各教科等の往還的な関係

学級会で話合いの仕方を実践的に学び、学んだ話合いを活かした各教科等の対話的な学びと往還させることで協働的な学びを展開することができた。特に、国語科の「話すこと・聞くこと」の領域で学んだ話合い方を活かした学級会を仕組んだ。

3 取組の効果

本校が目指した「生活力」「つながり力」「学び力」と子供の主体性に関わる「ゆめ力」に伸びが見られ、子供の自尊感情や自己有用感、粘り強く取り組む態度に高まりが見られた。この主体性の育成が基盤となり、学力の高まりにつながった。また、職員の参画意識や取組の共通実践意識に伸びが見られ、組織力も向上した。

本事例は、学力の基盤づくりとして、特別活動(学級活動)を軸とした取組を推進することで、自尊感情や自己有用感等の非認知的能力の向上を図るとともに、学力向上につなげた好事例です。推進体制の整備やカリキュラム・デザインにより、全教職員での取組とした点も参考になります。

■事例 10：その他（非認知的能力の育成・授業改善）

B	A
0	
D	C

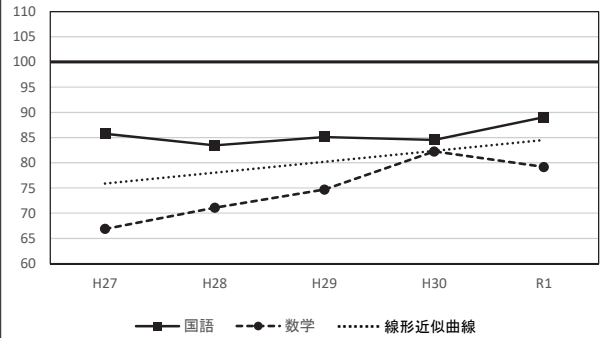
「自己更新プロジェクト」による学力向上に向けた基盤づくり

Ｊ町立Ｊ中学校（筑豊地区）

○学校の特徴

全校生徒 200 名、12 学級（特別支援学級含む）、教職員 28 名の学校である。学力調査結果や生徒による質問紙をもとに、学ぶ意欲を高めることや自分の考えをもたせることに課題を見出した。課題を改善するために、「自己更新プロジェクト」と授業における終末段階の「振り返り」を重視した授業改善に組織的・計画的に取り組んでいる。

○過去 5 年の経年推移（各教科の状況）¹⁰⁰



1 主な取組の概要

「自己更新プロジェクト」の取組と授業終末時の「振り返り」の充実を図る取組により、学ぶ意欲の向上と、自分で考え自分から取り組むことができる力の育成を図っている。

① 「自己更新プロジェクト」の取組

「自己更新プロジェクト」とは、「My 学力向上プラン」の作成と併せて、鍛ほめ福岡メソッドの考え方を活かした「目標設定の活動」「挑む活動」「振り返る活動」等に繰り返し取り組む活動である。「目標設定の活動」では、「My 学力向上プラン」に、進学希望高校、合格に必要な目標評定、毎回の到達度テストの目標、「未来への一歩」診断テスト結果の変容等を記入させる。「挑む活動」では、生徒に作成させた学習計画表をもとに、進捗状況の確認と激励、目標更新のための支援を行う。「振り返る活動」では、到達度テスト後に、結果と学習方法の振り返り、次のテストの目標を記入させるとともに、効果的な学習方法を交流させる。「ほめる活動」では、目標達成者、検定試験合格者を表彰し、学校便りで町内全家庭に紹介する。

② 「書く活動ポイント 9」を活用した学習過程「振り返り」の場面の充実

筑豊教育事務所が発行したリーフレット「書く活動ポイント 9」についての研修を行い、それをもとに、「振り返り」の場面での「書く活動」の充実を図った。

2 取組のポイント

○ 取組の意義の共有

自己更新プロジェクトについては、取組の 1 年次に、教職員に目的・意義を確認し共通理解を図った。2 年次である今年度は、1 年次の課題を受けて取組の改善を図った。

○ 評価活動の充実

「振り返り」の場面での「書く活動」については、記述内容の質の向上を図るために、校内研修を行い、個別評価の充実を図った。また、生徒のよい記述をモデルとして提示し、交流できるようにした。

3 取組の効果

「未来への一歩」の取組に係る生徒質問紙では、「学校の授業などの中で『わかった』『できた』と感じてうれしかったことがある」「目標を達成できるように粘り強く取り組んだことがある」等、多くの項目が県平均より高かった。生徒の学ぶ意欲や自己調整学習力の高まりが、学力の向上につながりつつある。

本事例は、「鍛ほめ福岡メソッド」の趣旨を生かした取組を通して、学ぶ意欲等の非認知的能力の育成を図りつつ、学力向上に成果を上げている好事例です。また、自校の課題から授業における「振り返り」を授業改善の視点として見出し、組織的に取り組んでいる点も参考になります。

■事例 11：その他（学力基盤づくり）

B	A
0	●
D	C

自主的・自律的に学びに取り組む生徒を育てる学力の基盤づくりの取組

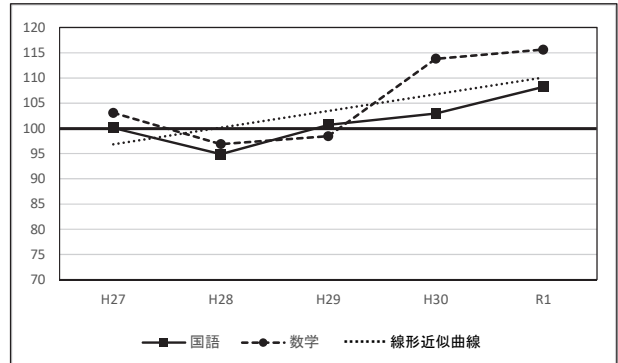
K市立K中学校（福岡地区）

○学校の特徴

生徒数 566 名、19 学級（特別支援学級含む）、
教職員 38 名の学校である。

家庭学習の取組状況に生徒間の差があるとい
う課題を見出し、学力基盤づくりとして家庭学
習・補充学習を徹底する体制を整え、個に応じた
きめ細やかな支援をしている。

○過去 5 年の経年推移（各教科の状況）



1 主な取組の概要

生徒の学力基盤づくりとして、補充的な学習の取組を組織的、計画的に行っている。

① 自学ノート<サクセスノート>

ノートの構成は、左ページに、その日の学習内容の振り返り、日記、デジタルデバイスに触れた時間、右ページに個人目標の設定と自学を記入できるようにしている。担任と副担任で役割分担し、毎日提出状況をチェックし、フィードバックをしている。家庭学習、補充学習と連動させ、必要な場合は、放課後の補充学習で支援するようにしている。



サクセスノート

② 学習サイクル<レディネスタイム・レビュータイム>

- ・レディネスタイム（朝の会前15分）：脳を目覚めさせるために一日の学習のウォームアップとなる活動として、基礎的なドリル学習、読書、運動等を行う。
- ・レビュータイム（帰りの会の後30分間）：サクセスノートにその日に学習した内容を振り返って記入したり、週テストのプレテストに取り組む時間を設定する。週末にテストを実施し、全員が基準の点数をクリアできるよう支援を行い、再テストを行っている。

③ 学習会

CSS（コミュニティ・スクール・スタディ）、夏季、冬季休業中の補充学習会、テスト期間の放課後学習会等、自主的に学習する場を設定し、担当教員や地域の大学生ボランティアが支援を行っている。CSSは日常的に放課後行われ、学年ごとに学習するスペースが整えられている。



放課後のCSSの様子

2 取組のポイント

○ 「鍛ほめ福岡メソッド」の趣旨を踏まえた取組の推進

「鍛ほめ福岡メソッド」の考え方や仕組みを学校の教育活動のあらゆる場面に設定している。「個人の目標の設定→振り返り→次の目標の設定」をする習慣をつけることで、子供たちが自主・自律的に学習に取り組み、自己有用感、自尊感情、達成感を味わうことができるようにしている。同時に教員が認めたりほめたりすることでも意欲付けにつながるようにしている。

年度当初に、教員にも生徒にもオリエンテーションを行い、この取組の価値や方法について共有している。

3 取組の効果

- ・ 継続的、組織的な取組により、学力は向上傾向にある。
- ・ 自尊感情の高まりにより、不登校生徒数が減少している。
- ・ 生徒が「サクセスノート」にその日の学習内容をまとめることができるようにするため、教員が「何を学んだか」「何ができるようになったか」を実感できるような授業づくりをする意識が高まり、授業力向上にもつながっている。

本事例は、生徒の家庭学習の取組状況に差が見られることに課題を見出し、強制的ではない自律的な学びを目指して生徒主体の取組とした好事例です。また、「鍛ほめ福岡メソッド」の仕組み等を取り入れ、自己有用感等の非認知的能力を高めつつ、取組を進めている点も参考になります。

■事例 12：その他（家庭学習等）

授業と家庭学習をつなぐ「ドリームノート」の活用
 L 市立 L 中学校（南筑後地区）

B	A
0	●
D	C

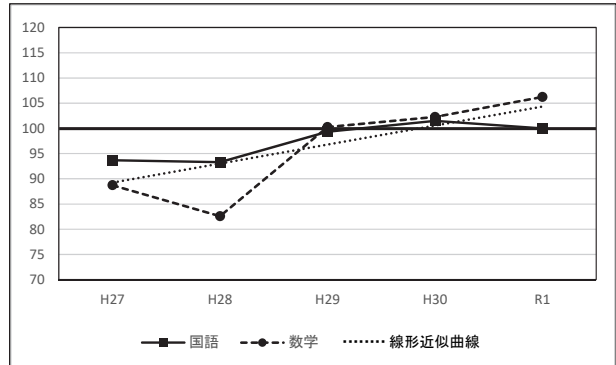
100

○学校の特徴

全校生徒数 105 名、7 学級(特別支援学級含む)、教職員 18 名の学校である。

見通しをもって自ら学習活動に取り組み、振り返ることができる生徒の育成を目指し、授業と家庭学習を結び付ける「ドリームノート」の取組の推進・改善を生徒会が中心となって行っている。

○過去 5 年の経年推移（各教科の状況）



1 主な取組の概要

授業の充実に向けては、家庭学習の取組を両輪として充実させる必要があると考え、授業と家庭学習をつなげる「ドリームノート」を作成し、生徒会を中心に毎日実施している。

① 「夢を叶える 1・2・3」目標設定シート

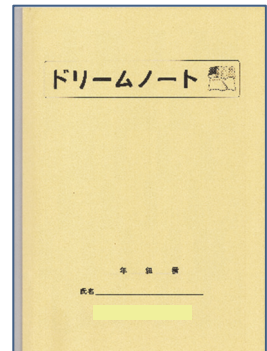
年度当初に「未来のなりたい自分」について考え、「今の自分」と比較しながら、そこへ近付くための 2 ヶ月間の短期目標を設定し、目標に向けて学び続けることを意識できるようにしている。

② 生徒会主導による「ドリームタイム」

6 校時終了後、生徒会主導の「ドリームタイム」となる。生徒の放送により全校一斉に「ドリームノート」を開き、(1)黙想、(2)その日に学習した内容の想起、(3)振り返りの記入を行う。

③ 毎日の「ドリームノート」の取組

ノートを 2～4 分割にし、振り返りをもとに家庭学習を行う。(1)知識定着型、(2)技能定着型、(3)見方考え方定着型という学習委員会による学習の進め方アドバイスをもとに学習を行っている。



ドリームノート

2 取組のポイント

○ 他者からの称賛等による学ぶ意欲の向上

「ドリームノート」の内容については、生徒会からの意見を取り入れ改善を図っている。また、保護者や教員からの見取りと励ましのコメントを大切にしている。PTA 活動と連携して、保護者には、週に一度「保護者欄」への記入をお願いしている。教員は学習方法やノートの取り方について毎日個別にフィードバックすることを通して、学ぶ意欲へとつなげることを大切にしている。

3 取組の効果

「ドリームノート」を使うようになって、自主的に取り組む姿や目標に向かって努力する生徒の姿が見られるようになった。教員や保護者による称賛や、励まし、アドバイスを繰り返すことで、生徒の自己肯定感を高め、学び続ける土台となっている。このことを教員が意識して実践するようになり、生徒一人一人の確かな学習習慣の形成につなげている。

本事例は、家庭学習と毎日の授業をつなぎ、自主的に学ぶ姿や目標に向かって努力する姿へとつないでいる好事例です。目標設定シートの活用による適切な目標設定、教員や保護者による称賛等、鍛ほめ福岡メソッドの趣旨を踏まえた取組とし、非認知的能力の向上を図っている点も参考になります。

■事例 13: 授業改善

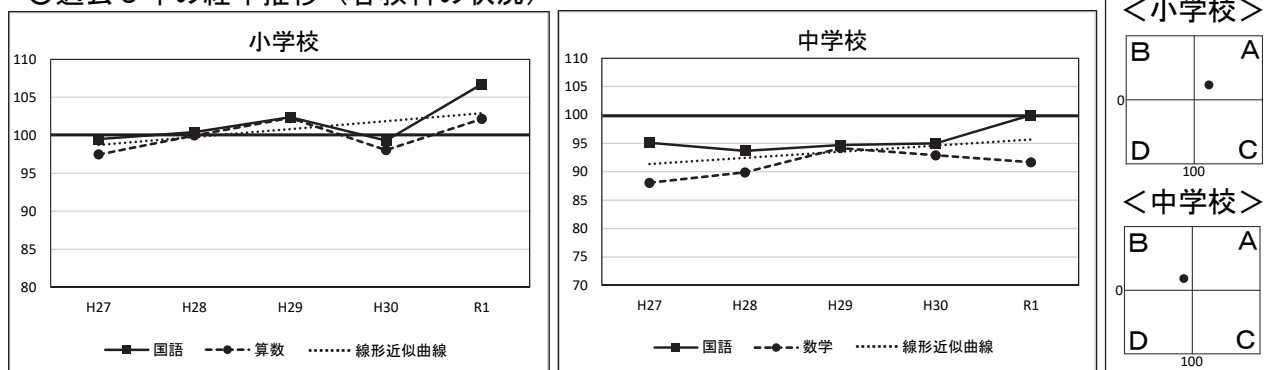
小・中学校一貫した授業スタイルの確立

ア町教育委員会（北筑後地区）

○市町村教育委員会の取組の概要

小・中学校で一貫した授業スタイルを確立することを中心に、町内の小・中学校の学力向上部会等を機能させ、組織的に授業改善に取り組んでいる。

○過去5年の経年推移（各教科の状況）



1 具体的な取組内容

小・中学校9年間を通して、学力の着実な積み上げを図るために、「教えて考えさせる授業」と「学力の基盤づくり」を基に授業づくりに取り組んでいる。

① 町全体での「教えて考えさせる授業」の推進

町内小学校4校、中学校1校で、以下の4つの点を基にした授業スタイルを共有し授業改善を図っている。

- ・ 新しい学習内容を教師が的確に教え、確実な習得をねらう授業
- ・ 自分の考えを説明する活動や互いに考えを説明し合う活動の位置付け
- ・ 学んだ知識や考え方を他の問題（類似問題、発展問題）に活用する時間の設定
- ・ 自己の学びを振り返る「自己評価」の時間の設定

② 町全体での学力の基盤づくり

①の学習の基盤づくりとして、落ち着いて学習に取り組むための各学校に応じた立腰等の学習規律の確立に加え、学力向上と非認知的能力を結んだ効果のある指導として、子供への声かけや支援の在り方等について、講師を招聘しての小中合同研修を開催している。

2 取組のポイント

○ 町内の全小・中学校の代表者による学力向上部会等によるPDCAサイクルの確立

10年以上の継続的な取組として、各小・中学校の代表者による学力向上部会等を設置し、定期的に部会を開催している。その中で、学力調査分析や小中合同の公開授業研修の企画・運営等を行っている。小中合同研修では、市川伸一教授（東京大学大学院）や久我直人教授（鳴門教育大学教職大学院）を招聘し、助言を仰ぎながら授業づくりに取り組んでいる。

3 取組の効果

- ・ 「教えて考えさせる」授業の型のよさを生かして、子供たちが問題を解く量や時間を十分に確保することで、学力の基礎・基本の定着につながっている。
- ・ 学年、教科を越えて共通の授業スタイルに取り組み協議することで授業の質も確実に向上している。さらに、そのような協議の場が、教師同士の協働性や同僚性も高めている。

本事例は、校種・学年・教科を越えて共通の視点から授業づくりに取り組むことで、町全体の授業改善に向けた意識の高まりにつなげている好事例です。代表者による定期的な部会、小中合同の公開授業研修、講師を招聘しての合同研修等の開催により、組織的・計画的に取組を進めている点も参考になります。

■事例 14：小中連携

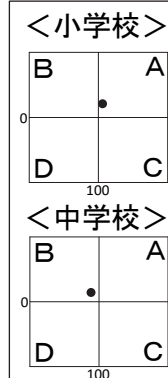
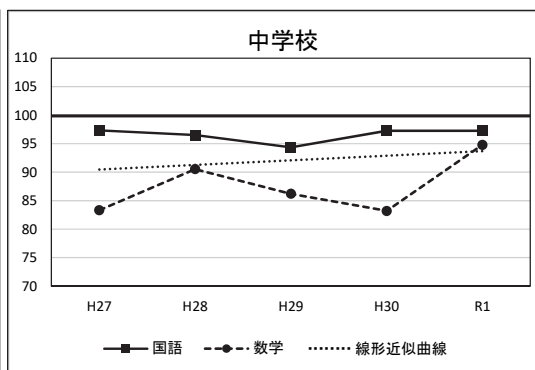
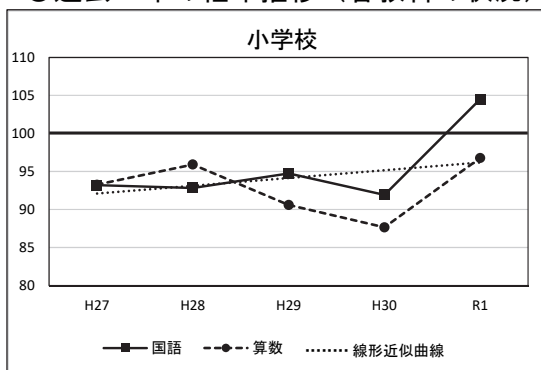
教育委員会のリーダーシップによる小中連携した検証改善

イ市教育委員会（北九州地区）

○市町村教育委員会の取組の概要

教育委員会が、市の検証改善ロードマップを示し計画的に学力向上検証委員会を実施することで、市内の小・中学校が連携して検証改善を図り学力向上を目指している。

○過去 5 年の経年推移（各教科の状況）



1 具体的な取組内容

小中連携による学力向上を図るために、教育委員会が学力向上に向けた検証改善ロードマップを示し、計画的に学力向上検証委員会を開催して、市全体で取組を検証改善している。

① 学力向上検証委員会における検証改善

短期的な学力向上に向けた取組の検証改善を図るために、学力向上検証委員会を3回実施した。まず、計画的に検証改善を図るために、第1回に教育委員会が各学校に市の学力向上プランや学力向上検証改善ロードマップについて説明、提示を行った。また、それぞれの回において教育委員会が学力調査等の結果分析を提示した上で、授業改善や個に応じた指導等の課題解決に向けた共通する取組について説明・協議を行い、学校と共通理解を図った。このように、検証改善サイクルを確立することで、実効性ある取組の実施につながった。

② 市全体での共通取組の実施

学力向上を図るために、取組の重点化を図り共通取組を行った。例えば、これまでの学力の課題や要因を視点に授業スタンダードを活用した授業の質の向上を目指し、「自分の考えを表す」活動と「考えを深め合う」活動において根拠を示して説明させることに重点を置いて授業改善を図ることを共通理解し、実践を行った。

2 取組のポイント

○ 教育委員会のリーダーシップ

市全体でベクトルをそろえて取組を進めるためには、全ての学校で目標を共有し、取組の共通理解を図り、それを検証改善する必要がある。そのために、教育委員会が全市で共通した授業改善のモデルを提示し、各学校の課題に応じて学校訪問を繰り返し行うなど、学校と課題を共有してその解決に取り組み、リーダーシップをとって改善を図った。

3 取組の効果

市の学力向上プランでは、全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙項目「算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるように書いている」での肯定的な回答、小学校 70%、中学校 75%を成果指標の一つとしている。本年度調査を活用して調査した結果、いずれも達成できた。

本事例は、学力向上検証改善ロードマップを軸として、市全体で学力向上の計画を共有し、取組を進めている好事例です。具体的、客観的なデータ分析に基づき、共通取組を提示して、共通実践につないでいるところも参考になります。

■事例 15：小中連携

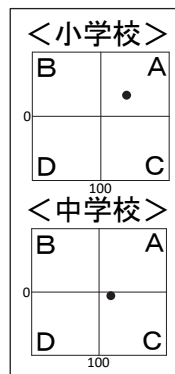
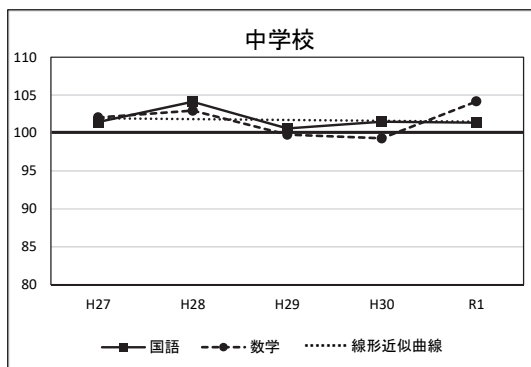
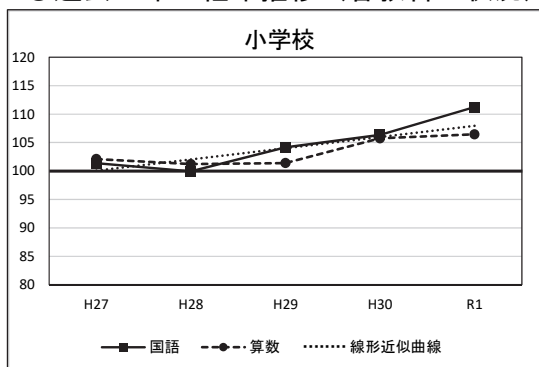
学力向上スタンダード等による小中9年間を見通した学力向上

ウ市教育委員会（福岡地区）

○市町村教育委員会の取組の概要

地域総がかりで子供の学びや育ちを支えるために、コミュニティ・スクール（以下、C・S）による学校・家庭・地域の横のつながりに加え、小中9年間を見通した縦のつながりも大切にしながら、小中一貫型のC・Sを展開し、非認知的能力と学力を両輪として向上させる。

○過去5年の経年推移（各教科の状況）



1 具体的な取組内容

小中9年間を連続させた子供の学びや育ちを支えるために、「ウ市学力向上スタンダード」に基づく授業改善と「中学校区合同研修会及び実践交流会」による学力向上の取組を行う。

① ウ市学力向上スタンダードに基づく授業改善

「社会に開かれた教育課程」「学習基盤」「主体的・対話的で深い学び」の視点で作成したウ市学力向上スタンダードを基に、各中学校区版スタンダード（9年間で目指す子供像、授業スタイル、学び方等）を作成して具体化するとともに、授業実践を通して、教頭研修会を中心にその検証・改善を図った。

② 中学校区合同研修会及び実践交流会の実施

各中学校区の連携会議の中で、全国学力・学習状況調査及び県学力調査、並びに市統一学力調査の結果分析を行い、小中9年間の学びや育ちを見通した授業改善の視点を明確化するとともに、合同研修会の場合（年間3回程度）において小中授業実践交流（人権教育を含む）を行った。

2 取組のポイント

○ 向学心を高める

- ウ市学力向上スタンダードを基に、各中学校区版スタンダードの作成と小中連携カリキュラム（ふるさと、防災、食育、人権等の視点）で特色化を図り、学力向上を目指した。
- 家庭や地域（企業を含む）の様々な大人を巻き込んだ教育活動による、社会性や人間性等の非認知的能力の育成が鍵となった。

3 取組の効果

小中9年間を連続させた子供の学びや育ちを支える小中の教職員の意識改革、共通理解が進んできたことで、系統性・連続性を意識した「カリキュラムの目」が備わってきた。このことにより、小中9年間を見通した授業改善が図られ、子供の学力向上に結び付いてきたと言える。

本事例は、市共通のスタンダードを作成した上で、各中学校区の実態を踏まえて、具体化した中学校区版を作成し、各中学校区の主体性を発揮できるようにしている点が参考になります。また、コミュニティ・スクールを活用し、地域をあげて子供の学びや育ちを支える取組を進めている点も参考になります。

■事例 16：ICT活用

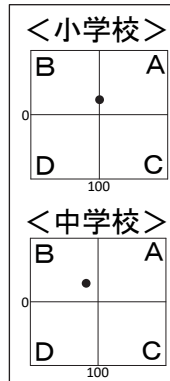
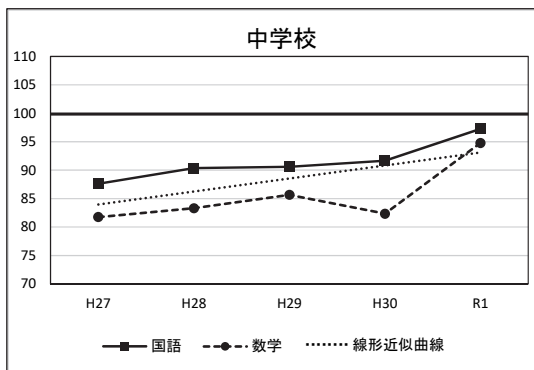
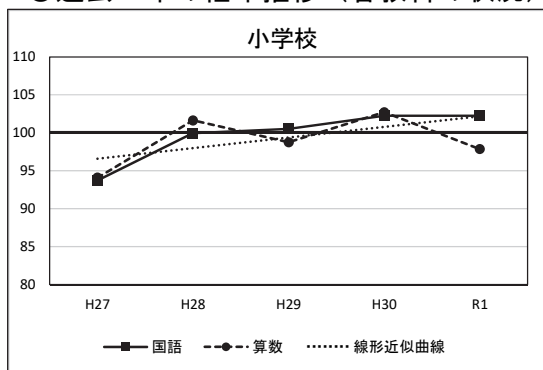
21世紀にふさわしい学びの環境とICTを活用した授業づくりの推進

工市教育委員会（北筑後地区）

○市町村教育委員会の取組の概要

ICTを活用した子供の自主的な学びを支援するために、ICT機器（パソコン、タブレット等）の充実及び、計画的な教職員研修（理論研修、実技研修）の実施に取り組んでいる。

○過去5年の経年推移（各教科の状況）



1 具体的な取組内容

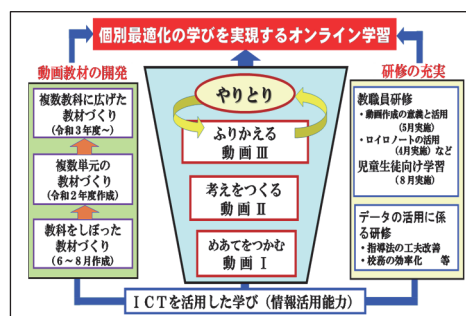
子供の情報活用能力の育成のために、ICTを効果的に活用した分かりやすく、学びが深まる授業の実現を目指した教職員研修を推進している。

① ICT活用のための3つの教職員研修

- ・ 大学の先生を講師に迎え、全教職員を対象にした理論研修に加えて、小・中学校の全教員を3つの習熟度に分け、アプリの操作やプログラミング学習の体験等、すぐに授業に役立つ実践的な内容で実技研修（年2回）を実施している。
- ・ 外部講師を招き、各学校でのデジタル教科書や協働学習支援ツール（授業支援ソフト）を活用した実践を交流する研修も行っている。

② オンライン学習の取組

右図の構想に基づき、各学校の代表1名で構成するオンラインプロジェクト委員会を発足し、家庭でのオンライン学習を想定して算数・数学の動画（各学年1単位時間分）を完成させている。1単位時間の動画は、導入・展開・終末の3部構成で、子供と教師の双方向のやり取り場面、認め励ます評価場面も位置付けている。



【オンライン学習の構想】

2 取組のポイント

○ 簡単な活用から発展的な活用へ

まずは、簡単な操作技術を1～2つに絞り徹底的に活用させることからスタートし、その後発展的な活用へと進めるように支援した。

3 取組の効果

作成した動画を子供が活用した際、自分の理解に応じ、巻き戻して学習を進める姿が見られた。このことから、本取組は、教職員のICTを活用する実践意欲や指導力を向上させるとともに、子供の個別最適化された学びにつながる効果があると考えている。

本事例は、全教職員を対象とした理論研修を行った上で、習熟度に応じた研修を位置付けるなど、ICTを活用した授業等の充実に向けた教育委員会の支援に係る好事例です。また、オンライン学習については、1単位時間を3部構成にするなどの子供の実態を踏まえた工夫が参考になります。

■事例17：ICT活用

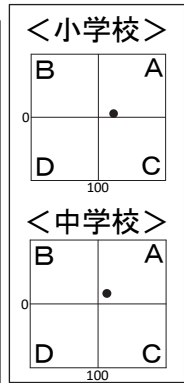
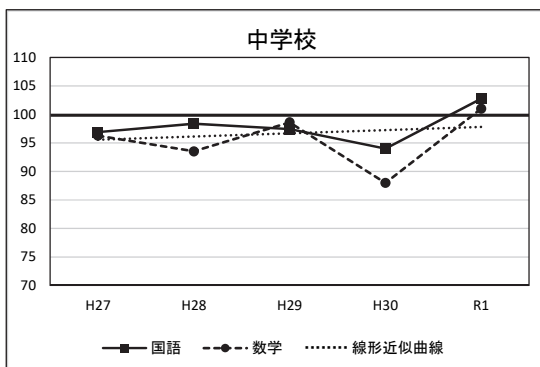
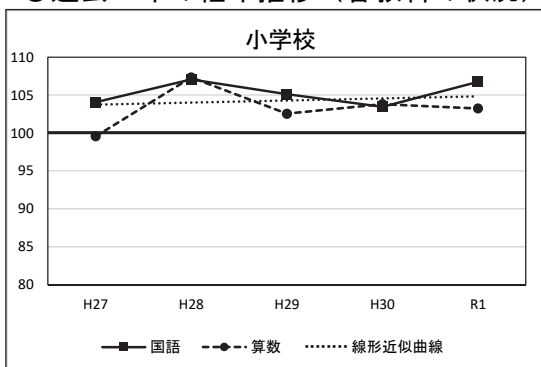
授業改善・学力向上に向けたICT機器活用の取組

才市教育委員会（南筑後地区）

○市町村教育委員会の取組の概要

全小・中・義務教育学校の通常学級に電子黒板システム及びタブレット学習ソフト（ミライシード）を導入し、各校の小6・中3の1学級分（最大人数分）のタブレットを配備した。このシステムをより効果的に活用し、授業改善や学力向上の取組の充実が図れるよう教員研修や授業実践を行う。

○過去5年の経年推移（各教科の状況）



1 具体的な取組内容

「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業の実現、さらに、児童生徒の基礎学力の定着、向上に向けて、各学校においてICT機器の効果的な活用が図られることを目指している。

① 授業支援ソフト（オクリンク）の活用

三角ロジックによる児童生徒の考えを、電子黒板を使って発表したり、一覧表示で交流活動を行ったりして、思考力や表現力を高める授業実践を行う。令和元年度には各校から1名参加するICT担当教員研修において、全校の授業実践について情報交換を行った。

② 個別学習ドリル（ドリルパーク）の活用

ICT支援員を活用して各校内研修で操作方法等の研修を行い、授業中や放課後学習で個のレベルやペースに応じた個別学習を行う。さらに、令和元年度から放課後版ドリルパークを導入し、先行実施校の状況をもとに成果と課題を明らかにしながら今後の取組の充実を図る。

2 取組のポイント

○ 教員のICT機器活用の技能と意識の向上

教員のICT機器操作の実態も様々である。「全ての学校で、同一の内容を、誰もが操作できる」条件を設定し、ICT担当教員研修を通して共通理解を図る。また、ICT管理職研修を実施し、管理職自身がリーダーシップを発揮しながら組織的、計画的に推進できるようにする。

3 取組の効果

- ・ 全ての学校でオクリンクを活用した授業実践が行われ、効果や課題について情報共有することができた。教員の「できる」という実感とともに、児童生徒の学習意欲も高まってきている。
- ・ ドリルパークを活用した学校では、教材準備の時間の短縮ができた。

本事例は、ICT機器の整備とともに、学習等の支援ソフトを導入し、市一体となってICTを活用した授業づくりを進めている好事例です。ICT担当教員研修や管理職研修により、組織的に取組を進めている点も参考になります。

■事例 18 : ICT活用

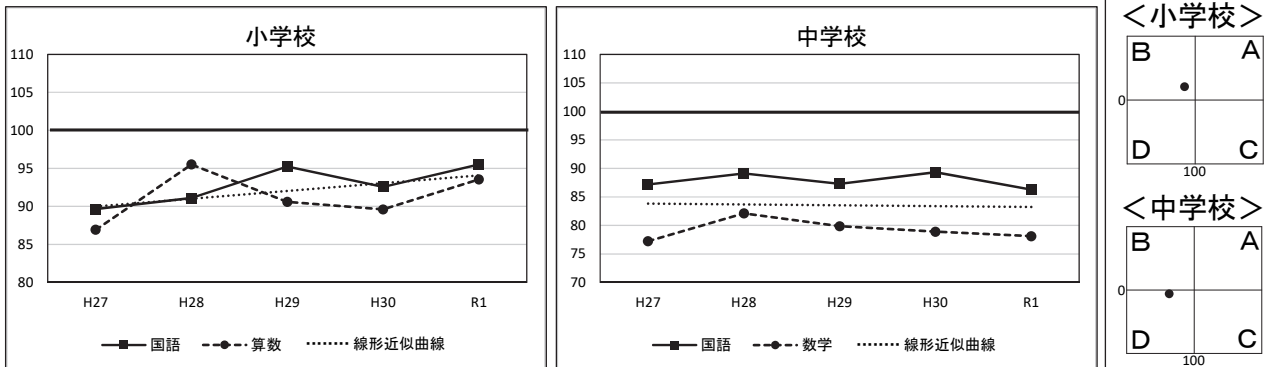
ICT教育機器の整備と連動した計画的・段階的な教員研修の実施

カ市教育委員会（筑豊地区）

○市町村教育委員会の取組の概要

本市の教育の情報化ビジョンに掲げた基本目標の達成に向けて、電子黒板やタブレット端末等のICT教育機器の整備と連動した教員研修を計画的・段階的に実施している。

○過去5年の経年推移（各教科の状況）



1 具体的な取組内容

本市は教育の情報化を推進するために、学校と教育委員会、市長部局が一体となった市ぐるみの教育の情報化に取り組んでいる。

① 「市教育の情報化ビジョン（推進基本計画）」における目標設定及び機器整備

- 3つの基本目標（①どの子にも分かる授業、②児童生徒の情報活用能力の育成、③校務の情報化による児童生徒と向き合う時間の確保）を設定し、この目標の達成に向けて、「一人の百歩ではなく百人の一步」をスローガンに、取組を進めている。
- 全小・中学校に大型提示装置、デジタル教科書、書画カメラを導入している。一人一台のタブレット端末配備の準備を進めている。

② 教員研修等の計画的・段階的な実施

機器の整備に合わせて教員研修を実施している。研修実施上のポイントは次のとおりである。



2 取組のポイント

○ 「一人の百歩ではなく百人の一步」を意識した研修等

推進基本計画に沿って、理論研修や授業研修、実技研修を実施するとともに、各校での実践を集めた実践事例集を作成・配布するなどした。こうした取組により、市内教員のICT活用力及び実践意欲の高まりがみられた。

○ 取組の成果が見える特色ある実技研修の企画・運営

生徒会サミットや英語スピーチコンテストなど市主催のイベントでのプレゼン指導等に生かせる、ワークショップ型の実技研修を開催した。研修においては、教員が目的意識を高くもって参加する様子が見られ、当日のプレゼンにも大きな変化がみられた。

3 取組の効果

教育の情報化に関する国の調査と市独自の調査結果（令和元年度）から、「授業中、ICTが活用できている」と答えた市内教員の割合は、小学校で95%、中学校で80%と全国平均と比較して高く、これに伴って、市内小・中学校の学力諸調査の結果も、上昇傾向となっている。

本事例は、市としての教育の情報化を進めるに当たって、学校、教育委員会、市長部局が一体になって取組を進めている好事例です。生徒が参加する市主催の行事等にかける実践研修を企画し、各教員のICT活用に対する目的意識を高めている点も参考になります。

■事例 19：教員研修

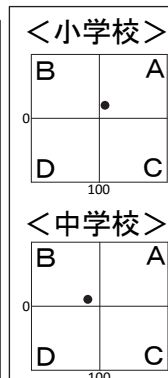
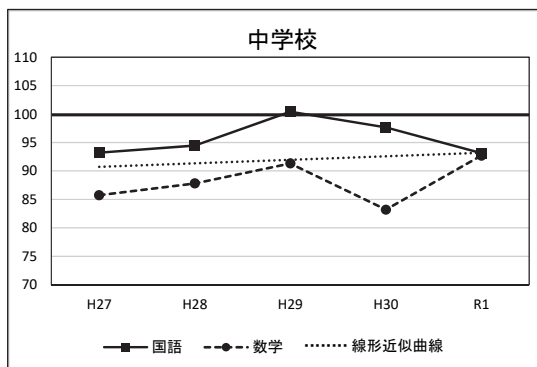
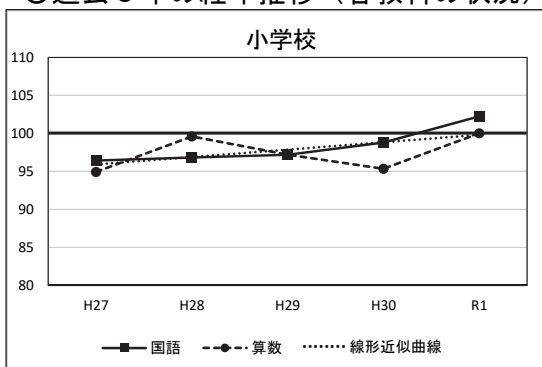
キ町校内研修交流システムの活用

キ町教育委員会（京築地区）

○市町村教育委員会の取組の概要

学力向上に向けた課題をもとに、校内研修への相互参加、若年層の指導力向上に向けた研修等を活用して、基礎的・基本的な知識・技能及び活用力の育成に向けた授業改善の取組を町内全ての小・中学校で共有できるようにしている。

○過去5年の経年推移（各教科の状況）



1 具体的な取組内容

児童生徒の思考力・表現力の向上を図るための学力向上に向けた授業改善の取組、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図る取組の共有化を図るための研修を実施している。

① 教育課題担当校の指定と校内研修への相互参加

- ・ 国語科・算数科・理科・生活科・社会科・道徳科を町内6小学校で分担して主題研究を進める体制をとっており、中学校も含め、各校で実施される校内研修への相互参加を奨励している。
- ・ 各校における研修に参加した教員は、各在籍校の研修において報告するようにしており、研修で得た情報の共有化を図っている。

② 若年層の指導力向上に向けた研修の充実

- ・ 本町が抱える算数・数学科の課題（基礎的・基本的な学習内容の定着が不十分であること）の解決に向けた授業力向上を目指し、町指導主事が校内研修に参加して指導するなどの取組を積極的に行っている。
- ・ 退職教員を活用し、若年教員の授業参観とその後の指導など、指導力向上に向けた研修体制を整えている。

2 取組のポイント

○ 研修体制の整備

教育課題担当校の校内研修への相互参加を推進するにあたり、教育委員会が取り組んでいることは次の2点である。

- ・ 町研修として位置付ける【全教員が2年間のうち、1回以上、他校の研修会に参加する】
- ・ 町内小・中学校の研修内容等を取りまとめ、各校へ周知する。

組織的授業改善の推進や若年層の指導力向上といった研修意図について校長会で共有し、各校が連携した取組になるよう協議している。

3 取組の効果

教育課題担当校への校内研修参加後の教員が、在籍校で研修内容を報告することで、各教科の授業改善につながっている。このことは、若年層の指導力向上にも寄与している。

本事例は、町における課題について、町内6小学校で分担して課題解決の方策等を究明しようとする教育委員会における課題解決の方策の好事例です。他校での校内研修への参加奨励、校内での報告は、取組を町全体で共有する上で参考になります。

IV 令和2年度全国学力・学習状況調査問題を活用した授業改善のための指導資料

令和2年度全国学力・学習状況調査については、新型コロナウイルス感染症の学校教育への影響等を考慮し、実施されませんでした。調査問題は、全ての教育委員会、学校、児童生徒に対して、学習指導要領の理念・目標・内容等に基づき、学習指導上特に重視される点や身に付けるべき力等を具体的に示すメッセージを盛り込んで作成されているものです。そのため、児童生徒の教育指導の改善・充実に資するよう、有効に活用することが必要です。

そこで、福岡県教育委員会として、各市町村（学校組合）教育委員会や学校における活用の参考となるよう、全国学力・学習状況調査の問題冊子等の活用例に関する資料を下記のとおり作成しました。

また、本年度調査の特徴的な問題の解説・授業改善のポイント等をまとめた資料を作成しました。

児童生徒の教育指導の改善・充実に資するよう、有効に活用いただければ幸いです。

令和2年度全国学力・学習状況調査の問題冊子等の活用（例）

活用の目的

- 児童生徒の学力や学習状況の把握
- 児童生徒への教育指導の充実や学習指導の改善
- 教育施策の成果と課題の検証、教育に関する継続的な検証改善サイクルの確立

活用方針の検討（市町村、学校で検討）

- ①活用の単位：市町村（中学校区）で共通 / 各学校独自
- ②活用の内容：(1) 授業等における教材として / (2) 検証改善のための調査として / (3) 研修会等における資料として
- ※ 調査として実施する場合：「採点・集計」までか / 「分析・検証」までか
- ③活用の範囲：一部の問題・質問紙調査 / 全ての問題・質問紙調査

(1) 授業等における教材として活用

- 調査問題と関連する単元の授業で活用
- 定期考査等で出題範囲の単元に関連する調査問題を出题

(2) 検証改善のための調査として活用

- 一部の問題・質問紙調査に重点化して実施→市町村や学校において過去の調査で課題のあった問題
(質問紙調査項目 例：非認知的能力に係る項目 等)

- 全ての問題・質問紙調査を実施

<採点・集計する場合の工夫例>

- ・選択式、短答式問題は全教職員で分担して採点 ・記述式問題は国語、算数（数学）の教科担当が採点
- ・学習支援員やスクールサポートスタッフを活用して集計
- ・質問紙調査は、マークシート読み取りソフトを活用して集計 等

(3) 研修会等における資料として活用

- 全教職員で課題共有・改善策検討 →授業改善の視点の共通理解→補充的な学習の実施
- 市町村（学校）における取組等の評価→今後の方向性の検討

1 の三

目的や意図に応じ、取材内容を基にして、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題

<関連する過去の問題>

H31 ③三：【インタビューの様子】の口、豊職人の仕事への思い等に注目して心に残ったことを書く問題

【メモ①】

4/17 (金)

○取材をした相手 家の人

○インスタント食品のよさ

・軽くて持ち運びが楽

・いろいろな種類がある

【メモ②】

4/18 (土)

○取材をした相手 スーパーマーケットの店長

○インスタント食品のよさ

・好みに合わせて選ぶことができる

・カレー、シチュー、パスタなど

・フリーズドライ製法は栄養価が保たれる

・味の味やかおりとほぼ変わらない

【メモ③】

4/19 (日)

○取材をした相手 一人ぐらしの森さん

○インスタント食品のよさ

・一人分だけ作ることができるから作りすぎない

・食材をむだにすることが少ない

・長持ちするから買い置きができる


〈条件〉

○【メモ①】から【メモ③】までのの中から、伝えたいインスタント食品のよさを取り上げて書くこと。なお、取り上げるよさは一つでも二つ以上でもよい。

○実際に発表しているような言葉づかいにすること。

○四十字以上、六十字以内にまとめて書くこと。

【発表の様子】



青木さんは、取材を通して分かったことをもとに、インスタント食品のよさについて発表をします。あなたが青木さんなら、どのように話しますか。次の【発表の様子】の□に入る内容を、あとの条件に合わせて書きましよう。

今、身の回りには、たくさんインスタント食品があり、ぼくの家でも食べるがあります。ぼくは、「簡単」、「おいしい」というところがインスタント食品のよさだと思っていましたが、それ以外にも、もつとよさがあるのではないかと、思いました。そこで、身近な人に取材を試みたところ、いろいろなよさが見つかりました。

ぼくが、みなさんに伝えたいインスタント食品のよさは、

みなさんは、どのようなところがよさだと思えますか。

正答の導き方

〔1〕 問題文と【発表の様子】、〈条件〉を読んで問われていることを確認する。

- ① 問題文と【発表の様子】の一部分から「インスタント食品のよさ」を書く必要がある。
- ② 〈条件〉の一部分により、【メモ①】から【メモ③】までのの中から、伝えたいインスタント食品のよさを、一つもしくは二つ以上取り上げる必要がある。

〔2〕 【メモ①】から【メモ③】の中から、伝えたいインスタント食品のよさを選ぶ。

【メモ①】から【メモ③】の中に書かれた「インスタント食品のよさ」（□部）の中から伝えたいよさを選んだり、関連のあることをまとめたりする。

〔3〕 〈条件〉に合わせて書く。

上記〔2〕で選んだ「よさ」をもとに、【発表の様子】での言葉づかいと同様に敬体で、字数制限に合わせて書く。

必要な知識・技能

- ・自分の意見と比べるなどして考えをまとめる。
- ・自分の考えの理由を明確にして書く。

【正答例】 関連のあることをまとめている

いろいろな種類があるので好みに合わせて選ぶことができるところや、一人分だけ作ることができるので作りすぎないところです。（59字）

調査問題を活用した授業改善のための指導資料

誤答例とその原因

(誤答例1) お湯をそそぐだけでラーメンやスープなどを作ることができるところです。かん単なのに、とてもおいしいです。(51字)

- ◆ 【メモ①】から【メモ③】の中にはない「インスタント食品のよさ」を取り上げている。
※ また、【発表の様子】では「『かん単』『おいしい』…、それ以外にも」と話しているが、「かん単なのに、とてもおいしい」と書いていることから内容をつかめていない。

(誤答例2) 軽くて持ち運びが楽でいろいろな種類があるので好みに合わせて選ぶことができ、一人分だけ作ることができるから作りすぎない。(59字)

- ◆ 実際に発表をしているような言葉づかいではない。

授業改善のポイント

- 本問では、興味をもったことを調べ、学級の友達に発表する場面が設定されています。こうした「話すこと・聞くこと」の学習活動を設定する際には、**目的を明確にもつ**ことができるように指導することが大切です。

発表するときに**伝えたいこと**は、はっきりしていますか。友達と話し合っ、伝えたいことを話したり、質問したりして、**はっきり**させましょう。

ぼくは、**インスタント食品のこと**を調べて伝えたいと考えているよ。

インスタント食品には、どんな**よさ**があると考えているの？

インスタント食品は「簡単」「おいしい」という**よさ**があると思うよ。

わたしは、短い時間で作ることができるという**よさ**があると思うな。

他の人は、どのような**よさ**を感じているのか**取材**をしてみて、**インスタント食品のよさ**を中心に伝えよう。

- 自分の考えをまとめる際には、再度、目的を確かめ、**目的に応じて**、**一番伝えたいこと**を中心に自分の考えをまとめることができるように指導することが大切です。

取材のときに**聞き出したいこと**は何でしたか。

他の人は、どのような**よさ**を感じているのかを聞き出したいと考えて取材をしました。

【取材して集めた情報】

4/19 (日)
○取材をした相手
一人ぐらしの森さん
○インスタント食品のよさ
一人分だけ作ることが
できるから作りすぎない
食材をおだにすること
が少ない
・長持ちするから
買い置きができる

4/18 (土)
○取材をした相手
スーパーマーケットの店長
○インスタント食品のよさ
・好みに合わせて選ぶ
ことができる
カレー、シチュー、パスタなど
フリーズドライ製法は
栄養価が保たれる
もとの味やかおりと
ほぼ変わらない

4/17 (金)
○取材をした相手
家の人
○インスタント食品のよさ
・軽くて持ち運びが楽
・いろいろな種類がある

集めた情報をもとに**自分の考え**をまとめましょう。**一番伝えたいことが伝わるように**、**情報同士を比べたり、分類したり、関連のあることをまとめたり**するとよいですね。

調査問題を活用した授業改善のための指導資料

誤答例とその原因

(誤答例1) けれども、プラスチックはほとんどが石油から作られているので、自然の中では分解されずに、ずっと残ってしまうのです。(56字)

- ◆ 何という本から言葉や文を取り上げて書いたのかが分かるように書いていない。
※ 「プラスチックのひみつ」という本に書かれた事実であるということを明確にして書くことができていない。

(誤答例2) けれども、「プラスチックのひみつ」という本によると、軽くてじょう夫で持ち運びがしやすいえ、さまざまな製品に加工することができるそうです。(69字)

- ◆ 【本の一部】からプラスチックがずっと残ってしまう理由について取り上げ書いていない。
※ つなぎ言葉「けれども」の意味を理解しておらず、文と文のつながりを考えて書くことができていない。

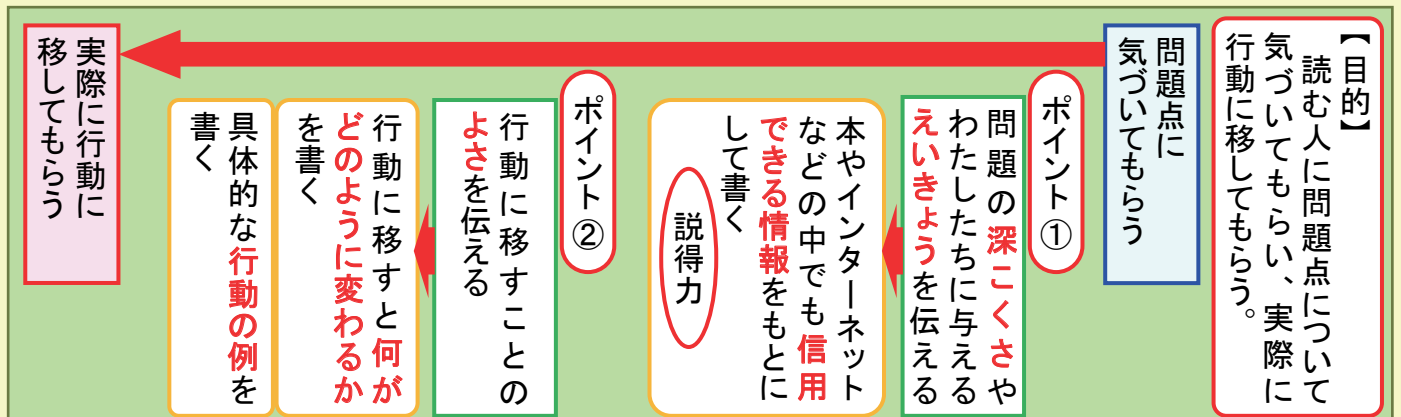
授業改善のポイント

- 本問では、生活の中の問題について調べ、提案する文章を書く場面が設定されています。提案する文章は、提案内容に基づいて実際に行動に移してもらうことが目的です。そのためには、読み手に提案を受け入れてもらうことができるように書く必要があります。



読み手に提案を受け入れてもらうことができるようにするには、どのように書くのでしょうか。

下の図のように、2つのポイントで書くことが大切だと思います。



- 本や資料の情報を活用して、自分の意見を書く場合、事実と意見を区別して書くことができるように指導することが大切です。



調べて分かったことと自分の考えを次の表に整理してみましょう。

<p>ト 三億一〇〇〇万 二〇一四年 一五〇〇万トン</p> <p>(かん境省HP) 世界のプラスチック 容器生産量</p>	<p>(新聞記事) ・海岸に打ち上げられたクジラの胃の中からベットのポトル発見 ・森のサルがプラスチックごみを食べてしまった</p>	<p>プラスチック製品 ↓ベットのポトル ストロー レジぶくろ…</p>	<p>分かったこと</p>
<p>とても増えている 驚いた</p>	<p>生き物に深く影響を与えていることに驚いた</p>	<p>プラスチック製品のおかげで便利な生活を送ることができ</p>	<p>考えたこと</p>

指導に当たっては、**話合いやお互いの文章を読み合う**などの活動を取り入れ、**自分たちが書いたものをもとに、気づかせる指導**を心がけましょう。

1の(5)

二つの長方形の辺の長さを比較し、長方形を縦に並べる個数と横に並べる個数の求め方と答えを言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題

＜関連する過去の問題＞

H28B③(2)：横39cm、横54cmの厚紙から、一辺9cmの正方形を24個切り取ることができるわけを書く問題

(5) わたるさんたちは、国立競技場の面積が校庭の面積の18個分であることがわかりました。



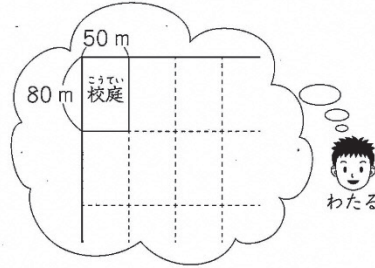
校庭の面積の18個分もあるなんて、国立競技場は広いですね。



校庭は、縦80m、横50mの長方形です。

この長方形18個を並べたとして考えてみても、広さがわかりやすくなりそうです。

ゆうなさんは、縦80m、横50mの長方形18個を同じ向きで並べたとして考えてみると、縦240m、横300mの長方形になることがわかりました。



縦に何個、横に何個並べたとして考えたのかな。

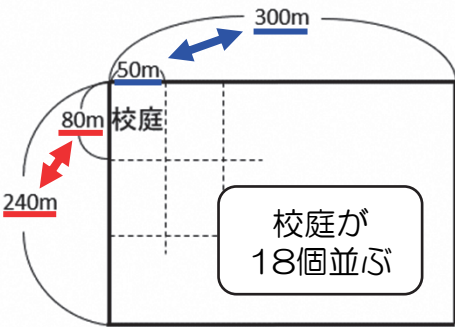
縦80m、横50mの長方形18個を、縦に何個、横に何個並べると、縦240m、横300mの長方形になりますか。
求め方を式や言葉を使って書きましょう。また、答えも書きましょう。

正答の導き方

〔1〕 国立競技場の縦と横に、校庭をそれぞれ何個並べることになるか調べる。

左の図から、2つの長方形（国立競技場と校庭）の辺の長さを比べて、いくつ分になるのかを考えて立式する。

- ・縦に並ぶ個数 $240 \div 80 = 3$
- ・横に並ぶ個数 $300 \div 50 = 6$



必要な知識・技能

- ・いくつ分を求めるときは、わり算。
- ・わり算では、わられる数とわる数に同じ数をかけても、わっても商は変わらない。

$$\begin{array}{r} 240 \div 80 \\ \downarrow \div 10 \quad \downarrow \div 10 \\ 24 \div 8 \end{array}$$

〔2〕 国立競技場の面積が、校庭の面積の18個分になっていることを確認する。

$$\cdot 3 \times 6 = 18$$

〔3〕 求め方を式と言葉をつかって説明する。

【用いる式や言葉】「 $240 \div 8$ で、縦に並ぶ個数を求めていること」

「 $300 \div 50$ で、横に並ぶ個数を求めていること」

(解答例)

【求め方】 縦に並べる個数は、 $240 \div 80 = 3$ で、3個です。

横に並べる個数は、 $300 \div 50 = 6$ で、6個です。

【答え】 縦3個、横6個

調査問題を活用した授業改善のための指導資料

誤答例とその原因

(誤答例1) $240 \times 300 = 72000$ 、 $72000 \div 18 = 4000$



- ◆ 前の問題 1 の (4) が面積を使う問題だったために、同じようにそれぞれの長方形の面積を使って求めようと考えたり、辺の長さに着目できずに求めようとしていたりしている。

(誤答例2) $80 \times 18 = 1440$ 、 $50 \times 18 = 900$



- ◆ 長方形を敷き詰めたイメージをもつことができなかつたために、縦や横に18個並べて、求めようとしている。

授業改善のポイント

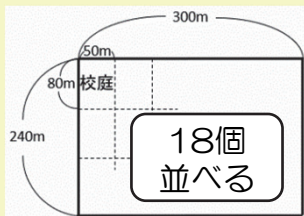
- 2つの問題を提示して、辺の長さに着目して解決する問題と面積に着目して解決する問題があることに気付かせたり、計算方法を考えさせたりすることが大切です。



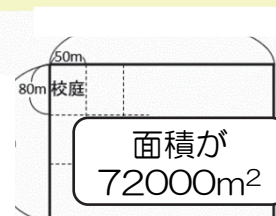
次の2つの問題は、辺の長さと面積のどちらを使うと、解決することができそうですか。また、何算で計算しますか。

【辺の長さに着目して、解決する問題】
縦80m、横50mの長方形18個を、縦に何個、横に何個並べると、縦240m、横300mの長方形になりますか。

【面積に着目して、解決する問題】
縦80m、横50mの長方形を何個並べると、面積が 72000m^2 の長方形になりますか。



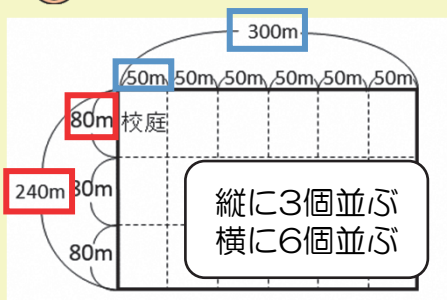
どちらもいくつ分を求めるので、わり算です。



- 交流場面では、問題解決に使った式のみを提示して、その意味を図と結び付けながら説明させるなど、式と図を関連付けて考えさせることが大切です。



「 $240 \div 80 = 3$ 」や、「 $300 \div 50 = 6$ 」は、何を求めるための式ですか。
図を使って説明してみましょう。



$240 \div 80$ は、図のように縦に長方形がいくつ並びかを求める式です。縦には3個並びます。



$300 \div 50$ は、図のように横に長方形がいくつ並びかを求める式です。横には6個並びます。





辺の長さを使ってわり算をすると、縦と横にいくつ並べたかを求めることができたね。また、図に表してみると、式の意味がよく分かるね。




3の(2)

1Lの大きさを表している図を基に、異分母の分数の加法における示された二つの図について解釈することができるかどうかをみる問題

(2) ようたさんたちは、 $\frac{1}{2}$ Lと $\frac{1}{4}$ Lを合わせると何Lになるのかを考えています。
式は、 $\frac{1}{2} + \frac{1}{4}$ になることがわかりました。

ようた  とすると、 $\frac{1}{2}$ Lは  と表すことができますね。

はなこ わたし 私も、 $\frac{1}{2}$ Lを  と表して考えようと思います。

ようたさんたちは、 $\frac{1}{2} + \frac{1}{4}$ について、図をもとに考えました。

ようた 答えは $\frac{3}{4}$ Lになりました。

はなこ $\frac{2}{6}$ Lではないのかな。

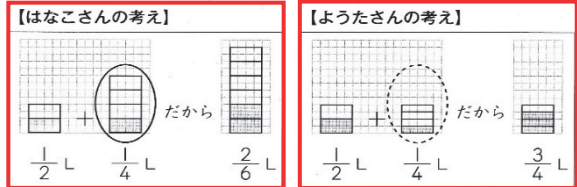
ようた $\frac{2}{6}$ Lだとすると、 $\frac{1}{2}$ Lと $\frac{1}{4}$ Lをたしているのに、 $\frac{1}{2}$ Lより小さくなっていますよ。


はなこ 本当ですね。 $\frac{1}{2}$ Lは1Lの半分だから、半分よりも小さい $\frac{2}{6}$ Lになるのは、おかしいですね。

<関連する過去の問題>

H22A 2 (2) : 2Lのジュースを3等分したときの1つ分の量を分数で表す問題

はなこさんは、【はなこさんの考え】と【ようたさんの考え】を見て、【はなこさんの考え】の中の○を、【ようたさんの考え】の中の○のように直す必要があることに気付きました。



1Lの大きさを  と表すとき、【はなこさんの考え】の中の○は、【ようたさんの考え】の中の○のように直さなければいけません。

【はなこさんの考え】の中の○を直さなければいけないわけを、次のようにまとめます。

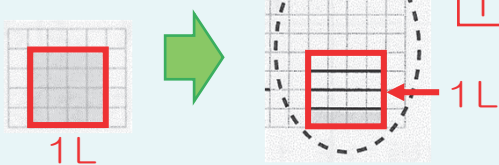
【ようたさんの考え】の中の○のように、
② Lを4等分しなければいけないのに、
【はなこさんの考え】の中の○は、
① Lを4等分しているからです。

上の文の②、①に入る数を書きましょう。

正答の導き方

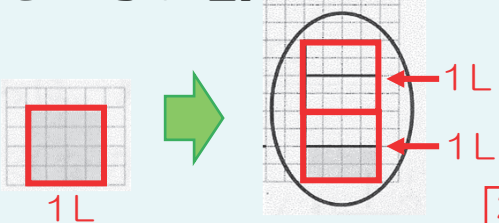
〔1〕 1Lの大きさを表している図をもとに、【ようたさんの考え】の図と【はなこさんの考え】の図が何を表しているか調べる。

【ようたさんの考えの図】



【ようたさんの考えの図】は
1Lを4等分した1つ分を表している。

【はなこさんの考えの図】



【はなこさんの考えの図】は
2Lを4等分した1つ分を表している。

必要な知識・技能

分数の意味

- もとになる大きさを○等分した1つ分をもとになる大きさの○分の1という。
- 1Lを□等分した1つ分を□分の1Lという

〔2〕 【ようたさん】と【はなこさん】の図が何を表しているのかを言葉でまとめる。

(解答)

【ようたさんの考え】の中の○のように、1Lを4等分しなければならないのに、
【はなこさんの考え】の中の○は、2Lを4等分している。

調査問題を活用した授業改善のための指導資料

誤答例とその原因

(誤答例1) 【ようたさんの考え】の中の○のように、1Lを4等分しなければならないのに、【はなこさんの考え】の中の○は、4Lを4等分している。

- ◆ 【はなこさんの考え】の図は4等分されていることから4Lを4等分していると解答している。


(誤答例2) 【ようたさんの考え】の中の○のように、 $\frac{1}{4}$ Lを4等分しなければならないのに、【はなこさんの考え】の中の○は、 $\frac{1}{4}$ Lを4等分している。

- ◆ 【ようたさんの考え】の図も【はなこさんの考え】の図も4等分しているので、 $\frac{1}{4}$ と解答している。

授業改善のポイント

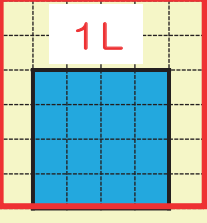
- もとになる大きさである1Lの大きさを表している図をもとに、図の表す大きさを考えさせることが大切です。

右の図の黄色の大きさは、何Lを表していますか。



もとになる1Lの大きさがわからないので、黄色の大きさが何Lを表しているのかわかりません。

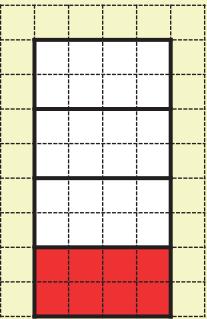
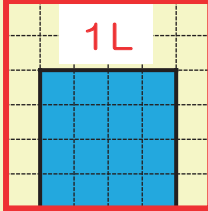
では、1Lが下の図の青色の大きさだったら、黄色の大きさが何Lかわかりますね。



黄色の大きさは、青色の1Lの大きさを4等分した1つ分になるので、 $\frac{1}{4}$ Lになります。

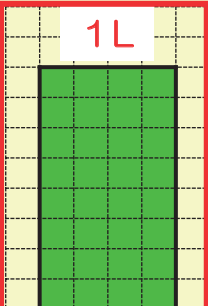
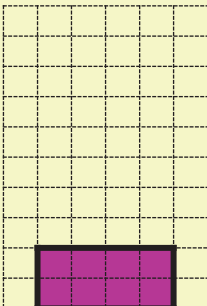
- $\frac{1}{4}$ Lを表していない図を提示して、なぜその図が $\frac{1}{4}$ Lではないのか、その理由を説明させます。また、もとになる1Lの大きさを表した図が違えば、同じ $\frac{1}{4}$ Lでも表す図が変わることをとらえさせることも大切です。

この図の赤色の大きさも4等分した1つ分を表した大きさですが、どうして $\frac{1}{4}$ Lではないのでしょうか。その理由を青色の1Lの図をもとに、説明しましょう。

赤色の大きさは、青色の1Lの図を4等分した1つ分ではなく、2Lを4等分した1つ分になるので、 $\frac{1}{4}$ Lとは言えません。

それでは、1Lの大きさを表した図が、左の緑色のとき、むらさき色の図は何Lを表しているでしょう。

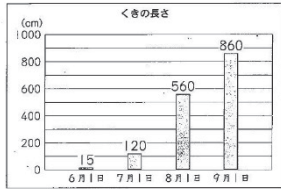



むらさき色の図は、緑色の1Lの図を4等分した1つ分になるので、 $\frac{1}{4}$ Lになります。同じ $\frac{1}{4}$ Lでも、もとになる1Lの大きさを表す図が違えば、図が変わるんだね。

4の(2)

示された棒グラフを基に、ほかの観点で表している棒グラフの長さに着目して判断し、判断の理由を言葉や式を用いて記述できるかどうかをみる問題

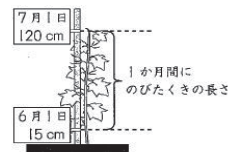
(2) たくまさんたちは、ヘチマの成長の様子について知りたいと思い、次のように、ヘチマのくきの長さをグラフに表し、話し合っています。



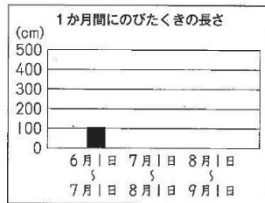
あやねさんは、上のグラフを見て、まず、6月1日から7月1日までにのびたくきの長さを、下のように求めました。

【あやねさんの考え】

6月1日から7月1日までにのびたくきの長さは、 $120 - 15 = 105$ で、105 cmです。



あやねさんは、右のように、1か月間にのびたくきの長さをグラフに表しています。

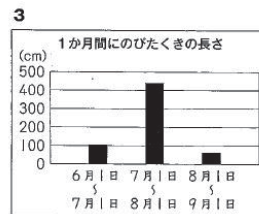
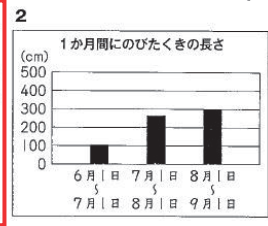
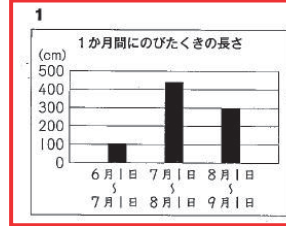


<関連する過去の問題>

H30B③ (1)：メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてどのように着目して書かれているのかを書く問題

【あやねさんの考え】をもとに、7月1日から8月1日までと、8月1日から9月1日までにのびたくきの長さも求めて、上のグラフを完成させると、どのようなグラフになりますか。

下の1から3までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを、言葉や式を使って書きましょう。



正答の導き方

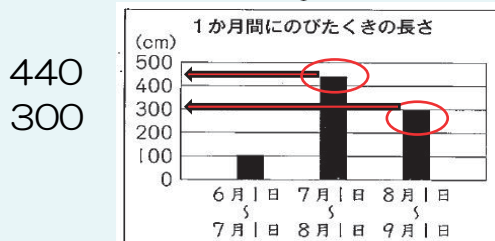
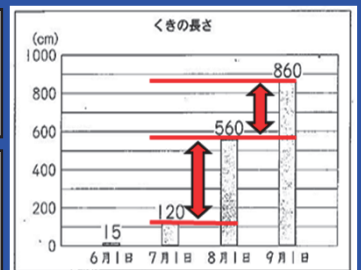
〔1〕 示された棒グラフを基に、1か月間にのびたくきの長さを求め、その長さで表している棒グラフを棒の長さに着目して、適切な棒グラフを判断する。

【7月1日から8月1日までにのびたくきの長さ】

$$\begin{array}{r} (8月1日) - (7月1日) \\ 560 - 120 = 440 \end{array}$$

【8月1日から9月1日までにのびたくきの長さ】

$$\begin{array}{r} (9月1日) - (8月1日) \\ 860 - 560 = 300 \end{array}$$



必要な知識・技能

- 棒グラフが示す数量を読み取る。
- 項目間の関係（大小や差）を読み取る。

※ 「1」のグラフが正答

〔2〕 〔1〕で求めた長さをもとに、判断した理由を言葉や式を用いて説明する。

【用いる言葉や式】「7月1日から8月1日までにのびたくきの長さ、 $560 - 120 = 440$ 」

「8月1日から9月1日までにのびたくきの長さ、 $860 - 560 = 300$ 」

(解答例) 7月1日から8月1日までにのびたくきの長さは、 $560 - 120 = 440$ で、440 cmです。8月1日から9月1日までにのびたくきの長さは、 $860 - 560 = 300$ で、300 cmです。だから、1のグラフになります。

調査問題を活用した授業改善のための指導資料

誤答例とその原因

(誤答例1) 【番号】1 【わけ】7月1日から8月1日までにのびたくきの長さは、 $560 - 120 = 440$ で440cm (8月1日から9月1日までにのびたくきの長さは $860 - 560 = 300$ で300cm)だから。

- ◆ 1か月間にのびたくきの長さを表しているグラフを判断することはできているが「7月にのびた長さ」と「8月にのびた長さ」の2つが書けず、どちらか一方のみを書いている。

(誤答例2) 【番号】2 【わけ】くきの長さが、だんだんのびているから。

(誤答例3) 【番号】3 【わけ】無解答

- ◆ 順に示された棒グラフの長さが長くなっていることから判断し、解決したいことと観点がずれ、棒グラフの特徴や傾向を読み取ることができなかつたり、判断の理由を言葉や式を用いて書くことができなかったりしている。

授業改善のポイント

- 棒グラフの棒やその長さの差の意味などを問い、棒グラフの縦軸や横軸が何を表しているのかを明らかにした上で、**棒グラフの特徴を捉えることができるようにする**ことが大切です。



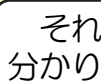
上の棒グラフと下の棒グラフの棒は、**それぞれ何を表していますか。**



上の棒グラフは、調べた日のくきの長さを表していて、下の棒グラフは、1か月間にのびたくきの長さを表しています。



上の棒グラフで、6月1日から7月1日までにのびたくきの長さは、どこを見れば分かりますか。



それは、6月1日と7月1日の間の差を見たら分かります。



では、1か月間にのびたくきの長さは、**どのように計算したら分かりますか。**

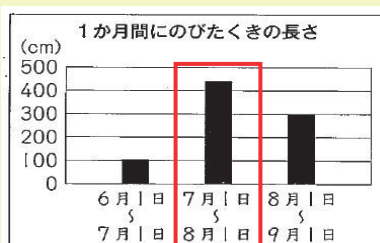
ひき算をすればわかります。120-15をしたら105cmのびていることがわかります。この長さが下の棒グラフの棒の長さになっています。



- 整理した棒グラフについて、それぞれの**棒を比較したり、顕著な部分に注目させたりする**などして、考察できるようにすることが大切です。



1か月間でのびたくきの長さについての棒グラフを完成させ、**新しい棒グラフについて、それぞれの棒の長さを比べるなどして、わかることを説明しましょう。**



7月1日から8月1日までにのびたくきの長さは、 $560 - 120 = 440$ で、440cmです。8月1日から9月1日までにのびたくきの長さは、 $860 - 560 = 300$ で、300cmです。だから、左のグラフになります。



左のグラフから、7月1日～8月1日の1か月間に最もくきがのびていることがわかります。



1 の 三

自分の考えが相手に分かりやすく伝わるように工夫して話すことができるかどうかをみる問題

三 この会の最後に、第一中学校の生徒がお礼の言葉を述べます。あなたなら、橋本さんに対してどのように述べますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。
なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 橋本さんへのお礼の言葉を実際に話すように書くこと。
条件2 橋本さんの伝えたいことを取り上げて、自分がそれをどのように受け止めたのかがわかるように具体的に書くこと。

場面③ ← 書道パフォーマンスの動画を最後まで視聴する。

いかがでしたか。今映し出されている作品の言葉は、メンバーで話し合い、新入生を花のつぼみにたとえ、笑顔の花が咲くことを願って選びました。それから、一つの作品として文字の調和をとることを大切にしました。メンバー五人が、それぞれ自分の書きたいように書いていては、よい作品にはなりません。そのため、中学校の授業で学んだ行書の特徴を確認しながら、何度も練習しました。

このように、私はメンバー全員で力を合わせて一つの作品を作り上げることに魅力を感じています。皆さんにも、書道パフォーマンスの魅力が伝わり、興味をもってもらえるとうれしく思います。

場面② ← 書道パフォーマンスの動画を途中まで視聴する。

ここで一度止めます。書道パフォーマンスでは、このように教室の半分くらいのとても大きな紙を使います。このとき私は、真ん中の文字を担当しました。私が使っている筆は、墨を吸うとかなりの重さになり、文字を書くのがとても大変です。他のメンバーも皆、それぞれ担当する文字に集中し、体全体を使って書いています。それでは、私たちの動きに注目して、作品が完成するまでの様子をご覧ください。

場面①

【橋本さんの話】

皆さん、こんにちは。青空高校の橋本です。今日は、私が所属する書道部で行っている書道パフォーマンスの魅力についてお話します。書道パフォーマンスでは、複数のメンバーで一つの作品を書き上げます。これが、書道パフォーマンスの魅力だと私は思います。早速ですが、四月の新入生歓迎会で私たちが行った書道パフォーマンスの様子をご覧ください。

1 第一中学校の三年生は、卒業生から学芸会を開いています。その中で、高校生の橋本さんが、書道パフォーマンスについて動画を用いて話しています。次の【橋本さんの話】、【場面②で映している動画】、【場面③で映している動画】を読んで、あとの問いに答えなさい。

正答の導き方

〔1〕問題の場面設定や条件を捉える。

- 条件1 橋本さんへのお礼の言葉を実際に話すように書く。
- 条件2 橋本さんの伝えたいことを取り上げて、自分がそれをどのように受け止めたのかがわかるように具体的に書く。

必要な知識・技能

- 話の構成を組み立てる
- 心ざわしい言葉遣いで話す

〔2〕【橋本さんの話】の中から、橋本さんの伝えたいことを捉え、自分がそれをどのように受け止めたのかが具体的に考える。

(例) 橋本さんの伝えたいこと

- メンバー全員で力を合わせて一つの作品を作り上げるのが書道パフォーマンスの魅力であること
- 何度も練習する大変さや、協力して作品を作り上げる楽しさ

(例) 橋本さんの話から考えたこと

- 私も力を合わせて行事などに取り組み、充実感を味わいたい
- 橋本さんのように仲間と一緒に部活動を頑張りたい

〔3〕2つの条件にしたがってお礼の言葉を書く。

(正答例)

- 橋本さん、本日はありがとうございました。橋本さんのお話を伺って、メンバー全員で力を合わせて一つの作品を作り上げる書道パフォーマンスの魅力がよく分かりました。私たちも、力を合わせて学校行事などに取り組み、充実感を味わいたいです。

調査問題を活用した授業改善のための指導資料

誤答例とその原因

(誤答例1) 橋本さん、本日はありがとうございました。橋本さんのお話を伺って、メンバー全員で力を合わせて一つの作品を作り上げる書道パフォーマンスの魅力が分かりました。

(誤答例2) お話を聞いて私も橋本さんのように頑張ろうと思いました。ありがとうございました。

- ◆ 橋本さんの伝えたいことを取り上げて表現したり、自分がどのように受け止めたのかがわかるように表現したりすることができていない。つまり、条件2の内容が不足している。

(誤答例3) 橋本さんの書道パフォーマンスの話はとても参考になった。行書で文字を書いていて、中学校の授業で学んだことが生かされていることが分かり、私も毎日の授業を大切に受けようと思った。

- ◆ ふさわしい言葉遣い(敬語・敬体)で表現できていない。つまり、条件1の内容が不足している。

授業改善のポイント

- 場面や状況に応じて話す場合、目的・相手意識を明確にもつことができるようにしたり、取り上げる事柄や自分の考えなどをどのように整理・配列するかを考えさせたりすることが大切です。

卒業生から学ぶ会の最後に橋本さんへのお礼の言葉を述べていたら、皆さんならどのような内容を、どのように構成して述べますか。



「感謝・お礼の挨拶」だけでなく、「橋本さんの伝えたいこと」を取り上げることで、より具体的になり、感謝の気持ちが伝わるのではないかな。



「橋本さんの伝えたいこと」を「どのように受け止めたのか」自分の考えを付け加えると、よりお礼の言葉としてふさわしくなると思うよ。

自分がどのように受け止めたのか

橋本さんの伝えたいこと

感謝・お礼の挨拶

【話す内容】

- 場面や状況に応じた言葉遣いで話すことができているか実際に聞き合い、意見交換をします。また、相手に分かりやすく伝えるように話し方の工夫について考えることも大切です。

構成メモを基に、お礼の言葉としてふさわしい言葉遣いで原稿を作成し、読み合ひましょう。



「聞いて」は、謙譲語の「伺って」に直すとよいね。



実際に話す際には、身振り手振りや声に抑揚を付けるなど話し方の工夫も大切だね。

橋本さん、本日はありがとうございました。橋本さんのお話を伺って、メンバー全員で力を合わせて一つの作品を作り上げる書道パフォーマンスの魅力がよく分かりました。私たちも、力を合わせて学校行事などに取り組み、充実感を味わいたいです。

【原稿】

○どのように受け止めたのか
・力を合わせて学校行事に取り組む↓充実感

・力強い声で

○橋本さんの伝えたいこと
・書道パフォーマンスの魅力(メンバー全員で力を合わせて作品を作り上げる)

・映し出されている画面を手で指しながら

○感謝・お礼の挨拶

・相手を見て会釈

内容

話し方等

【構成メモ】

3

自分の考えが読み手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えて書くことができるかどうかをみる問題

条件1 選んだ【言葉の候補】について、【辞典の記述】の中のどのような意味に着目したのかを、他の【言葉の候補】の意味との違いが分かるように書くこと。

条件2 選んだ【言葉の候補】を用いることで、どのような情景や心情を表現できると考えたのかを、条件1で取り上げた意味をもとに具体的に書くこと。

【辞典の記述】

ほろほろ ①涙や葉・花びらといった小さく軽いものが、音もなく続けてこぼれ落ちる様子。②山鳥・雉・鳩といった鳥の鳴く声。

ぼろぼろ ①大粒の涙をこぼす様子。かたまりや粒などが、続けてこぼれ落ちたり、崩れたりする様子。②物がひどく破れたり崩れたりしている様子。

ぼろぼろ ①涙や小さい粒状のものなどが、一粒ずつ続けてこぼれ落ちる様子。②ひとかたまりになつていたものが水分を失って、ばらばらになる様子。

【創作している俳句】

卒業に こぼれる涙 □と

【言葉の候補】

A ほろほろ
B ぼろぼろ
C ぼろぼろ

川口さんは、「卒業」をテーマに俳句を創作しています。次は、川口さんが【創作している俳句】とその□に入れる【言葉の候補】、川口さんが見ている【辞典の記述】です。あなたなら、【言葉の候補】の中のどの言葉を選びますか。AからCまでの中から一つ選び、【言葉の候補】の中のどの言葉を選んでもかまいません。（それを選んだ理由を、あとの条件1と条件2にしたがって書きなさい。）

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

正答の導き方

〔1〕問題の内容を捉える。

- ① 「卒業」をテーマにした俳句について、□に入る言葉を【辞典の記述】を参考にし、【言葉の候補】から選ぶ。
- ② その言葉を選んだ理由について、条件1と条件2を踏まえて考えをまとめる。
- ③ その言葉を選んだ理由について書く。

〔2〕資料の内容を捉える。

【言葉の候補】：涙が落ちる様子を表す3つの言葉

【辞典の記述】：【言葉の候補】に示されている言葉の意味

〔3〕理由となる情報を整理しながら、言葉を選び、読み手に効果的に伝わるように考えて書く。

（例）選んだ言葉「ほろほろ」

⇒理由：【辞典の記述】の「音もなく続けてこぼれ落ちる」という意味がイメージしていた「卒業式の厳かな雰囲気」、「思い出をかみしめている」という情景・心情にぴったりだった。

必要な知識・技能

- ・読み手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えて書く。
- ・複数の資料を目的に応じて読み、情報を整理する。

○ 条件1と条件2を踏まえて書く。

【辞典の記述】で着目した意味や他の言葉との違い、その言葉によって表現できる情景や心情をふまえて具体的に書く。

（解答例）私は「ほろほろ」の「小さく軽いものが、音もなく続けてこぼれ落ちる」という意味に着目しました。「ほろほろ」には「大粒の涙をこぼす」、「ぼろぼろ」には「一粒ずつ続けてこぼれ落ちる」などの意味がありますが、私は、卒業式の厳かな雰囲気の中で静かに涙を流す様子を表現したいので、「音もなく」という意味がある「ほろほろ」を選びました。

調査問題を活用した授業改善のための指導資料

誤答例とその原因

(誤答例1) 「音もなく続けてこぼれ落ちる」という意味に着目した。「ぼろぼろ」や「ぼろぼろ」には、「音もなく」という意味は示されていない。「ぼろぼろ」を使うことで、情景や心情がより伝わりやすくなると思った。

- ◆ 【言葉の候補】の意味に着目し、他の言葉との違いについて書くことができている。しかし、選んだ言葉によってどのような情景や心情を表現できると考えたか、ということについて書いていない。つまり、条件2の内容が不足している。

(誤答例2) 卒業式の最中に、大切な仲間たちと過ごした三年間の様々な出来事を思い出し、涙があふれ出てくる様子を表現するために、涙がこぼれるという意味がふくまれている「ぼろぼろ」を選びました。

- ◆ 【言葉の候補】を用いて表現できる情景や心情について具体的に書くことはできている。しかし、【辞典の記述】にある【言葉の候補】の共通した意味を取り上げているだけで、他のものとの違いが明らかになっていない。つまり、条件1の内容が不足している。

授業改善のポイント

- 本問では、「卒業」をテーマに俳句を創作する場面が設定され、俳句に用いる言葉を選んだ理由を書くことを求めています。文章を書く**目的や意図**をより意識し、**読み手に分かりやすく**書くように指導することが大切です。



【辞典の記述】から言葉を選び、「卒業」をテーマにした俳句を完成させよう。

ぼろぼろ	ぼろぼろ	ほろほろ	
小さい粒	大粒 かたまりや粒	小さく軽い	続けてこぼれ 落ちる涙の様子
		音もなく	音
しなやかな水分をう みながら なる様子	ひとかたまりの ものが水分をう みながら なる様子	鳥の鳴き声	その他の表現

選ぶ言葉によって、流れ落ちる涙のイメージに違いがありますね。



そうですね。卒業式の様子や涙の様子を、具体的にイメージすると言葉を選びやすくなりそうですね。



私は、厳かな雰囲気の中で、あふれる気持ちを抱えながら、声を立てずに静かに流す涙を想像しています。



そのイメージにふさわしいのは【辞典の記述】のどの言葉だと思いますか？



私は「ぼろぼろ」の「小さく軽いものが、音もなく続けてこぼれ落ちる」という意味に着目しました。「ぼろぼろ」には「大粒の涙」、「ぼろぼろ」には「小さい粒」という意味がありますが、私は卒業式の厳かな雰囲気の中で、静かに涙を流す様子を表現したいので「音もなく」という意味がある「ぼろぼろ」を選びました。



イメージしている情景にぴったりの言葉ですね！



他の言葉と比較をしたり、情景や心情などを詳しく説明したりすることで、他の人に分かりやすく伝わりますね。

6の(2)

事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる問題

(2) 二人は、7ページの菜月さんの求め方をもとに、1か月間で集まった紙パックの合計の重さが何gであっても、集まった紙パックの枚数を求められるようにしたいと思いました。そこで、菜月さんの求め方から、集まった紙パックの枚数と紙パックの合計の重さの関係を、次の式で表しました。

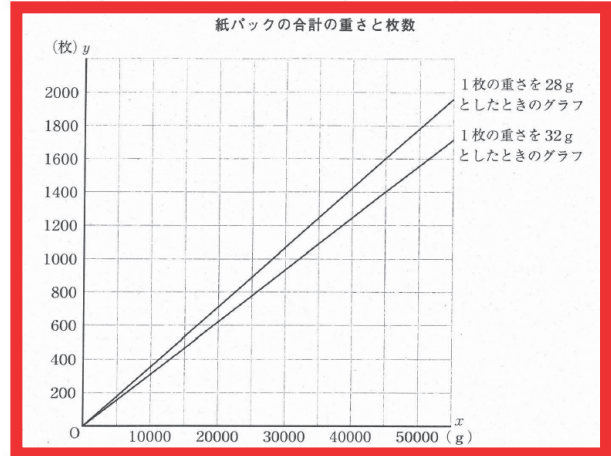
$$\left(\begin{array}{l} \text{紙パックの} \\ \text{枚数} \end{array} \right) = \left(\begin{array}{l} \text{紙パックの} \\ \text{合計の重さ} \end{array} \right) \div \left(\begin{array}{l} \text{紙パック} \\ \text{1枚の重さ} \end{array} \right)$$

また、二人は、紙パック1枚の重さに違いがあるのではないかと思いました。そこで、集まった紙パックの中から何枚か取り出してそれぞれの重さをはかってみたところ、紙パックによって、1枚の重さが異なることがわかりました。その中で、最も軽かった紙パックは28g、最も重かった紙パックは32gでした。二人は、紙パック1枚の重さを28gとしたとき、32gとしたときの紙パックの枚数について話し合っています。

大輝さん 「式を使えば、紙パックの合計の重さをもとに紙パックの枚数がそれぞれ求められるね。」
 菜月さん 「紙パック1枚の重さを28gとしたときと、32gとしたときでは、求められる紙パックの枚数に違いがあるのではないかな。」

<関連する過去の問題>

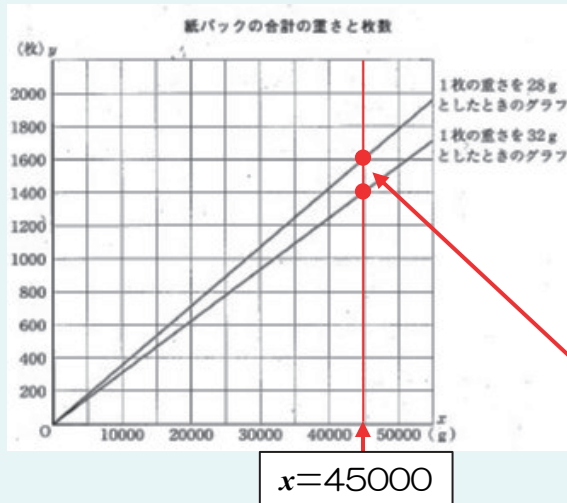
H30B 3 (3) : A駅からの道のりが6kmの地点において、列車Aが通ってから列車Bが通るまでの時間を、グラフから求める方法を説明する問題



1か月間で集まった紙パックの合計の重さを45000gとします。このとき、紙パックの枚数の違いがおよそ何枚になるかは、上のグラフから求めることができます。その方法を説明しなさい。ただし、実際に枚数の違いを求める必要はありません。

正答の導き方

〔1〕 紙パックの合計の重さと枚数の2つのグラフから、 $x=45000$ のときのそれぞれの y の値に着目する。



必要な知識・技能

- 比例の式は $y = ax$
- 比例のグラフは原点を通る直線
- 座標により平面上の点の位置が決まること
- 具体的な事象と結びつけて、座標をとらえること

※枚数を表しているのは縦軸だから、2つの●の座標の y 座標に着目して説明する。

〔2〕 〔1〕で着目した y の値をもとに、紙パックの枚数の違いを求める方法を説明する。

(解答例)

- 1枚の重さを28gとしたときのグラフと1枚の重さを32gとしたときの2つのグラフについて、 $x=45000$ のときの y のおよその値の差を求める。
- 1枚の重さを28gとしたときのグラフと1枚の重さを32gとしたときの2つのグラフについて、 x 座標が45000の2点間の y 軸方向の距離を読む。

調査問題を活用した授業改善のための指導資料

誤答例とその原因

(誤答例1) 2つのグラフが45000のときの値を求める。

- ◆ x 座標と y 座標の意味やグラフの読み方について理解していなかったり、その説明が不足したりしている。

(誤答例2) 1枚の重さを28gとしたときのグラフと1枚の重さと32gとしたときの2つのグラフを見ればわかる。

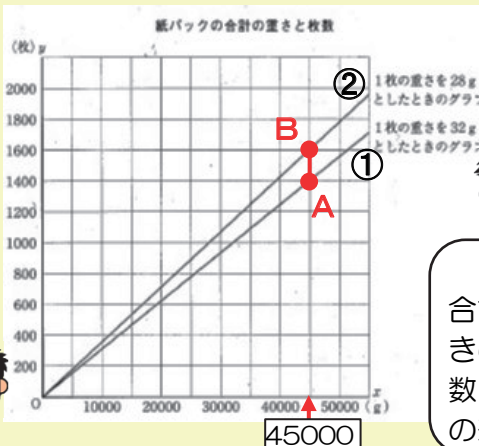
- ◆ 2つのグラフが何を表しているか理解できなかったり、説明の仕方を理解していなかったりする。

授業改善のポイント

- 具体的な事象の中にある2つの数量関係をグラフに表して、グラフが通る点の座標を読み取る活動を設定することが大切です。

①のグラフ上の点で、 x 座標が45000である点をAとします。点Aの y 座標は何を表しているでしょうか。

点Aの y 座標は、1枚32gの紙パックの合計の重さが45000gの時の紙パックの合計の枚数を表しています。

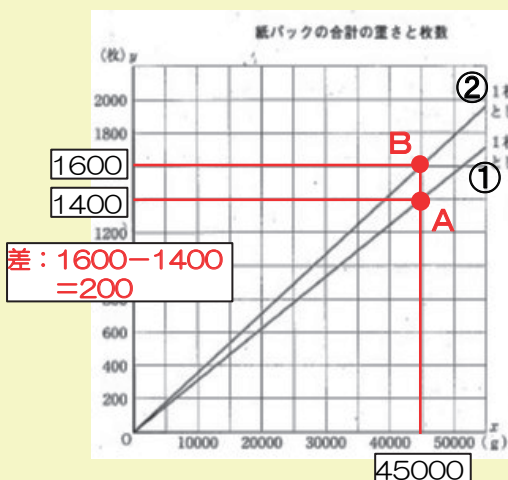


②のグラフ上の点で、 x 座標が45000である点をBとします。2点A、B間の距離は、何を表しているでしょうか。

2点A、B間の距離は、合計の重さが45000gのときの、28gの紙パックの枚数と32gの紙パックの枚数の差を表しています。

- 答えを求めさせるだけでなく、問題解決の方法をグラフや数などを用いて説明する活動を設定することが大切です。また、事象を発展的に考察する活動も大切です。

1か月で集まった紙パックの合計の重さが45000gのとき、紙パックの枚数の違いは、およそ何枚になるでしょうか。グラフから求める方法を説明してみましょう。



1枚の重さを28gとしたときのグラフと1枚の重さを32gとしたときの2つのグラフについて、 $x=45000$ のときの y のおよその値の差を求めるといいです。実際にグラフを読むと、差はおよそ200枚とわかります。

では、1か月で集まる紙パックの合計の重さが45000gのとき、1年間で枚数のちがいはどれくらいになるでしょうか。

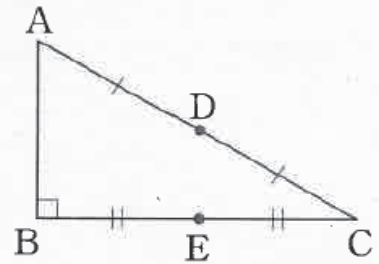
1年間では、1か月の12倍になるから、紙パックの枚数のちがいも12倍の2400になるのではないかな。

本当にそうなるのか式を使って調べてみようよ。

7の(3) 付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明することができるかどうかをみる問題

(3) 右の図5のように、12ページの図1の△ABCを、∠Bの大きさが90°である三角形に変え、点Eを辺BCの中点としたとき、△ABCからできる四角形ABEFがどんな四角形になるかを考えます。

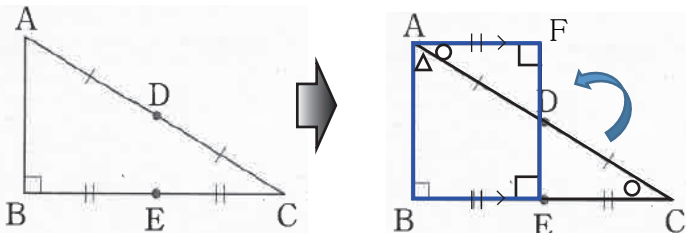
図5



このとき、四角形ABEFは平行四辺形の特別な形になります。△ABCにおいて、∠Bの大きさが90°で、点Eが辺BCの中点ならば、四角形ABEFはどんな四角形になりますか。「～ならば、……になる。」という形で書きなさい。

正答の導き方

〔1〕 四角形ABEFを作図し、前提と付加された条件をもとに四角形ABEFの特徴を見いだす。



必要な知識・技能

【平行四辺形の性質】

平行四辺形の2組の向かい合う角はそれぞれ等しい

【長方形の定義】

4つの角が等しい四角形を長方形という

右図から、四角形ABEFはAF//BE、AF=BEの平行四辺形である。

平行四辺形の2組の向かい合う角はそれぞれ等しく、∠B=90°だから、∠F=90° …①

また、三角形の内角の和が180°であることと、∠B=90°から、

$$\angle BAC + \angle BCA = 90^\circ \dots ②$$

△DEC≡△DFAで、合同な図形の対応する角が等しいから、∠DCE=∠DAF …③

$$\text{②、③より、} \angle BAF = \angle BAC + \angle DAF = \angle BAC + \angle BCA = 90^\circ \dots ④$$

平行四辺形の2組の向かい合う角は等しいから、∠BEF=∠BAF=90° …⑤

よって、**四角形ABEFの4つの角がすべて等しくなる。**

〔2〕 前提となる事柄と〔1〕で見いだした特徴を結論として、「○○ならば、◇◇になる」の形で説明する。

【前提】 △ABCにおいて、∠Bの大きさが90°、点Eが辺BCの中点

【結論】 四角形ABEFは長方形

(解答例) △ABCにおいて、∠Bの大きさが90°で、点Eが辺BCの中点ならば、四角形ABEFは**長方形**になる。

調査問題を活用した授業改善のための指導資料

誤答例とその原因

(誤答例1) 四角形ABEFは長方形になる。

- ◆ 成り立つと予想される事柄について、前提と結論の両方を数学的に表現する必要があること
の理解が不十分のため、結論のみを記述している。

(誤答例2) $\triangle ABC$ において、 $\angle B$ の大きさが 90° で、点Eを辺BCの中点ならば、四角形
ABEFは正方形(ひし形)になる。

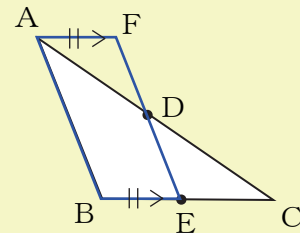
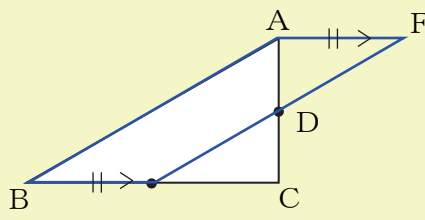
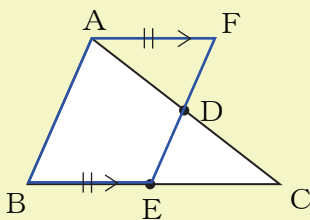
- ◆ 前提は正しく記述できているが、平行四辺形の辺や角にどのような条件が加わると正方形、
ひし形、長方形になるかという理解が不十分のため、与えられた条件の下で成り立つと予想さ
れる事柄を正しく見いだせていない。

授業改善のポイント

- 幾つかの具体例の共通点に着目させることで前提によって導かれる結論を予想させ、その
予想が正しいことを図形の性質などをもとに説明させることが大切です。



$\triangle ABC$ において、点Dを辺ACの中点、点Eを辺BCの中点としたとき、四角形ABEFは
どのような四角形になりますか。また、そのようにいえるのは、なぜですか。



平行四辺形になります。平行四辺形になるための条件「1組の向かい合う辺が
平行でその長さが等しい」が成り立つからです。



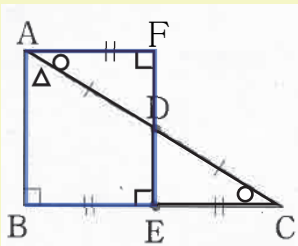
- 付加した条件の下で、新たに見いだした事柄がいつでも成り立つための根拠と結論を説明
させることが大切です。



$\triangle ABC$ を $\angle B$ の大きさが 90° になる三角形に変えたとき、四角形ABEFがどんな
四角形になるのかを「〇〇(前提)ならば、◇◇(結論)になる」の形で説明しま
しょう。また、それがいつでも成り立つことも説明しましょう。



$\angle B=90^\circ$ だと、 $\angle F$ も 90° になるので長方形になると思うよ。



そうだね。四角形ABEFが平行四辺形であることはわかって
いるから、2組の向かい合う角の大きさは等しいことになるの
で、 $\angle B=90^\circ$ ならば $\angle F$ も 90° になるね。



$\triangle DEC \equiv \triangle DFA$ であることと、三角形の内角の和が 180° で
あることから、 $\angle BAF$ と $\angle BEF$ も 90° になることがわかるね。

$\triangle ABC$ において、 $\angle B$ の大きさが 90° で、点DがACの中点、点Eが辺BCの中点な
らば、四角形ABEFは長方形になるといえます。



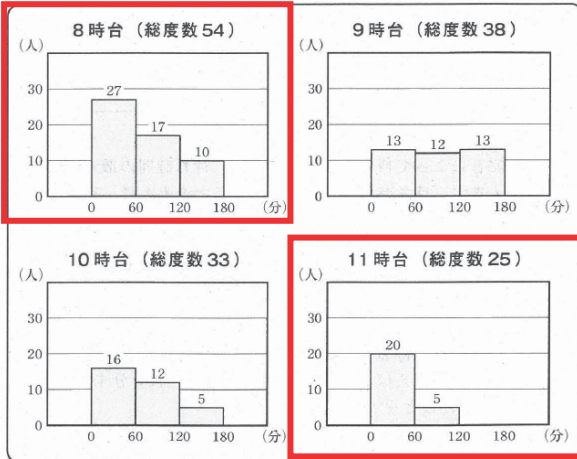
4つの辺の長さが等しいことまではいえないから、ひし形や正方形とはいえないね。

8の(3)

データの特徴を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題

(3) 二人は、待ち時間が短かった来院者は、どの時間帯に受付をしたのが気になりました。そこで、受付をした時間帯ごとの待ち時間を「60分未満」、「60分以上120分未満」、「120分以上180分未満」に分け、来院者数を次のようにまとめました。

調べたこと



上の調べたことから、例えば、9時台のヒストグラムでは、待ち時間が60分以上120分未満の来院者が12人いたことがわかります。

二人は、前ページの調べたことをもとに、待ち時間について話し合っています。

啓太さん「ヒストグラムの60分未満の階級の度数を見ると、8時台が27人で11時台が20人だね。だから、60分未満の来院者数は、8時台の方が11時台より多いといえるね。」

春花さん「でも、階級の度数で判断していいのかな。8時台と11時台の総度数を見ると、60分未満の来院者数は、8時台の方が11時台より多いとは言い切れないよ。」

調べたことの、8時台と11時台のヒストグラムを見ると、春花さんのように「60分未満の来院者数は、8時台の方が11時台より多いとは言い切れない」と主張することもできます。その理由を、相対度数を使って説明しなさい。

正答の導き方

〔1〕 8時台と11時台のそれぞれで、60分未満の来院者数の相対度数を求める。



上の表から、60分未満の来院者数の相対度数は、

• 8時台 $\frac{27}{54} = 0.5$ 11時台 $\frac{20}{25} = 0.8$

必要な知識・技能

相対度数とは、各階級の総度数に対する割合

$$\text{相対度数} = \frac{\text{その階級の度数}}{\text{総度数}}$$

〔2〕 〔1〕で求めた相対度数を比較して説明する。

説明すべき事柄「60分未満の来院者数は、8時台の方が11時台より多いとは言い切れない」

根拠 「相対度数は8時台が0.5、11時台が0.8であり、 $0.5 < 0.8$ である」

(解答例) 8時台の待ち時間が60分未満の相対度数は、0.5

11時台の待ち時間が60分未満の相対度数は、0.8

相対度数を比べると、 $0.5 < 0.8$ であるから、

60分未満の来院者数は、8時台の方が11時台より多いとは言い切れない。

調査問題を活用した授業改善のための指導資料

誤答例とその原因

(誤答例1) 8時台で待ち時間が60分未満の相対度数が0.27で、11時台で待ち時間が60分未満の相対度数が0.20だから。

(誤答例2) 8時台と11時台の総度数が違うから。

- ◆ 相対度数の意味を理解していなかったり、相対度数を正しく求めることができていなかったりしている。

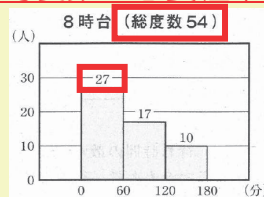
(誤答例3) 8時台で待ち時間が60分未満の相対度数が0.50だから。

- ◆ 2つの時間帯で待ち時間が60分未満の相対度数を比較して考えることができなかつたり、その説明が不足したりしている。

授業改善のポイント

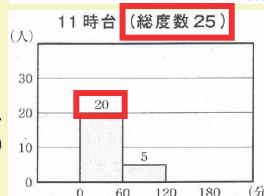
- 資料の総度数が異なる場合、相対度数を用いる必要がある理由を問うたり、相対度数を求める方法を説明させたりして、**相対度数の必要性や意味を考えさせる**ことが大切です。

右の図では、各階級の度数をそのまま比べてもあまり意味がないのはなぜですか。



では、相対度数の求め方はどうでしたか。

総度数が異なるからです。このようなときは、相対度数を使えばよいです。



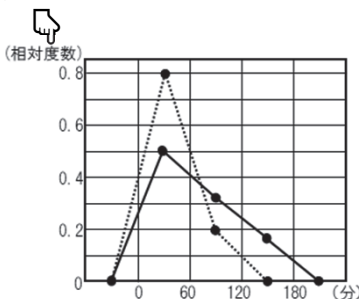
相対度数は次の式で求められます。

$$\frac{\text{その階級の度数}}{\text{総度数}}$$

- **説明すべき事柄とその際に使う根拠を明らかにして、判断の理由を説明**させます。また、2つの度数分布多角形を重ねたものをもとに、資料の分布を捉えさせることも大切です。

「60分未満の来院者数は、8時台の方が11時台より多いとは言い切れない。」ことを2つの相対度数を比べたことを根拠に、「・・・だから、〇〇である。」という形で説明しましょう。

＜度数分布多角形＞
(8時台 : ●—●、11時台 : ●.....●)
縦軸が相対度数



60分未満の相対度数は8時台が0.5、11時台が0.8。0.5<0.8だから、60分未満の来院者数は、8時台の方が11時台より多いとは言い切れません。

他の階級では、どんな違いがあるのかな。

ヒストグラムの他に相対度数の度数分布多角形もつくと、資料の分布の違いが分かりやすいよ。

度数分布多角形を見ると、60分以上の来院者数は、8時台の方が多いといえそうですね。次は、平日と休日とでどれくらい違うか調べてみたいね。

第3章 「未来への一歩」と「動画コンテンツ」を活用した 学力向上の取組

I 「未来への一歩」を活用した学力向上の取組

1 取組の背景とねらい

近年、「学力」と「非認知的能力（学ぶ意欲や挑戦心等）」との相関については、全国学力・学習状況調査結果等から明らかになっており、学力向上のためには、非認知的能力の育成は不可欠なものとなっている。

本県でも、学ぶ意欲や自尊感情等の向上を図るとともに、児童生徒の基礎学力の定着のために、「鍛ほめ福岡メソッド」の趣旨を踏まえた教育活動に取り組み、その充実に努めているところである。

そこで、研究協力対象校等において、算数・数学における学習到達度診断シート「未来への一歩」と動画コンテンツを活用し、「鍛ほめ福岡メソッド」の趣旨を踏まえた学力向上の取組を推進することで、本県すべての子供たちが「わかる・できる喜び」を味わい、「目標や困難に立ち向かう心」を育みながら学力の向上を図ることができるような教育的手法・モデルの開発を進めている。

2 研究協力対象校

- 「学ぶことに挑み続ける子どもを育む鍛ほめプロジェクト」研究協力校
- 「学力向上推進拠点校事業」拠点校
- 「学力向上推進強化市町村」推進校
- ※ その他参加希望校。

3 取組の概要

- (1) 「目標設定」「挑む活動（習熟に向けた『未来への一歩』と動画コンテンツの繰り返しの活用)」「振り返る活動」を位置付け、非認知的能力の向上による効果的な取組を計画し、実践する。
- (2) 「未来への一歩」に係る個人の学習到達度、目標、振り返り等を記入するための「ステップアップシート（義務教育課作成）」を活用する。
- (3) 取組の成果等を検証するために、取組の前後に、児童生徒に対して「定着状況診断テスト」「児童生徒質問紙調査」、学校に対して「学校質問紙調査」を実施し、変容を見取る。

4 「未来への一步」の活用方法

「未来への一步」は、算数「数と計算」、数学「数と式」の各単元の計算問題を難易度順に配列した学習到達度診断シートであり、以下のような流れで取組を進めることにより、児童生徒のつまずきの把握とともに、知識・技能の定着を図ることができる。

(1) 学習到達度を見取る。



「未来への一步」は、問題を難易度順に配列しているので、単元のどの段階（レベル）でつまずいているのかが把握できます。



【小1～中3までの全学年対応！】

<例：第4学年「未来への一步」>

<p>小学4年【算数】 学習到達度診断シート(4年) 問題 未来への一步 ()年()組()番 名前()</p>	<p>学習到達度診断シート ～未来への一步～ 4年 組 番 名前 1 1けたでわる整数のわり算の筆算の計算をしましょう。あまりがある場合は、あまりも求めましょう。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>問題</th> <th>答え</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>(1)</td><td>$360 \div 60$</td><td></td></tr> <tr><td>(2)</td><td>$6 \overline{)84}$</td><td></td></tr> <tr><td>(3)</td><td>$5 \overline{)79}$</td><td></td></tr> <tr><td>(4)</td><td>$3 \overline{)93}$</td><td></td></tr> <tr><td>(5)</td><td>$4 \overline{)83}$</td><td></td></tr> <tr><td>(6)</td><td>$6 \overline{)851}$</td><td></td></tr> </tbody> </table>	番号	問題	答え	(1)	$360 \div 60$		(2)	$6 \overline{)84}$		(3)	$5 \overline{)79}$		(4)	$3 \overline{)93}$		(5)	$4 \overline{)83}$		(6)	$6 \overline{)851}$		<p>学習到達度診断シート ～未来への一步～ 4年 組 番 名前 1 1けたでわる整数のわり算の筆算の計算をしましょう。あまりがある場合は、あまりも求めましょう。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>問題</th> <th>答え</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>(1)</td><td>$360 \div 60$</td><td>6</td></tr> <tr><td>(2)</td><td>$6 \overline{)84}$</td><td>14</td></tr> <tr><td>(3)</td><td>$5 \overline{)79}$</td><td>15 あまり4</td></tr> <tr><td>(4)</td><td>$3 \overline{)93}$</td><td>31</td></tr> <tr><td>(5)</td><td>$4 \overline{)83}$</td><td>20 あまり3</td></tr> <tr><td>(6)</td><td>$6 \overline{)851}$</td><td>108 あまり3</td></tr> </tbody> </table>	番号	問題	答え	(1)	$360 \div 60$	6	(2)	$6 \overline{)84}$	14	(3)	$5 \overline{)79}$	15 あまり4	(4)	$3 \overline{)93}$	31	(5)	$4 \overline{)83}$	20 あまり3	(6)	$6 \overline{)851}$	108 あまり3	<p>算数「数と計算」 単元「1けたでわる整数のわり算の筆算」(第4学年) 段階 問題 特徴 解決の手順</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>$360 \div 60$</td> <td>(百の位)÷(十の位)の筆算</td> <td>① 360は、10が36こ、60は、10が6ことみて、36÷6で計算する。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>$6 \overline{)84}$</td> <td>(2けた)÷(1けた)の筆算</td> <td>① 十の位に2を置いて、6×2から8をひいて、6に2をかける。② 2×4で、8をたてて6に2をかける。③ 2×4から8をひいて0。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>$5 \overline{)79}$</td> <td>(2けた)÷(1けた)の筆算</td> <td>① 十の位に1を置いて、5×1から5をひいて、2に9をたてて29になる。② 2×5で、10をたてて29に10をかける。③ 2×5から10をひいて19。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>$3 \overline{)93}$</td> <td>(2けた)÷(1けた)の筆算</td> <td>① 十の位に3を置いて、3×3から9をひいて、0になる。② 3×3で、9をたてて30になる。③ 3×3で、9をたてて30に9をかける。④ 3×3から9をひいて0。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>$4 \overline{)83}$</td> <td>(2けた)÷(1けた)の筆算</td> <td>① 十の位に2を置いて、4×2から8をひいて、3になる。② 3×4で、12をたてて30になる。③ 3×4で、12をたてて30に12をかける。④ 3×4から12をひいて18。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>$6 \overline{)851}$</td> <td>(3けた)÷(1けた)の筆算</td> <td>① 十の位に1を置いて、6×1から6をひいて、2になる。② 2×6で、12をたてて20になる。③ 2×6で、12をたてて20に12をかける。④ 2×6から12をひいて8。</td> </tr> </tbody> </table>	1	$360 \div 60$	(百の位)÷(十の位)の筆算	① 360は、10が36こ、60は、10が6ことみて、36÷6で計算する。	2	$6 \overline{)84}$	(2けた)÷(1けた)の筆算	① 十の位に2を置いて、6×2から8をひいて、6に2をかける。② 2×4で、8をたてて6に2をかける。③ 2×4から8をひいて0。	3	$5 \overline{)79}$	(2けた)÷(1けた)の筆算	① 十の位に1を置いて、5×1から5をひいて、2に9をたてて29になる。② 2×5で、10をたてて29に10をかける。③ 2×5から10をひいて19。	4	$3 \overline{)93}$	(2けた)÷(1けた)の筆算	① 十の位に3を置いて、3×3から9をひいて、0になる。② 3×3で、9をたてて30になる。③ 3×3で、9をたてて30に9をかける。④ 3×3から9をひいて0。	5	$4 \overline{)83}$	(2けた)÷(1けた)の筆算	① 十の位に2を置いて、4×2から8をひいて、3になる。② 3×4で、12をたてて30になる。③ 3×4で、12をたてて30に12をかける。④ 3×4から12をひいて18。	6	$6 \overline{)851}$	(3けた)÷(1けた)の筆算	① 十の位に1を置いて、6×1から6をひいて、2になる。② 2×6で、12をたてて20になる。③ 2×6で、12をたてて20に12をかける。④ 2×6から12をひいて8。
番号	問題	答え																																																																			
(1)	$360 \div 60$																																																																				
(2)	$6 \overline{)84}$																																																																				
(3)	$5 \overline{)79}$																																																																				
(4)	$3 \overline{)93}$																																																																				
(5)	$4 \overline{)83}$																																																																				
(6)	$6 \overline{)851}$																																																																				
番号	問題	答え																																																																			
(1)	$360 \div 60$	6																																																																			
(2)	$6 \overline{)84}$	14																																																																			
(3)	$5 \overline{)79}$	15 あまり4																																																																			
(4)	$3 \overline{)93}$	31																																																																			
(5)	$4 \overline{)83}$	20 あまり3																																																																			
(6)	$6 \overline{)851}$	108 あまり3																																																																			
1	$360 \div 60$	(百の位)÷(十の位)の筆算	① 360は、10が36こ、60は、10が6ことみて、36÷6で計算する。																																																																		
2	$6 \overline{)84}$	(2けた)÷(1けた)の筆算	① 十の位に2を置いて、6×2から8をひいて、6に2をかける。② 2×4で、8をたてて6に2をかける。③ 2×4から8をひいて0。																																																																		
3	$5 \overline{)79}$	(2けた)÷(1けた)の筆算	① 十の位に1を置いて、5×1から5をひいて、2に9をたてて29になる。② 2×5で、10をたてて29に10をかける。③ 2×5から10をひいて19。																																																																		
4	$3 \overline{)93}$	(2けた)÷(1けた)の筆算	① 十の位に3を置いて、3×3から9をひいて、0になる。② 3×3で、9をたてて30になる。③ 3×3で、9をたてて30に9をかける。④ 3×3から9をひいて0。																																																																		
5	$4 \overline{)83}$	(2けた)÷(1けた)の筆算	① 十の位に2を置いて、4×2から8をひいて、3になる。② 3×4で、12をたてて30になる。③ 3×4で、12をたてて30に12をかける。④ 3×4から12をひいて18。																																																																		
6	$6 \overline{)851}$	(3けた)÷(1けた)の筆算	① 十の位に1を置いて、6×1から6をひいて、2になる。② 2×6で、12をたてて20になる。③ 2×6で、12をたてて20に12をかける。④ 2×6から12をひいて8。																																																																		
【表紙】	【問題】	【解答】	【解決の手順】																																																																		

(2) 理解が不十分な点を中心に指導する。



つまずきの段階に応じた習熟度別授業や個別指導等を行って、学習内容の定着を図りましょう。

(2)
$$\begin{array}{r} 28 \\ + 14 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 28 \\ + 14 \\ \hline 92 \end{array}$$

2
$$\begin{array}{r} 28 \\ + 14 \\ \hline \end{array}$$

2けた+2けたのたし算のひっ算 ※一の位に繰り上がりあり

- ① 一の位は $8 + 4 = 12$ 。十の位に1繰り上げる。
- ② 十の位は、 $2 + 1 = 3$ 。繰り上げ1と合わせて、 $3 + 1 = 4$ 。

全ての問題に「解決の手順」を示しています！



間違えた問題は「解決の手順」を見ながら自分で解き直してみましょう。



「解決の手順」を見ると、繰り上がりがあるひっ算の解き方がわかったぞ！

(3) 「未来への一步（その2・Vol12）」を使って、知識・技能の定着を図る。



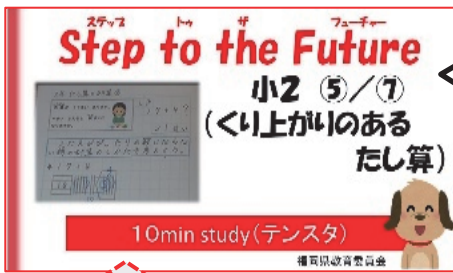
「未来への一步（その2・vol2）」を「朝や帰りの活動」や「家庭学習」等で活用して、さらに児童生徒の知識・技能の定着を図りましょう。



※「未来への一步（その2・vol2）」の問題は、それぞれ「未来への一步」と難易度は同じです。取り組み当初と比較することで、児童生徒の定着度を把握することができます。

(4) 「動画コンテンツ」も併せて活用する。

「動画コンテンツ」を活用すると、さらに充実した学びなおしを図ることができます。



1 単位時間の学習内容を 10 分程度で、効率よく理解させることができるため、知識・技能の定着を図る時間を確保することも期待できます。
また、教師が事前に視聴しておくことで、自身の教材研究としての活用も可能です！

小学校は約90本、中学校は約100本の動画を掲載！

外国語(中1～中3)の動画コンテンツも充実しています！



YouTube

検索

福岡県学習支援動画チャンネル

【参考①：「未来への一步」の単元の節目での活用】

未来への一步を単元の節目で活用する

「未来への一步」を単元の節目<単元前・中・末>に実施、分析し、結果に応じた指導を行う例

実施

<単元前>

レディネス評価
として活用

- ・前の単元までの問題
- ・前の学年までの問題

<単元中>

(発展問題に入る前)

形成的評価
として活用

- ・本単元の問題

<単元末>

総括的評価
として活用

- ・本単元の問題

分析

診断結果一覧表を使って分析
※○は正答、×は誤答した問題

		(問題番号)				
		①	②	③	④	⑤
(児童生徒)	A児	○	○	○	○	○
	B児	×	×	×	×	×
	C児	×	×	×	×	×
	D児	○	○	○	○	○
	E児	○	○	○	○	○

理解度が児童生徒によって
偏りがある(二極化)

		(問題番号)				
		①	②	③	④	⑤
(児童生徒)	A児	○	○	×	×	○
	B児	○	○	×	×	○
	C児	○	○	×	×	○
	D児	○	○	×	×	○
	E児	○	○	×	×	○

どの児童生徒も
ある特定の問いに課題がある

		(問題番号)				
		①	②	③	④	⑤
(児童生徒)	A児	×	○	○	○	○
	B児	○	×	○	○	○
	C児	○	○	×	○	○
	D児	○	○	○	×	○
	E児	○	○	○	○	×

各児童生徒に
個別の課題がある

指導

習熟度別
少人数指導

動画コンテンツの活用

前の単元の内容を
振り返る時間を
位置付けて視聴し
復習する

学習内容の
重点化

動画コンテンツの活用

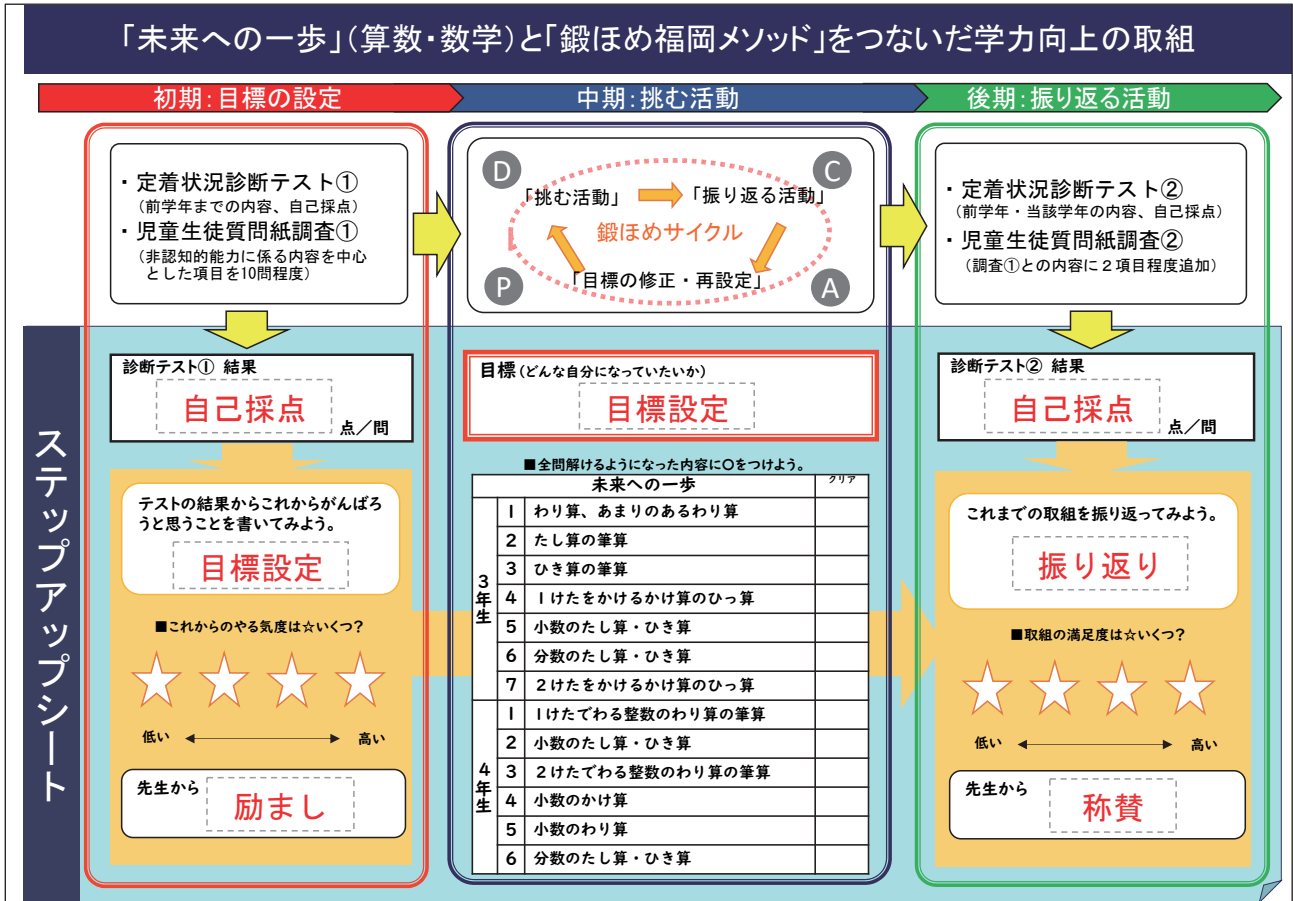
つまづいた問題に関する
動画を再度視聴して
学び直す

個別の課題に
応じた補充学習

動画コンテンツの活用

個別端末等を活用して
理解不十分な問題を
何度も繰り返し視聴する

【参考②：取組の進め方（例）】



【参考③：ステップアップシート（例）】

未来への一步【小4】

ステップアップシート

記入の仕方

- 診断テスト①の結果から、自分の目標を決めよう。
- シートがクリアできたら表に○を記入しよう。
- 最後に診断テスト②を受けた結果から、全体の振り返りをしよう。

年 組 番

名前

診断テスト① 結果

点/問

目標(どんな自分になっていたいか)

診断テスト② 結果

点/問

テストの結果からこれからがんばろうと思うことを書いてみよう。

■ これからのやる気度は☆いくつ?

★ ★ ★ ★

低い ← → 高い

先生から

未来への一步

未来への一步		クリア	
3	1	わり算、あまりのあるわり算	
	2	たし算の筆算	
	3	ひき算の筆算	
	4	1けたをかけるかけ算のひっ算	
	5	小数のたし算・ひき算	
	6	分数のたし算・ひき算	
	7	2けたをかけるかけ算のひっ算	
4	1	1けたでわる整数のわり算の筆算	
	2	小数のたし算・ひき算	
	3	2けたでわる整数のわり算の筆算	
	4	小数のかけ算	
	5	小数のわり算	
	6	分数のたし算・ひき算	

これまでの取組を振り返ってみよう。

■ 取組の満足度は☆いくつ?

★ ★ ★ ★

低い ← → 高い

先生から

■ クリアできたら○をつけよう!

5 「未来への一步」の取組における調査結果（6月実施）分析結果

研究協力対象校では、取組の成果等を検証するために、取組の前後に、児童生徒に対して「定着状況診断テスト」「児童生徒質問紙調査」、学校に対して「学校質問紙調査」を実施している（調査①6月、調査②12月実施）。

定着状況診断テスト①と児童生徒質問紙調査①を関連させて分析した結果、下表の4項目で望ましい回答をしている場合、定着状況診断テストの正答数が多くなる傾向が見られた。

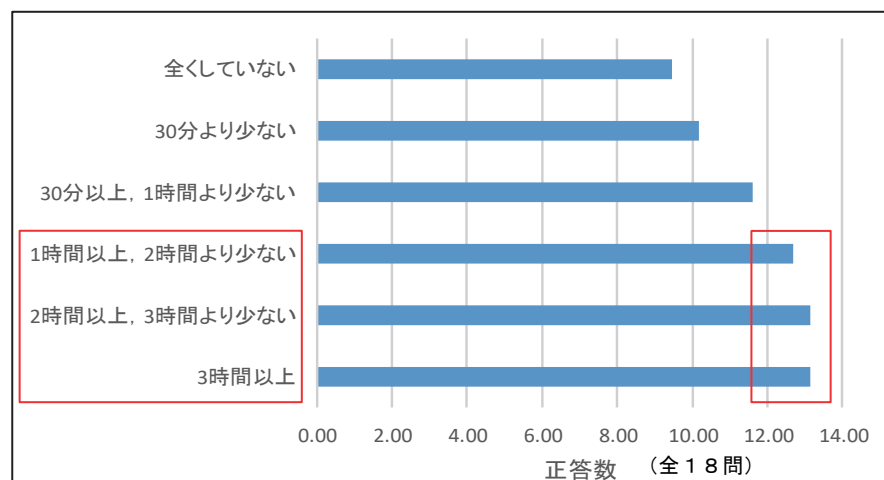
番号	質問項目
問 2	目標を達成できるようにねばり強く取り組んだことがある。
問 5	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う。
問 1 1	算数・数学を通して勉強のしかたを身につけるために勉強している。
問 1 6	学校の授業時間以外に普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。 （学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間を含む）

この4項目に着目した分析により、次の2点「(1) 学習時間（1時間程度）の確保」「(2) 非認知的能力の向上」が学力向上に重要であることが改めて明らかになった。

(1) 学習時間（1時間程度）の確保

学習時間（児童生徒質問紙 問 16）と、定着状況診断テストの正答数との関係（**図 1** 参照）を分析したところ、どの学年も、1時間以上の学習時間の確保が必要といえる。

また、どの学年も、1時間を超えた場合、学習時間による正答数の差は顕著ではない。1時間程度の学習時間を確保するとともに、その内容、質も大切になることがうかがえる。



【 図 1 学習時間と正答数の関係（例：小学校6年生）】

(2) 非認知的能力の向上

問2・5・11は、非認知的能力に関わる項目である。この3つの項目と問16の学習時間に関わる項目の結果に着目したところ、次のような傾向を示す、4つのグループに分けることができた。

グループ	1	2	3	4
学習時間	◎	○	○	▲
非認知的能力	◎	◎	△	△

■ グループ1：学習時間は十分確保されており、非認知的能力で肯定的な回答

■ グループ2：1時間程度の学習時間は確保できているがグループ1よりも短く、非認知的能力で肯定的な回答

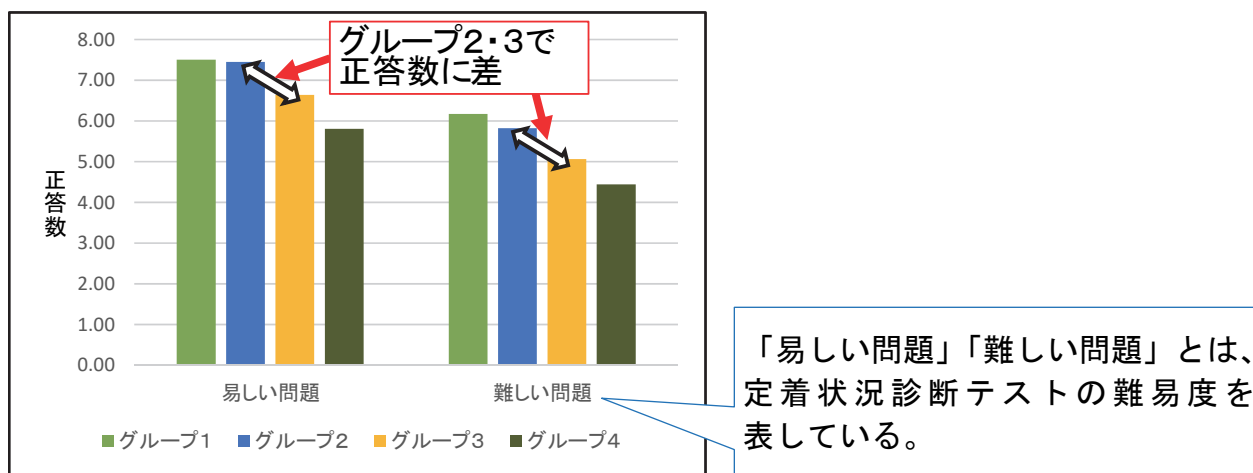
■ グループ3：学習時間はグループ2と同程度であるが、非認知的能力での肯定的な回答が少ない

■ グループ4：1時間程度の学習時間が確保されておらず、非認知的能力での肯定的な回答が少ない

上記の4グループについて、定着状況診断テストの正答数との関係（図2参照）について分析した。

すると、グループ2・3は、学習時間については同程度であるにもかかわらず、グループ2（非認知的能力◎）のほうが正答数が多くなっている（図2⇔）。

学習時間の確保とあわせて、非認知的能力を高める必要性がうかがえる。



【図2 4つのグループの正答数（例：小学校6年生）】

【まとめ】

今回、どの学年も40%程度の児童生徒がグループ3（非認知的能力（△））に分類された。1時間程度の学習時間を確保した上で、非認知的能力についての自己評価が低い児童生徒の非認知的能力を高め、つまずきのある内容の定着を図る取組を進める必要があると考えられる。

集計結果をもとに、該当項目の児童生徒の状況を確認し、今後の取組を充実させる必要がある。

※ 集計・分析：福岡教育大学 教育学部 教育心理ユニット 教授 生田 淳一 氏

Ⅱ 「未来への一步」を活用した学力向上の取組事例

【事例1】あ市立あ小学校（北筑後地区）

1 具体的な取組内容

○ 「未来への一步」を用いた学びタイム

毎週金曜日の朝 10 分の「学びタイム」で、4～6 年生で活用している。5 年生では、3～5 年生の問題を用い、基礎学力の向上とともに自尊感情の高まりをねらいとして取組を進めている。

2 取組のポイント

○ 家庭と連携した評価・賞賛

年度始めに、学校通信にて各家庭に「家庭学習・自主学習習慣育成プロジェクト」への理解と協力を求めることで、結果ではなく過程（子供の取り組む姿）を評価することの価値を共有した。

3 取組の効果

家庭学習の提出率が上昇し、自主学習の質の向上が見られた。「未来への一步」で下学年の問題に取り組ませたことは、学力CD層の児童の自信と学ぶ意欲の向上につながった。昨年度のSRT調査と比較すると「学ぶ意欲」（47pt→54pt）「自尊感情」（47pt→50p）の項目に伸びが見られた。

【事例2】い町立い小学校（筑豊地区）

1 具体的な取組内容

○ つまづきの把握

定着状況診断テストの結果から、多くの学年で、手続きが複雑な計算について、途中であきらめてしまう傾向が顕著であった。また、学習についての質問紙から、「目標を達成できるようにねばり強く取り組んだ」経験が乏しいことが明らかになった。これらの状況は、設定した目標を達成しようとする問題意識が希薄であることに起因していると分析した。

2 取組のポイント

○ 目標設定の工夫

児童の問題意識を喚起し、やや複雑な計算にもあきらめずに取り組むことができるようにするために、「未来への一步」を活用した計算コンクールを計画した。取組の中では、「鍛ほめ福岡メソッド」を活用し、切実感のある目標を設定することができるように、個人目標の平均値を学級の目標値として設定した。また、目標の達成状況については、全校放送で評価する。

3 取組の効果

切実感のある目標設定により、最後まであきらめずに問題を解こうとする姿が見られるようになってきた。また、共通の教材として「未来への一步」を位置付けたことにより、学力向上の組織的な取組の推進につながった。

【事例3】う市立う中学校（南筑後地区）

1 具体的な取組内容

○ 学習コンクールによる基礎・基本の定着

「鍛ほめ福岡メソッド」の考え方や手法を取り入れて、小テストを出題範囲とした学習コンクールを定期考査前に行っている。「未来への一步」から、つまづきやすい問題を出題し、コンクール週間を設けて、クラスマッチ形式で基礎・基本が定着するよう「学習コンクール」を行った。

2 取組のポイント

○ 学習に向かう動機付け

朝の学習の時間を活用し、年5回「学習コンクール」を意図的・計画的に行っている。特に実施後にクラスマッチ形式で優勝クラスを表彰したり、満点者を公表したりするなど、生徒の頑張りを「見える化」している。

3 取組の効果

単元のどの内容が十分身に付いていないのか、つまづきを詳細に把握することができた。「未来への一步」を繰り返し活用し、挑戦させることで「わかる」「できる」喜びにつながった。

Ⅲ 学習支援用動画コンテンツ「Step to the Future」

1 取組の背景とねらい

福岡県教育委員会では、新型コロナウイルス感染症対策による小・中学校の臨時休業の長期化を受けて、各家庭等での学習を支援するため、標記動画コンテンツを作成し、配信した。

本動画は、小・中学校の全学年に対応しており、「学習到達度診断シート～未来への一歩～」と併せて活用することで、児童生徒の家庭学習等の充実と教育活動再開後の学習指導の充実を図ることができるものとなっている。

現在においても配信中であり、家庭学習の充実や学習指導の充実への活用だけでなく、各指導内容における具体的な指導・支援の方法等の参考となるものでもあり、教材研究の参考としてや若年教員等の研修資料としても活用することができる。

2 内容等

〔算数・数学〕

「Step to the Future～10分の学び（テスタ）～」(算数・数学編)

- 対象学年：小学校第1学年～中学校第3学年
- 内 容：算数科と数学科において、各学年が年度当初に学習する1単元分

〔中学校 外国語〕

「Step to the Future～Mentai English Fukuoka～」(中学校 外国語編)

- 対象学年：中学校第1学年～中学校第3学年
- 内 容：中学校 外国語における主な言語材料を取り扱った言語活動

※ 動画1本分は、1回の授業内容を10分程度に凝縮している。

3 動画コンテンツの活用方法例

【例1：授業の導入や予習として、本時の動画を視聴し、課題意識を明確にする】



児童生徒が動画を視聴し、教科書を見て「よくわからないこと」に印をつけたり、ノートにメモを取ったりした内容を中心に指導しましょう。



動画は、1単位時間の授業で学習する内容を10分程度にまとめているため、効率的に学習内容を理解させることができます。指導後は、多くの類題に取り組みせ、知識・技能の定着を図る時間を確保することも期待できます。



ポイント

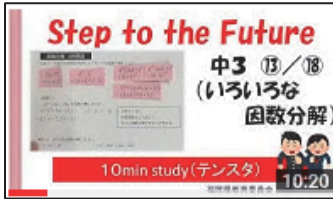
教師も事前に視聴して、児童生徒がつまずきやすい箇所を想定し、指導に生かすことが大切です。

オンラインの環境が整っている場合は、家庭で事前に視聴させることも考えられます。

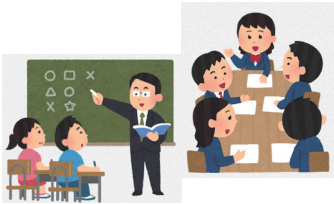
【例2：習熟度別少人数授業において、つまずきの多い学習内容を重点的に学び直す】



児童生徒のつまずきを把握し、その学習内容について配当時間を増加させるなどして、重点的な指導を行いましょよう。



既習の学習内容でつまずいている児童生徒が多いことが明らかな場合は、つまずきに該当する動画を再度視聴させることで、学び直しを図ることができます。



ポイント

問題が提示された場面で動画を一旦止めて、児童生徒に考えさせるなど、主体的に学べるようにすることが大切です。

【例3：補充学習等において、個のつまずきに応じて、知識・技能を定着する】



児童生徒が個人で視聴できる環境が整っている場合には、個のつまずきに
 応じた動画を視聴させ、知識・技能の定着を図るようにしましょよう。

「未来への一歩」の活用

「未来への一歩」は単元で学習する問題を難易度別に配列しています。繰り返し活用することで、知識・技能の定着を図ることができます。



ポイント

補充学習中は、学習支援員（サポーター）を活用するなど、個別指導を充実させ、「わかる」「できる」喜びを実感させることが大切です。

動画コンテンツを様々な場面で活用する

個人の家庭学習等で
 学校の放課後学習等で

予習で



次時に学習する内容を視聴させ、わかったこと、わからなかったことをノートに記入させておくことで、課題意識をもって授業に参加させることができます。

復習で



本時の学習内容の類題（副教材のドリル等で可）を宿題として課すとともに、動画を視聴させることで、より知識・技能の定着を図ることができます。

研修で



若年教員研修において、動画コンテンツを活用した授業研修を実施することで、よきモデルとしての基礎的・基本的な授業展開等について学ぶことができます。

また、英語動画「MENTAI ENGLISH FUKUOKA」では、4技能を統合した学習活動の具体について、効果的・効率的に学ぶことができるので、校内の教科部会だけでなく、教科等研究会の研修でも役立ちます。

教師の指導力向上にも役立ちます！





家庭学習サポート情報 ③ 10分の学び(10min. study: テンスタ)

<動画コンテンツ「算数・数学」編>



～ Step to the Future ～

各家庭等での学習（「算数・数学」）を支援する動画コンテンツ
「Step to the Future」を活用して学習してみよう！

各種検索エンジンで
「福岡県 義務教育課」



検索 ふくおかけん ぎむきょういくか
福岡県 義務教育課

YouTube で **クリック!**
「福岡県学習支援動画チャンネル」
と検索してみよう！



検索 ふくおかけんがくしゅうしえんどうが
福岡県学習支援動画チャンネル

福岡県学習支援動画チャンネル
(小学1年生～中学3年生)
Step to the Future
～10分の学び(テンスタ)～



小学1年生



「かずとすうじ」

10までのかずについて、まなびます（ぜんぶで10回）。

小学2年生



「時ごとと時間」 「たし算とひき算」

時ごとのいいかたや、たし算とひき算について学びます（ぜん7回）。

小学3年生



「わり算」

同じ数ずつ分けることについて学びます（全9回）。

小学4年生



「わり算」

1けたでわるわり算の筆算について学びます（全8回）。

小学5年生



「体積」

直方体や立方体などの体積について学びます（全7回）。

小学6年生



「対称な図形」

線対称や点対称など、対称な図形について学びます（全9回）。

中学1年生



「正の数・負の数」

0より小さい数（負の数）などについて学びます（全20回）。

中学2年生



「文字式の計算」

文字式の計算について学びます（全12回）。

中学3年生



「式の展開と因数分解」

文字式の計算についてさらに詳しく学びます（全18回）。

よりよい家庭学習かていがくしゅうにするために

次のステップつぎで学習がくしゅうしてみましょう

1 「家庭学習ノート」ようい ひづけを用意する（日付などを書くことよい）。



2 インターネット（見たいコンテンツ）にアクセス



3 動画とうがを見て、動画と同じようにノートにまとめる。



4 動画の問題や、未来への一歩、教科書の問題を解く。



5 答え合わせをして、間違まちがった問題の解説かいせつを読んだり、やり直しをしたいする。



6 ノートを見せながら、だれかに内容を伝えつたしましょう。
（「だれかに伝える」とより理解りかいが深ふかまります）

⚠ インターネットなどを利用りようするときは、以下いかの点に注意ちゅういしましょう。

- 見てみたいコンテンツは、必ず家庭で相談してから利用しましょう。
- このチラシでは、無料で利用できるコンテンツを紹介していますが、万一、お金がかかりそうな場合はすぐに見るのをやめてください。
- 見る時間を決めて長い時間は見ないようにしましょう。





家庭学習サポート情報 Step to the Future
 <動画コンテンツ「中学校 外国語」編>
 ~ Mentai English Fukuoka ~



各家庭等での学習（「中学校 外国語」）を支援する動画コンテンツ
 「Mentai English Fukuoka」を活用して学習してみよう！

各種検索エンジンで
 「福岡県 義務教育課」



検索 ふくおかけん ぎむきょういくか
 福岡県 義務教育課

YouTube で **クリック!**
 「福岡県学習支援動画チャンネル」



検索 ふくおかけんがくしゅうしえんどうが
 福岡県学習支援動画チャンネル

と検索してみよう！

福岡県学習支援動画チャンネル
 （中学1年生～中学3年生）

Mentai English Fukuoka



いろいろな場面で使う表現を学習し、
 ALTとの仮想対話で英語力アップ！

中学1年生



- ① Be 動詞・一般動詞
 （1人称・2人称）
 「友だちをお昼ご飯に誘ってみよう」
- ② 疑問詞
 「どちらのイベントに行くか
 二人で話し合って決めよう」
- ③ 一般動詞（3人称）
 「友だちを紹介しよう」
- ④ 過去形
 「今日食べたお昼ご飯について
 たずねよう」
- ⑤ 未来形
 「今週末することについて伝え
 合おう」



中学2年生



- ① 現在進行形
 「電話で友だちを野球に
 誘おう」
- ② 不定詞
 「暇なときに何がしたいか
 について伝え合おう」
- ③ 比較級・最上級
 「二つのものを比べて、どちら
 がいいかを伝え合おう」
- ④ 受動態
 「おすすめの本を紹介
 しよう」



中学3年生



- ① 現在完了形
 「学校のイベントについて
 ALTに伝えよう」
- ② SVOC
 「自分を～な気持ちにさ
 せるものについて伝え
 よう」
- ③ 分詞の後置修飾
 「夏休みに都会で過ごすか
 田舎で過ごすかどちらがい
 いかについてALTと話そう」
- ④ 関係代名詞
 「福岡のおすすめの場所を
 紹介しよう」



よりよい家庭学習かていがくしゅうにするために

次のステップつぎで学習がくしゅうしてみましょう

1 「学習プリント（又はノート）」を用意しましょう。

2 インターネット（見たい動画）を開きましょう。

3 対話がどんな場面かを考えながら視聴しましょう。

4 めんたい先生になりきってALTと対話をしましょう。

5 めんたい先生のセリフを自分の言葉に変えて、ALTと対話をしましょう（考えたいときは動画を一時停止しましょう）。

6 自分が伝えた内容を学習プリント（又はノート）に書いて整理しましょう。

7 学習のまとめを視聴し、ノートに書いて整理しましょう。

⚠ インターネットなどを利用するときは、以下の点ちゅういに注意ちゅういしましょう。

- 見てみたいコンテンツは、必ず家庭で相談そうだんしてから利用りようしましょう。
- このチラシでは、無料で利用りようできるコンテンツしょうかいを紹介していますが、万一、お金がかかりそうな場合はすぐに見るのをやめてください。
- 見る時間を決めて長い時間は見ないようにしましょう。



第4章 まとめと今後の方向性

これまでの学力調査の結果分析から、本県の児童生徒の学力状況は、小学校では上昇傾向が継続し、中学校も徐々に改善してきている。

しかし、小学校で伸ばした学力を中学校段階で十分に伸ばすことができていないこと、地区間の差や学校間の差が大きいことは依然として課題である。

これらの課題の解決に向けて、次の3点から学力向上の取組を一層推進する必要があると考える。

■ 質の高い「授業改善」を進めること

学力向上の取組の本質は、「授業改善」にある。各学校においては、児童生徒の学力の状況と教員の学習指導の課題を明らかにし、改善の方向性を全職員で明確にして、一体感を持って取り組むことが重要である。

また、今年度中に整備される1人1台端末、高速通信環境等、ICTを効果的に活用した授業改善に組織的・計画的に取り組むことが重要である。

そのことにより、学習指導要領の目標と内容を踏まえた児童生徒一人一人の能力や適性に応じた学習指導を行い、その学習状況を的確に把握して指導に生かすことができ、誰一人取り残さない教育が充実できると考える。

■ 教員一人一人の授業力向上のための「人材育成」を図ること

学力向上には、教員一人一人の学習指導力の向上が不可欠である。各学校では、校長が教員育成指標をもとに、教員一人一人の授業構想力等の学習指導や評価の力を的確に把握し、それぞれの教員にどのような資質・能力を身に付けさせるのかを明確にし、校内OJTの組織的な取組等により、計画的に育成することが重要である。

■ 管理職による「学校のマネジメント」をさらに充実させること

学校のトップリーダーである校長のリーダーシップとマネジメントにより、全職員が一体感を持って学力向上に取り組む学校文化を育んでいくことが重要である。

そのためには、各学校の検証改善サイクルを確かなものにするとともに、市町村内や中学校区内の小中学校が、児童生徒の学力状況を全職員で分析・共有し、その改善に向けて、小中9年間を通した授業改善の取組を推進していく必要がある。

これらを踏まえ、次年度は、「日常的・組織的な『授業改善』による学力向上」を進めるために、市町村教育委員会及び学校が、次ページに示す取組を進めることができるよう、県教育委員会として、必要な支援を行っていく。

日常的・組織的な『授業改善』による学力向上

「目標と指導と評価の一体化」の実現

- 各教科等で育成を目指す資質・能力を踏まえた「主眼」「めあて」「まとめ」「振り返り」の明確化
- 新しい学習評価に対応した評価規準に基づく指導と評価の充実
- 児童生徒による授業評価の実施と活用
- 高校入試問題を活用した授業づくりの推進

【学力向上推進拠点校指定事業】

【学力向上推進強化市町村指定事業】

【授業チャェックリスト】 【「未来への架け橋」】

思考力・判断力・表現力等の育成

- 「書くこと（問題発見、問題解決、振り返り）」を重視した授業改善
- 各教科等の見方・考え方を働かせた問題解決的な学習の充実
- 学力調査結果を踏まえた「指導資料」の活用
- 活用力を見取る定期考査問題の作成

【「主体的・対話的で深い学び」授業実践講座】

【学力調査結果を踏まえた指導資料】

【学力向上推進拠点校指定事業】

ICTの効果的な活用

- 教員のICT機器操作技術及び活用力の育成
- 児童生徒のICT機器操作技術（タイピングスキル等）の育成
- ICTを活用した授業研修の充実
- 効果的活用を図るための推進体制づくり

【ICT活用指導力に応じた教員研修】

【学力向上推進拠点校指定事業】

【重点課題研究指定・委嘱事業】

授業づくり

人材育成

学校の中核となるミドル・リーダーの育成

- 中核となる教員のカリキュラム・マネジメント力の育成
- 専門性を備えた教科指導リーダーの育成
- ミドルリーダー育成のための意図的・計画的な校務分掌の位置付け

【福岡県地区間交流研修】【コア・ティーチャー指導力向上講座】【学力向上推進拠点校指定事業】

授業実践力のある若年教員の育成

- 授業チャェックリスト等を活用した計画的な指導力向上
- 管理職等による意図的・計画的な教室訪問と校内OJTの充実

【ふくおか若年教員育成事業】 【クラスター非常勤講師派遣事業】

マネジメント

管理職のリーダーシップによる学校マネジメントの充実

- 教育課程の編成、実施、評価の適切な管理
- 9年間の系統性を踏まえた学力向上プランに基づく検証改善サイクルの確立

【教育課程実施状況調査】 【学力向上検証改善実態調査】 【管理職研修】

【福岡県地区間交流研修】 【学力向上プラン】

小中一貫した学習の基盤づくりの充実

- 中学校区で一貫した学習・生活指導の徹底
- 非認知的能力を育成する取組の充実

【「未来への一歩」】 【「鍛ほめ福岡メソッド」】 【学力向上プラン】

■ 報告書作成・活用についての基本的な考え方

この報告書は、全国学力・学習状況調査及び福岡県学力調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であることや学校における教育活動の一側面であることを踏まえています。

※ Webページへの掲載

本報告書は、次のWebページで閲覧することができます。

① 福岡県庁ホームページ

URL : <https://www.pref.fukuoka.lg.jp/life/5/41/184/>

(トップページ→教育・文化・スポーツ→学校教育→義務教育→一般情報)

② 福岡県教育庁教育振興部義務教育課各種資料のページ

URL : <http://gimu.fku.ed.jp>